青

韜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第三週年紀念號內容

個人主義と家庭（論文）		一	岩野清
母權（エレンケイ）		七	らいてう譯
手兒奈（劇曲）		三三	長谷川時雨
紫玉（飜譯）	ブンブシエスキイ	四六	瀬沼夏葉譯
獵人（飜譯）	オリブ・シユライネル	五一	山田わか譯
下田歌子女史へ（評論）		六四	野枝
ゆくものよ（歌）		七二	川田よし
不平（歌）		七五	岩淵百合
微風（歌）		七六	三ケ島葭
未練（歌）		八〇	齋賀琴

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

待ち佗び（小說） 八一 林千歳
ゐかきの家（小說） 九〇 小林哥津
遺書の一部より（小說） 一〇四 野枝
ソニヤ・コヴレフスキイ（アン・シャロット・レフラー） 一一二 野上瀰生子譯
山と海と（日記） 一三〇 川田よし
嫉妬の意識（日記） 一三九 生田花世
安河內警保局長の意見について 一五〇 岩野清
新しい女のために（感想） 一五三 上野葉
最近の感想（三週年に際して） 一五九 らいてう
嘉悅女史の西洋の履物について 一六九 房枝
牡丹刷毛を讀んで 一七一 哥津
編輯室より
表紙（自書自刻） 奥村博

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

個人主義と家庭

——岩野清——

個人主義と云ふ文字は、現代では決して目新らしい文字ではない。それだけに又各人各様の意味に解釋されてゐる。或者は排他主義非國家主義だと思つてゐる。或者は又理性も省察もない單なる利己主義だと思つてゐる。然しながら、少なくとも私一箇の主張してゐる個人主義の內容は、單なる排他主義非國家主義ではない。まして盲目的な利己主義では尙更ない。私の云ふ個人主義の內容を說明的に解剖すれば、自己の生活に虛僞、手段を排して、正直に眞劍に自己を取扱つて行かうとする考へを基礎に置いたものを指すのである。沒我的家族主義が自己と云ふものを粗末に、つまり自己を忘れ、自己を輕く見ることを美德としてゐるのが、自己に對して不眞面目、不忠實になることであるからである。個人主義は、さう云ふ不忠實不眞面目を排して、自己を生かすことに、眞劍に眞面目に努力すると云ふ意味から出た家族主義に對して起つた文字なのである。

かう云へば短見者流は、それだから排他主義だ。利己主義ではないか、と云ふかもしれ

ない。然しそれは考への及ばない淺墓な斷定である。人間がまつたくの只一人で生存することが出來ないのは明白な事實である限り、自分以外の人間の生存をも必要とすることは云ふまでもない。更に又人間社會が各個人の集合生活を必要とする以上、各人の便利、共通の平安を保つために、國家と云ふ衆人の統一をはかる形式も亦必要なことは云ふまでもない。然し其家族主義者と異なる所以は、家族主義者等が各個人のための國家であるべき本來の目的を忘れて、國家のための我々であると誤想するのを、個人主者は究極まで箇人あつての、即箇人のための國家だと見てゐるのとの相違である。

これを一つの家庭にあてはめてみれば、家庭生活は各箇人相互の便利（かう云へば或は誤解をまねき安いが、ここに云ふ便利とは一般的に用ひられてゐる意味より、もつと切實なものである。）のための集合でなければならない。もし其家庭生活が、各個人の本來の自由と權利とを壓迫する場合、既に家庭と云ふ形式は其箇人にとつて必要のない荷厄介なものになる。かうなつた時其箇人が、其家庭を捨て、或は破壞するのは餘儀ない、否むしろ正當な權利である。要するに家庭は箇人各のための家庭であつて、決して家庭のための箇人ではない。

から云ふ見方から夫を見、妻を見、子を見ると人生はどうしても孤獨である。只此孤獨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の淋しさに慰安を與へるものは唯一の愛である。家族相互の接觸點は愛によつての外統一の道はない。さうしてそれ以外の點に於ては、家族相互に各人の自由と權利とを認容し、相互に生きやうとする道に進むことである。

親も夫婦も子も各生きた魂をもつた一個人である以上、我れと云ふものを我以外に求めるのは、手中の雀を捨てゝ、空の雲雀を得やうとするやうなものである。自分と別な箇體の別なる精靈をもつた夫なり妻なり子なりに、自分の再現を望みながら、主體たる自我の充實に力を盡さないのは、結局何者をもつかみ得なくなるもとである。尙現實につかんでゐる雀をすてゝ、空の雲雀を追ふの愚と同じ事である。

現代のすべての家庭に於て波瀾の起つて來た所以は、おぼろげながら各人各箇に自我の獨立性を自覺しつゝあるからである。どんな人間にも大なり小なり所有してゐる個性を、親、或は夫の個性の中に埋められ、其發達自由を壓迫されるのに堪えなくなつたからである。新舊思想の衝突はかうして若い靑年男女の、家庭を呪ふ聲となり、舊道德の破壞となつたのである。

私はこの時代思潮を、各人の自覺を促すための道程で慶賀すべき傾向だと思つてゐる。子は親にそむき、妻は夫にそむき、自分以外に自分のないことをしみ〴〵と味ひ覺つて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自我の生を充實することが、自分として最も神聖な事業であることを切實に感知するまでにならなければだめだと思ふ。

さうして後、個人主義を基礎とした新らたなる家庭が造られるであらう。個性の尊重が認められ、犧牲、服從と云ふやうな義務的な理由のない行爲を壓しつけられることなく、相互の理解と同情とによつて能動的に相またげないやうになる。

だから私は思ふ。自覺した後の新人によつて作られる家庭の組織は、個人主義を根底としたものでなければ安住できない。理智あり自我ある人を肯定せしむる家庭の組織は、個人主義の外にない、と。

然しさう云ふ個人主義的家庭は、通俗な意味の幸福をもたらすものではない。人生の孤獨であることとは、たとへ夫婦の間柄でも、愛の力を以てしても動かすことは出來ない。夫は夫であり、妻は妻で各別な個人である。人間の愛が永久不變であると保證出來ないことを知つてゐるものには、夫なり妻なりの愛を、たるみなく引きつけて置かなければならない不斷の努力、不安は相愛するものの間程猶更多くあるのである。

だから相愛の夫婦にしても、絕對の安心と云ふものはない。さうしてどこまでも不安と孤獨の感から離れる時はないものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然しさうだからと云つて、この孤獨の淋しみから遁れるために、强て人生にイリウジヨンの衣を着せて、理智の目をふさいで安價な幸福にたよつてゐることは、少なくとも自己にめさめてゐるものには出來ない。

だからたとへ悲痛であつても、不安であらうとも、我々は合理的に肯定できる生活をする外はない。それには只自我に賴り、自我を充實せしむる、個人主義をとらなければならない。若しも家庭を組織する場合には、同じ主義の下にきづかれたる個人主義の家庭でなければならない。

世間には、自我を確立させる事は、直ちに他の生存を否定する事だ、と思つてゐる人もある。然したとへ家庭内にしても、各人が孤立を犯さない限り、家族相互の接觸する利害はさうしばしば起るものではない。子は子の生きる道に進ませ、夫は夫の生きんとする道に行き、妻は妻の生きる道をとる。各自自分によつて自分を求めて行けば理由のない衝突はさけることが出來る。國家に對してもさうである。然し、若し他をたふさなければ自分がたふれると云ふやうな場合に不幸にして遭遇するとすれば、勿論他のために自分の存在を捨てることはしない。かう云ふ時になつて始めて排他の行動をとるのである。それは丁度世界に獨立した國家が幾ら存立してゐても、利害の衝突しない場合に於ては國是を進展

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しながら平和を保持して何の障りもない。然し自分の國家が他の國家から損害を受ける事になれば、他の國家をたふすために戰をしなければ止まないのと同樣である。

然し國家が常住不斷戰爭をする必要のない如く、個人としても常住不斷、他の生存を排し或は敵とした態度をもつてゐなければならないとは云へない。常に他を排してゐなければ自我をちゞめられると思ふのは、自我と云ふものを、偏狹に小さく考へた短見者流の淺薄な斷定である。

結局私の信じ行つてゐる個人主義は、自我の發展充實につとめると同時に、自我をさまたげない範圍の他の人間の行動に對して壓迫干渉を與へないと云ふ意味なのである。

（大正三、九、二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母權――エレン・ケイ――

近代社會に於ける生産の方法が、次第に婦人の家庭的努力を直接の消費に制限するに反し、古代に於ては彼女が家庭に於て消費せらるゝ物品の大部分をも生産したと云ふことは何人もよく知る所である。また婦人運動に最も深き影響を與へた原因は一個の人間として要求する婦人參政權の主張ではなく、先つ第一に彼女が如何にして最早家庭中に要求せられざる彼女の勞働力に對して仕事を發見し、而して生産狀態の變化が促せる家庭外の獨立を如何に維持し得るやと云ふ問題であると云ふことを見ることが出來る。

社會の種々なる方面に絕えず增加し行く關係を通じて、婦人の職業は勞働市場のそれ等より更に深き影響を他の方面に及ぼした。兩性間の競爭は男女の爲めにかの劣等なる勞働狀態を生じた、それは通常勞働市場の過剩であつて、その結果賃銀の低廉、時間の延長、就職の不安となつて現はれたのである。結婚の可能性は夫婦兩人のパン勞働に從屬するようになつた。かれ等の夫によつて半ば維持せらるゝ既婚婦人等はかれ等の補助的所得に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よつて獨立せる未婚者の賃銀を減少した、そしてこれ等の人々が結婚した時、かれ等は家庭を顧みるべき慾望と技量とを缺き、懶惰の爲めかれ等が工場に於ける所得以上を消費する。妻子等が家庭外の職業に從事する結果、以前よりも多くの石婦を生じ、著しき幼死者を出し、殘存せる子供の身心を變質せしめる。そしてかくの如く荒廢せる家庭生活は飮酒、罪惡、不快に滿つるものとなる。

中等階級の間に在つてはまた兩性間の鬪爭が直接に男子の結婚機會を減じ、間接には結婚に對する兩性の慾望を減少した。

一方に偏することのみ、力を與へ得るものであると云ふ一見必然なる方則は婦人參政權の爭々たる運動者等を悉く左手利となし、以てかれ等の『主義』と關係あるあらゆる社會問題を取扱はしめた。かれ等は婦人の權力を職業にまで押し進めた、併しながらかれ等は同時に彼女等が仕事の狀態と結果とを見落した。婦人等は時代精神及び必要の結合せる動力に動かされて職業の種類、賃銀の如何を問はず探し求めた。中等階級の間に於ては、その結果として全然職業によつて自活すべき必要にせまられざる多くの處女を驅つて眞に自活の必要に迫れる婦人の勞働狀態を沮喪せしめた。かくして後者は健康と道德とに危險なる最小賃金に餘義なく甘じなければならない。また一方家庭に生活せる少女等は次第に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

増進し行くかれ等の要求を滿足せしむることが出來た。そしてこれが結婚の場合に於てかれ等に受け入れらるべき條件を提出することを愈々男子に取つて困難なるものとならしめた。

婦人の自己維持が結婚に於ける戀愛の上に今なほ深き影響を有してゐると云ふことは既に指摘せられた。『自から喜んで自己の生活に必要なるすべてを供へ得る』婦人のみ、彼女が愛する男子をして『自分は愛せられてゐると正しく彼自身に對して云はしむる』ことが出來ると瑞典の詩人アルムクイストが書いた時は、これを示したに他ならない。

併しながら何人も如何にして新しき社會的勢力があらゆる方面に働くか、また如何にして精神すらも必要に伴つて變化するものであるかと云ふことを豫め計り知ることは出來ない、それ故新しき要求や力が起るのである。今日に於ける青年の春的問題はこの不可能性の最も著しき證據の一つである。

勞働界に於ける男子に對する婦人の競爭は實際に於て兩性間の深き惡感情を惹起した、婦人は――よかれ、惡しかれ――自から價値低きものと感じてゐる、然るに男子はそれに反し婦人の低廉なる賃銀の要求が女子をして優勝者たらしめた時自から驅逐せられたるが如く考へる。併しながらこれはなほその事柄に關する外面的現象である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

男子が反抗するは新しき女―靈魂の變型―である。併しながら解放せられたる男性的婦人等はやがて消滅するであらう。故に吾人はかれ等を傍觀し、春的牽引の可能性を保存せんと努力する若き婦人をのみ眼中に置けばよいのである。

併しながらこれ等の婦人は從來婦人を無條件的服從として現はるゝ自然の如く、美しく、容易に理解せらるゝ自然の一片とした溫順と、均合と受容性とを失つた。男子が彼の愛する婦人の所へ、困憊、疲勞、失望を抱いて來た時に、彼は婦人によつて、清涼なる波に身心を洗はれ、靜かなる森の中に平和を發見せるが如く感じた。今日に於てはそれに反し、婦人は不安と苦痛と疲勞とにやつれ、男子の面前に現はれる。彼女の繪畫は拒絶された、彼女の書物は誤解せられる、彼女の仕事は濫用せられる、彼女の試驗が準備されなければならなかつた……常に彼女のである！ すべてこれが男子をして彼女を混亂して、接近し難きものと思はしめ、誤解に陷らしめる。よし彼女が男子に對するやさしき心情を保存するも彼女は既に彼女の彈力を失つてゐる。彼女は彼女の勞働狀態を選ばない、彼女は若しその仕事を繼續せんと欲するならば餘義なく過度の勞働に從事しなければならない。併しながら戀愛は――既に述べたるが如く――平和を要求する、戀愛は夢みる。戀愛は吾人の時間と人格の殘物では生活することが出來ない。かくして戀愛の價値は――すべて他の人格的

價値の如く——人間のあらゆる活力を涸喝し、人々をして生活理想の意義をも忘却せしむる近代勞働狀態の下に呻吟する。かくして現代の人々は全く戀愛より除外せられる、それは單に結婚に於て戀愛を實現することが出來ないばかりでなく、それを充分味ふことさへも出來ない。

これ等の過勞せる若き婦人等はかれ等の外貌と態度にかれ等の愛嬌を保存する機會をさへ持たない。これは今日に於てただ上流婦人の自覺ある服裝、及び娼婦によつて現はされてゐる、しかも娼婦は野の百合の價値ある譬喩を現はさんとするよりは寧ろ勉めて華美ならんとする顧客に對する義務に他ならない。併しながら今でさへかれ等自身の醉ふか如き美しさに對するこの崇拜を捨てることが出來る婦人は殆んどないと云つてよいであらう、そしてそれに對する權利と猶豫とを感じてゐるものは更に少ないのであらう。婦人等が職業界に携はれば携はるほど、それだけかれ等は愈々完全なる形式の理想に遠ざかり益々理想的人格を離れる。併しながら、この運動は、新らしき形式の創造せられるまでは不安なる形を包むであらう。そして男子は現代の若き試驗的婦人が一般に缺いてゐる女性的感覺力の確實、輕快、平靜を確かに愛するのである。併しながら吾人は既に一種の若き新婦人に出遇つてゐる、彼女は極端に働きもしなければまた特別な魅力をも有してゐない、併しな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

から同時に活潑にして美しき女性の問題を解決しつゝある。

かくして青年はかれ等の申し出す戀愛に對して若き婦人が全く獨立的態度を取り、かれ等のさまざまに秤價せらるゝを感じ、非常な缺乏を發見した、あらゆる闘爭中の最も深きものがこゝに橫はつてゐるのである。婦人が經濟的獨立の能力を得た結果として、かの詩人アルムキストが希望せるが如く男子をして彼れ自身が愛せられたと信ずる更に大なる機會を與へた、併し同時にかくの如き機會は稀れになつたのである。

我々は現代の娘等の中に女子の元始的二重性格を新しく表現せる二個の群を見る。

一方の群に取つて子供は戀愛の直接目的ではない。そして子供は戀愛の到達に對するすべての方法を潔めることは出來ない。若しかくの如き婦人が母態を有せずして、彼女の夢想せるが如き偉大なる戀愛を鼓吹すべきか、或は些少の戀愛によつて母となるべきか、二者の孰れをか選ばなければならない時、彼女は何等の躊躇なく前者を選ぶであらう。そして若し彼女が戀愛に於て充實せる自己意識に到達せずして母となれる場合、彼女はそれを以て自から墮落したと感ずる。何故なら子供も結婚も戀愛も彼女に取つて充分なものではない、唯だ偉大なる戀愛のみ彼女を滿足させる。

これが女性動物の情緒界より人間女性のそれに接近せる間に女子の取れる最も重要な階

梯である。そして——この靈性の態度が個人の爲めに如何ほど大なる苦痛を包むにせよ——深き洞察力を有する人は何人もこれを以て人生の眞路であると斷言するを憚らないであらう。

併しながらこれは一方かの結婚をも、亦甚しきは戀愛をすら無視して母態の自由を要求しつゝある婦人の道とは一致しないであらう。

勞働による婦人の獨立によつて、男子が女子より受くる愛の自覺を確立せんと希望せる人々は婦人の從屬性と婦人生活の基調とを無視した。この自然によつて創造せられたる從屬性は今なほ多くの獨立婦人を驅りて戀愛なき結婚に赴かしめる。そしてそれはまた結婚によらずしてかれ等の獨立を維持せんと欲する婦人をして、結婚によらざる母の幸福に到達せんとする慾望を起さしめる。自己を通じ、自己と自己の爲めに生きんとする新しき女の意志は彼女が男子を以て單に子供に對する手段に過ぎずと見做し始むる時行きつまるのである。如何にも女子は數千年來手段として取扱はれたる自己の爲めにこれ以上安全な復讐をすることは出來ないであらう。

併しながら女子のこの復讐に對する欲望が永くその形を止めざらんことを我々は希望しなければならない。女子が手段として墮落せることは男子及び彼女自身の發達を阻害した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

併しながら同一なる男子の墮落がまた同一なる結果を生ずるであらう、そして子供等は曾て男子が女子を過せるが如く女子が男子を濫用することによつて苦痛を與へらるゝであらう。

子供はそれ自身一個の目的でなければならない。子供は本來戀愛を要求する、子供は父より遺傳せる性質に對する愛の理解をその母のうちに要求する、そしてかの豫期せざる或は歡迎せざる要素の驚異せる冷淡、もしくは怨恨をではない。婦人にして子供の血を愛さないものは必ず何等かによつてその子供を害するであらう——少なくとも彼女が子供を愛する方法に於て。子供は兄弟姉妹を必要とする、そして最もやさしき母親の愛と雖もこれに代ることは出來ない。そして子供は父が子供の愛を必要とするが如く、父の愛を必要とする。子供等が兩親の結婚如何に關せず、屢々生死を通じてかれ等の父若しく兄弟姉妹を失ふことは多くの場合少なくとも避け難き事實である。併しながら充分なる智識と目的とを有する婦人が愛によつて生命を得るの權利を子供より奪ひ、父の愛情の可能性を豫め除外すると云ふは一種の利己主義であつて、やがてそれ自身の報酬を受けなければならないであらう。結婚によらざる母權は戀愛なき母權と同一に見做すことは出來ない。また戀愛を感せずして自由關係に自己を委するは結婚に於けるが如く同じく墮落である。孰れの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

場合に於ても人はその子供をひそかにし、それによつて子供が人生に入り込むに當つて最上の狀態を享樂せることを立派に斷言するの權利を失ふことが出來る。戀愛は——それは絕えず繰り返へされなければならない——未來を望んで、瞬間を望まない。戀愛が結合を欲するのは、單に新しき存在を形造らんとするばかりでなく、二個の男女が相互を通じて、かれ等自身よりも新しく偉大なる人間の爲めに盡さんが爲めである。女子は彼女が結婚に對する適合に於て誤られるかも知れないやうに、この戀愛に於て誤られるかも知れない。彼女は愛することに於て先づこれ等のことを經驗する。もし彼女が彼女の切愛を置き違へたなら、その時彼女はその誤謬を結婚中に隱すことによつて救はれないであらう。併しながら彼女が豫め共棲の念なき男より子供を受取るならば、これこそ最も深き意味に於て私生兒を有することである。併しながらこれはそれにも拘らず『未來のマドンナ』は母の幸福を得るべきであると考ふる多くの婦人の取る方法である。

*　*　*　*　*

仕事は常に力の發展である、そして仕事が我々の個々の力を働かせれば働かすほど、それはより多くの幸福を與へるであらう。古き問答敎示書の如何なる部分も勞働の祝福に關して、新しき敎示書中に略さるゝもの以上の價値を有してはゐない。すべてはぐゝみ育て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

られたる正しき勞作の道は、正しく古き言葉が刻まるゝ一里塚を所々に有して居る。たとへは、『健康』、『安寧』、『逆境に際する慰籍』或は生の價値を疑ふ『罪に陷る豫防』等の如き言葉がそれがある。

併しながら勞作によつてすべてこれらのものを與へられたる人は、自己の技能に從つてかれ等の勞作を撰擇し得ず、自己の精力に從がつてかれ等の勞働時間を比例し得ざる婦人の勞働を呪ふべき、より大なる理由を有してゐる。勞役の途上に前進する群集は次第にその數を增加する、そしてかれらの行路に立てる一里塚には、不健康、明日に對する不安、不愉快、靈魂の昏睡、日蔭に榮ゆる罪惡、わけても人生を無意味なりとして呪咀する言葉が刻まれてゐる。

他の人々にとつて、勞働はまた現代に於て飲酒、罪惡、迷信を意味するようになつて來た。勞働は男女を無法に、空虛に、强情に、不安にした。それはまた人々の爲に、悲哀、戀愛、家庭、自然、美、書物、平和の如き殘存せる人生の寶を破壞した、勞働と自由及び歡喜に關する立派なる言葉は事實勞働の奴隷と勞苦とを意味するもの　、現代が充分經驗する唯一の艱難である。

この虐殺的勞働に對する無考へなる讃歌を以て、社會は神聖なる青春を空しく凋落せし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

めて平然としてゐる——數千年前に於て古代の都市はかれ等の『神聖なる青春』を送つて新しき土地を開かしめ、人々の爲めに新しき住居を建築せしめたではないか。

個人の損失がすべての貧困を意味すると同時にまた健康と力の減殺をも意味してゐる。如何なるものもそれを改善せんとする慾望なしにはよりよくせられざるが如く、賤劣なる意識的苦役に對する飢餓的賃銀は最早若き婦人等の心中に感謝の念を起し得ざるは、明かに時代の健全なる徵候である。これ等の若き婦人等はかれ等自身の性質が又凌辱せられつゝあることを知つてゐる。そこにまた女性中には智識と活動以外に壓服せられたる力があつて、職業も市民權も到底この蹂躪せられたる幸福を償ふことは出來ない。

若き人々のかくの如き絕望に慰安を與へんとする思慮ある人の義務とは全く異なれる方法を以て、我々はかれ等の日常の些々たる滿足、溫和なる忍從をかれ等より奪取することによつて、始めてかれ等に對する最上の義務を果すことが出來るであらう。なぜなら覺醒せる苦痛、生ける慾望のみ、人生の法則及び發達が今なほ必然に性の關係中に包含せるそれ等のものに對して、無意味なる苦痛を與へ、生を敵視する現代の社會制度に對する革命的勢力となることが出來るからである。

* * * * *

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

職業を發見し得ずして幽閉せられたるあらゆる勢力は頽廢する恐れがある。そして現代は春的勢力の壓伏を以て婦人の間にさへかくの如き變質の徵候を示してゐる。

故に戀愛より除外せられたる人々がかれ等の健康を保存し、かれ等の生活を豐富にせんが爲め、すべての人が意のまゝに享樂し得る快樂の源泉を求める時、それが必然の自己肯定となる。無味なる職業に束縛せらるゝ人さへ、時に無限なる科學界の瞥見を感ずることが出來る。凡そ如何なる種類の職業を問はず、それには必ず個人的技能の進歩が供なつてゐる、そしてそれによつてまた職人としての自己の技量、高められたる人格に對する威厳を感ずるのである。如何なる日にても美觀に對する多少の喜びを供はない日はない。また最も重苦しき悲哀の時を除いては、人間のあらゆる外界の勢力より獨立し、自から求めて發見し、萬事を省ずしてそれ自身を高揚する自己の靈魂の力と偉大とを感ずることの出來ない時はない。ヰクトル　ユーゴーが悲哀に沈める若き婦人に對して、

『あなたには靈魂がおありにはならないのですか』

と云つた言葉は人生に虐待せられたる凡ての人に對して話しかけられたのである。

そして人間が如何なる信仰、或は不信仰を抱けるにせよ、彼が絕對絕命の時にあたつて彼を救ふ最後の手段は彼れ自身の靈魂の價値を自覺するにある――そして實際他に何等救

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

濟の方法はないのである。

この意味に於て男子に於けるが如く女子に於ても、人間が彼女自身の目的であり、たとへ人生より他の何物をも得ざるにせよ、彼女が自己の靈魂に何等の障害をも及ぼさず、彼女の靈魂の力を增進し、彼女自身の個性を發見してそれを實現し得れば、そこに初めて彼女を完成することが出來ると云ふことは疑なき事實である。これのみ眞に自己の靈魂を救濟するものである。この意味に於て婦人の『天職』は男子と同樣に吾人の意志にのみ依らざる性的天職でないと云ふことは事實である。故にまたかくの如き天職を果さゞる男子を指して徒らに生存せるものと見做すことは出來ないのである。この意味に於てまた上述せる自己崇拜の感情と、男女の最高なる運命は戀愛ではなく、あらゆる地上の社會的考慮を超越せる永遠の生命であり、最高なる人間の現實は自己の裡にあり、人間の最高なる幸福は唯だ神性に向つて成長することが出來ると考ふる人々の感情の間に根本的類似がある。

併しながら生の形造に對する相異は測り難い。こゝに吾人はまた靈魂を超感覺的のものと信ずる二元論者と、靈魂を官能中に存在するものとなし、あらゆる地上の條件より獨立してその最高なる發展と幸福とに到達し得ると信ずる一元論者とに出遇ふのである。

後者の見解に從へば、男女はかれ等の靈魂の最も偉大なる情緒中にあつてすら、かれ等

の性的生活によつて決定せられる。性的情緒は英雄的行爲、及び殉難を夢みる青春時代に鼓動する。それ等はその當時目醒むる宗敎的要求の暖かき底流である。凡そ婦人にして目醒しき愛の活動を爲し、偉大なる基督敎的人格者となれる——かの瑞典の聖ブリジエツト、(St. Bridget of Sweden)、シエナの聖カザリン(St. Cathrine of Siena)、聖テレザ(St. Teresa)の如き——人々はかれ等の靈魂中に大戀愛の焰を有し、かれ等の血液は靈肉を以つて種族に仕へんとする慾望を以つて炎へてゐた。そしてそれ故にまた彼女の仁愛は他の多くの犧牲者が無毛の羊の如く凍死するに反してその中に情熱を有してゐた。

女子の根本的自我は、彼女が自己並に他人の爲めに偉大なる仕事を爲し得る前、先づ戀愛によつて引き出されなければならない。自己の存在が春的に空虛であつた婦人は眞に如何なるものが偉なる意味に於て人間的であるかと云ふことを發見することが極めて稀である。そして人生が普通の意味に於て彼女の春的存在發現の機會を拒んだ婦人はそれを以てあらゆる人生を抱括する一個のエロス神に化する、そのエロスは曾てプラトンがヂオチマをして彼を無限の微妙性の觸感と宣言せしめた時その直覺を得たものである。何故なら彼女の全性格が春的なるが故に、斯くして全存在より彼女の愛慾を滿足せしめ得る唯一の婦人ではあるまいか。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

併しながらこの宇宙一體觀は――接神家、神秘家、萬有神教論者、進化論者等が各自の立場より種々に論ずれど、畢竟感ずる所は同一であつて――畢竟、戀愛に於ける偉大なる幸福の賜物である。唯だ愛する者のみ神を知ると云ふ言葉はかくの如き愛に對してのみ始めて誠である。それは我々が生き、動き、我々の存在を有する全宇宙の統一に對する偉大なる言葉である。神が人間を創造して地上に繁殖せしめたのではない、人間がさま〴〵なる仕事を以て地上を豐富ならしめたるが故に、かれ等が創造者の名稱を生に與へ、そして神々の形を模してかれ等自身の創造力を崇拜し、それによつてかれ等はまたかれ等の永遠性を夢見た。如何となれば豐饒と生產力とは、そのあらゆる形に於て人間の神聖なる部分である、何人もそれなくして生の宗敎の意義に於ける『神聖なる神との交通』、即ち換言すれば充實せるヒユマニテイに到達することは出來ない。その制限せられたる家族創造の形ちに於てすら、敎化（ヒユマニゼーション）の最も單純なる條件として、自我をそれ自身の制限以上に擴張することは誤りなき方法である。それは單にその人に生活の對象を與へるのみにして自我主義者を寬大なる人に變化することが出來る。この理由によつて戀愛が無數の人々の宗敎となつた、なぜならそれはかれ等を善良偉大ならしむる同一の力を有してゐる、而もそれはかれ等を幸福ならしむる數百倍の力を有してゐる。それ故すべて偉大にして美しき忍從は嘖

火口の傾斜地に作られたる葡萄畑の如く甘き慈愛を以て溢れつつある。

併しながら同時にまた自からの裡に存する豊饒なる情熱を消滅せる人々は一つの宥すべからざる生の聖靈に對する罪を犯したと云ふことは眞實である。これ等の婦人はかのレッシングが譬喩談中のペラの如き罪科を得た、かのペラはアイリスを地上に送つて戀愛の夢に汚されざる潔き有徳の三人の乙女を求めしめた。そしてアイリスは確かにかれ等を發見し得たが、オリンポスにかれ等を連れかへることが出來なかつた。なぜなら冥府の神が既にヘルメスをしてかれ等を幽界に連れ來たらしめ老朽せるフユリイ女神に代らしめんとした。

らいてう譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

手兒奈 ―時雨―

眞間の里の少女手兒奈
同じく眞奈
手兒奈の父
眞奈の兄
勝鹿の眞間の里人達
近き縣の主私部小室

黑き幕の外に下手に蘆荻の茂みがあつて、上手に眞間の井がある。

眞奈。かうやつて水を酌みながら、ゆつくり話の出來ることは珍らしいわね。男達が來なくなつたのは、あの事がわかつたからでせうよ。

手兒奈。私が縣主さまの夫人になるつていふことなの。どうしてさう思つてるのでせう。

眞奈。では、ならないつもりなの。

手兒奈。私はなるつもりも、ならないつもりもない。昨日はじめて、父様からきいたばかりですもの。

眞奈。手兒奈は幸福ものだと、みんな云つてゐますよ。

手兒奈。何故あたしが幸福者なの。

眞奈。だつて縣主さまの夫人になれば、この國では一番貴い方になるのでせう。その上に殿様はお美しいお優しいお方ではありませんか。それに、屹度あなたは

大切にされるに違ひないもの。

手兒奈。　それもさうね。

眞奈。　可哀さうに私の兄もがつかりしてゐますよ。

手兒奈。　縣主さまに見初められなければ、あたしはあなたの家の人になると思ふの。

眞奈。　兄はさう思つてゐたのでせうよ。

手兒奈。　みんなが各自にさう思ふのでせう。

眞奈。　みんなつて？

手兒奈。　眞奈の兄さんも、縣主さまも、それから私部の殿樣も。

眞奈。　あなたは如何思つてゐるの。

手兒奈。　私はどうも思つてゐない。だけれどもね、眞奈、今日は私部の殿樣がお通りにならなかつたわね。それとも私が氣がつかなかつたのかしら。でも、どんな時でもあの方の、馬の蹄の音を聞きそくなつたことはないのだけれど。

眞奈。　屹度あの話をお聞きになつたので、思ひきつてお出にならなくなつたのかも知れないわ。

手兒奈。　そんなことはないわ。縣主さまの夫人にされるつていふことは、私でさへ昨日聞いたばかりなのに、私部の殿樣がもうごぞんじの筈がない。それに私はまだ行くともどうとも定つてはしないのだから。

眞奈。　あの方もお隣りの御領主さまなの

だつてねえ。
手兒奈。やつぱりお若くつて、優しくつて、美しい方だわ。
眞奈。矢つ張り手兒奈は幸福ものだわ。
手兒奈。眞奈、あたしを幸福ものだと思ふの。あたしはね、御領主の殿樣がたを知らずに、眞奈の姉さんになる方が、私としては好いのかもしれないと思ふわ。けれどね、それはもう出來ないことになつたのだから。
眞奈。ぢや、やつぱり行くの、縣主さまのところへ。
手兒奈。いゝえ、私はきめやしない。
眞奈。それぢや私部の殿樣のところへゆく氣なの。
手兒奈。それも分らないの。
眞奈。なら、何故兄を悅ばせてやつてくれないの。
手兒奈。眞奈、あたしはどうしたつていふのだらう、私は自分の心をどうすることも出來なくなつたの。私はね、誰かに寄りかゝりたくなつたようなのだけれど誰が戀しいのだか分らないのだもの。笑つちやあいやよ。私は何だか悲しくなるような、くすぐつたいような、妙な氣がしてしようがないのだもの。誰でもいゝから、私をぎゆつと捉まへてしまつてくれゝば好いのだけれど、みんなが優しくしてくれて、丁寧にしてくれるだけだから、私はどうして好いのか知れないのだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わ。

眞奈。　ほんとは兄はどうしてあんな憶病ものなのだらう。だから私がさういつても、そんな事が出來るものかつて、顔をまつ赤にして逃げてしまつたのだもの。

手兒奈。　私はさう思ふの、どつちかの御領主さまが、眞奈に知れないやうに、眞奈を見初めてくだすつたら好いのにと思ふのよ。さうすれば、私は其方の方へゆくのにねえ。

眞奈。　そんなことの出來る手兒奈だと好いのだけれど、ね。

手兒奈。　ほゝ、當られてしまつた。だけれどもさうしたら苦しくないだらうとも思ふの。

眞奈。　そんなに苦しいの。

手兒奈。　思はれるよりも、思ふ方になるのが、屹度好いに違ひないわ。

眞奈。　さうかしら。

手兒奈。　この鏡は、いくら磨いてもはつきりとしない。ねえ眞奈、昨日この鏡を父が出してくだされたの、隨分古物(ふるもの)ね。

眞奈。　私にも見せてほしいな。

手兒奈。　ちつともよく寫りやしない。

眞奈。　手兒奈と私とは從姉同士なのに、私はどうしてこんな不器な量のだらう。それでも、かうやつて二人の顔をうつすと、どこか似てゐる氣のするのが嬉しい。あなたはさうは思はないの。え、え。

手兒奈。　だまつて、だまつて。――やつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と御出になつた。

眞奈。　誰が？　ああ、蹄の音がきこえる。まあ、嬉しさうだわねえ。

手兒奈。　嬉しいことはないけれど、何だか毎日お見えにならないと氣になるの。何日ごろからこんな風になつたのか、自分でも氣がつかなかつたほどよ。

眞奈。　私まで動悸がしてきたわ。　あら、音がしなくなつた。

手兒奈。　馬の息が聞える。――停まつてゐるようよ。

眞奈。　歩いていらつしやるのかも知れいわねえ。そんなことあつて？

手兒奈。　いゝえ、私達はまだはなしをしたこともないの。それでもよく知つてゐるのよ。

眞奈。　だまつてゐらつしやい。どうなさるのか見てゐようぢやありませんか。丁度こんなに暗くなつてゐるから。

私部小室が來る。二人の娘子の居るのに心づかずに一度行過ぎる。

眞奈。　あなたの手が熱くなつてゐますよ。そのくせ顫へてゐるようよ。

手兒奈。　（だまつてゐて、眞奈の手をとり、自分の頰にあてる。）

眞奈。　まあ熱てること。汗ばんでゐるのねえ。

手兒奈。　どうしたのか今日はきまりが惡くつてしようがないの。あの方は、私の噂をきいていらつしやるかしら。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞奈。お顔が見たいわ。私は御領主樣と見くらべたいと思ひますよ。

小室は四邊をたづねるよりにして來る。二人の話しを聞きつけて、

小室。そこにどなたかお出ですか。

眞奈。はい。

小室。つかぬことを伺ひますが、手兒奈を何處かでお見かけにはなりませんでしたか。

眞奈。ここに、眞奈と手兒奈がをります。

小室。ああ、そこにですか。――すこし手兒奈に用事があるのですが、私に言葉をかはしてくれますかどうか、あなたから聞いて頂ければ結構ですが。

眞奈。私がままをさないでも、殿樣のおつしやることなら、よろこんで聞くでございませう。

小室。あなたは、私が誰だか知つてゐるやうですね。

眞奈。ぞんじてをりますとも、私部の殿樣でいらつしやることは、手兒奈もぞんじてをります。

小室。(手兒奈に)あなたも知つてゐて下さるのですか。

手兒奈。よくぞんじあげてをります。里のものは、誰でも知つてをります。

小室。かつしかの眞奈の領の人は、みんな私を知つてゐるといふのですか。私がかうやつて、朝に夕に、眞間の里の繼橋や、眞間の井の此處らあたりをめぐつて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐるのを知つてゐるのですか。

眞奈。　手兒奈は、あなたのお乘になつた駒の足音を、どんな遠くからでも聞きつけます。

小室。　あなたは眞奈とかおつしやつたね。里の人は、いや里の人なんぞはどうでも好い、あなたは私が此處へ何を求めてくるのかわかりますか。

眞奈。　その御返事ならば、あたくしより手兒奈の方がよく知つてをります。

小室。　私は今日は、どうしても云はなくつてはならないことがあるので、すこし用事があつて遲くはなつたけれど來て見ました。今晩逢ふことが出來ないのならば私の望みは叶はぬものと、あきらめようと思つてゐたのです。あなたといふ、手兒奈の御友達がゐてくださつて、思ひの外の好い都合であつたのを、私は何といつて御禮をいつたらよいでせう。

眞奈。　さうおつしやりますと、あたくしはもつと御都合のよいようにしなければなりません。私は手兒奈の家の垣のところにゐて、氣をつけてをりませう。

小室。　どうかさうして下さい。もう長いことですから、今新らしく何にもいはないでも手兒奈は私の心持ちをよく酌んでくれてゐる筈です。たつた一言、私の運命を生かすか、殺すか、それを聞く間だけです。長いことはありません、少しの間お願ひします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞奈。　あなたに好いことのあるようにと祈つてをります。

小室。　ありがたう。手兒奈もあなたのような優しい、親切な少女だらうと思ひます。

手兒奈。（行きかける眞奈に）　眞奈。

眞間無言にて去る。新月が細く出る。

小室。　私はあなたの手から、水が貰へるでせうか。——ああ下さるか。私はも一つ、もつと大きなものが貰ひたい。もつと暖かいものが貰ひたい。それをあなたは下さるか、どうかはつきりと聞かせて下さい。

手兒奈。　今宵でなくつては、いけないのでございますか。

小室。　氣になる噂を聞いたから、私はどうしても今返事が聞きたいのです。

手兒奈。　賤しいものが、あなたの夫人になれませうか。

小室。　そんな言葉は聞きたくない。眞間の領主の夫人になれるものか、私の妻になれない譯はありますまい。私は今迄あなたに何事もいはなかつた。聲も聞いたことがなかつた。それでも私に許してゐてくれると思つてゐます。私の思違ひかも知れないが、私を見てくれる目、此優しい憶病らしい目が、お前の心持ちを私によく語つてゐるように思へた。いまかうやつて、突然こんなことを言出してもそんなに惡いことではないような氣がす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

るのだ。私はなんだか御前が、もう以前から心待ちにしてゐてくれはしないかとさへ思つてゐた。そんなに長い間遠くから眺めてゐて、今になつて急に返事をさせるのは無理だと怒るかもしれないが、今日といふ今日は、もう一刻も待つことが出來ないように戀しくなつたのです。あなたはこんなに思つてゐる私を捨てゝ他へゆきはしますまいね。約束をしてしまいはしまいね。手兒奈嘘らないといふ證據に、顔をあげて目を見せて貰ひたい。

手兒奈。　殿さま、私は今日隨分まつてをりました。夜も長いことこの井のそばにをりました。晝過ぎになつてからも幾度水を酌みにきましたでせう。薄暗くなつてからも、眞奈をつかまへて、用もない話をして見たり、こんな古い鏡をもつて來て磨いて見たりしてをりました。こんな鏡は、幾日かゝつて磨いても光るようにはなりはいたしません。

小室。　私を待つてゐてくれたのか。

手兒奈。　殿樣、私はこのごろ、ぢきに泣きたいような心持ちになります。さうかと思ふと、ふわ／＼と魂がぬけだしていつてしまうように、眠いようなはづかしいような、なんともいへない心持ちになります。

小室。　お前は此所の領主に返事をしやしまいね。

手兒奈。　私の體をしつかり掴まへてゐて

くれなければ、ふわ〳〵と誰の胸へでも飛んでいつてしまうような心持ちもいたします。其癖夜寐れは、屹度殿様のお顔を夢に見ます。水は朝早く起きてきて、誰も酌まない井の水にうつつた、自分の顔を見て笑ひますの。何故ならば、私の顔と重なつて、夢に見た方のお顔がさきへうつるのでございますもの。

小室。手兒奈！

手兒奈。あれ。

小室。手兒奈、手兒奈。――さあ。もう眞間の處女の手兒奈ではない。私部小室の妻の手兒奈だ。此品を受けておくれ。

手兒奈。…………。

小室。堪忍しておくれ、お前はあんまり不意だつたので驚いたのだらう。

手兒奈。…………。

小室。それとも、私の仕たことが惡かつたのだらうか。

手兒奈。此儘にしておいて下さい。この儘にして置て下さい。

小室。かうやつておかれはしない。さ、此帶をかけてあげたから、私の妻といふことを忘れないでおくれ。此帶は私より外に解くものはないのだよ。

手兒奈。何にも仰しやらないでゐて下さい。

小室。かあゆい奴。私の手兒奈、私の手兒奈。

手兒奈。殿様。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二人は抱擁したるままにてしばしゐる。

下手の蘆の茂みに船を上げて、手兒奈の父と眞奈の兄とが、船に積で來た、錦の卷物などの祝ものを持つて上つてくる。

父。其處に誰かゐるようだな、手兒奈か。

兄。眞奈ぢやないか。――違う、違う、知らない方だ。此處いらの人ではない、見たようだけれど土地のものぢやない。そうだ此方の殿樣の仇だ。

父。殿樣にそんなものがあるものか。殿樣にむかつてどうのかうのと云へる奴があるものか。强いが自慢の汝でさへ殿樣には腕立をしないで、どうやら思切つたな。

兄。思ひきるも何もない、自體手兒奈は私には愁くあたつてゐる。

父。はははは、お領主の夫人になる奴だけあつて、どうも氣位が高くつていけない。親の俺さへあれには親の威光で通せないことがある。

二人は通過る。

小室。手兒奈、お前はあの品を受けるつもりか。

手兒奈。あたしは知りませぬもの。

小室。知らないでは通るまい、どうする心なのだ。

手兒奈。父が受けたものなら、父に歸させませう。私はいつまでも此儘にしてゐたうござります。

小室。よく言つてくれた。だが、お前の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

父に難儀が懸りはしまいか。

手兒奈。　一時まへの私ならば、あの品々を受けて入れて、此帶を取らなかつたかも知れませぬ。その時あなたは、私の父をどうなさります。手兒奈をどうなさります。

小室。　手兒奈をとらへて其儘には出來ないかもしれないが、父を苦しめるようなそんな卑怯なことはしない。

手兒奈。　縣主様も大概(おほかた)さうであらうと思ひます。

小室。　其代り、私の手兒奈にもしもの事があつたら、私の此劔(つるぎ)が承知しない。私の胸の血がじつとさせてはおくまい。

手兒奈。　その劍に、さはらせて見せて下さりませ。

小室。　やがて近いうちに何もかも、身についたもの一切の世話をしてくれるのではないか。――また誰やら來た。手兒奈私の馬のあるところまで送つてきてくれぬか。二人してもすこし話をしよう。

手兒奈は小室に手をまかせて去る。眞奈と兄とが來る。

眞奈。　兄さん、そんなに鬱(ふさ)いで下さるな。だから私かいはないことか、私が言つた通りに手兒奈にいつて見ればよかつたのに。

兄。　俺にはそんなことは出來ないよ。

眞奈。　強いばかりで、ほんとに意氣地なしなのねえ。御領主様も、私部の殿様も、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

誰も知らないうちから思つてゐたくせに。

兄。なんていはれても仕方がないさ。

眞奈。ぢや、諦めたの！　さうぢやないでせう、諦めてゐれば男のくせに泣くものはないわねえ。

兄。俺は泣きはしないよ。

眞奈。泣きもしないでせうよ。怒りもしないでせうよ。だから意氣地なしだつていふのですよ、祝ものを貰つて來たお供をするなんて、私齒がゆい。

兄。俺は祝ものを受けにゆく手傳ひはしやしない。舟を賴まれて、何處からか載せてきたものを運んでやつただけだ。

眞奈。可哀さうにね、兄さん。よつぽど切ないの。

兄。俺ばかりぢやないよ。祝ものをよこした人もさうなるのだ。

眞奈。え？　ぢや手兒奈は？。

兄。俺はいま此處で二人がかうやつてゐるのを見た。

（兄、途に躊まつてしまふのを助けて、眞奈は去る。

紫ばんだ淺黄色の幕の外。眞奈は桶に入れた白布をもつて來る。異なつた方から手兒奈が來る。

手兒奈。眞奈、お早う。

眞奈。お早う。

手兒奈。なんといふよいふよいお天氣なの、早くつから田鶴(たづ)の啼く聲がしたわ。

眞奈。鴻の鳥もないてゐますよ。あなたはなんだか嬉しさうね。

手兒奈。眞奈はどうかしたの。こんな好い日に、そんな欝としさうな顔をしてゐる眞奈ぢやないのに。

眞奈。だつても、昨夜はよつぴて兄さんが呻吟いてゐたのですもの。御免なさいよ、折角よい心持ちのところをこんな事を聞かせて。

手兒奈。いいえ好いの。あたしは勝手ものなのね、昨夜は自分の嬉しいことが體中一ぱいだつたので、眞奈の兄さんのことをちつとも考へてあげなかつたわ。そのくせ私もよつぴで、よく寢やしなかつたのだけれど。

眞奈。夫人さまは美くしい帶をかけて、何處へお出でゝございますか。その帶は昨夜船でもつてきたのの中にあつたの。

手兒奈。船でもつて來たものは、まだゆふべ手もつけなければ見もしないわ。昨夜は父が醉うて寢てしまつた時分に、そつと歸つて寢たし、今朝はまだ父の目がさめないから。――これは私部の殿様からの贈りものなのよ。

眞奈。まあ。

手兒奈。私はこれからどうすると思つて?。人の見ないうちに繼橋の下から水を浴てくるつもりなのよ。そら、昨日夕方二人で話してゐた時に、あなたがさういつたでせう。手が熱してゐるつて。

眞奈。それでゐて顫へてゐたわね。私は戀を知るものの心を知らなかつたのよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

手兒奈。　ぢや、あなたも分るようになつたの。

眞奈。　いゝえ、私なんぞはとても。それよりかもね、戀つて罪なものだと思つたのよ。隨分人の心をいためるものね。

手兒奈。　あたしは幸福なのね。ちつとも心がいたみはしなくつてよ。私はほんとに幸福ものねえ。

眞奈。　あなたは私の兄の事は、ちつとも考へてくださらないの。それからあの御館の殿樣のことも。

手兒奈。　思ひあつた同士がほんとの戀なのぢやないの。私はね、眞奈の兄さんも、館の御領主樣も嫌いぢやないの――あたしは昨夜すつかり汗になつてしまつたのよ、手が熱かつたわけねえ。だから私は水を浴て來るわ。――眞奈、どうしてそんなに鬱いでゐるの、こんな好い朝ぢやないの、私の顏を見てごらん、美しくはなくつて?。私はまだ顏も洗ひはしないのよ。なぜつていつてごらん、いつもの通り眞奈の井へ顏をうつして見るとね、今朝はどうしたのか、私の思のてゐる影がうかばなくつて、眞奈の兄さんの顏や、御領主樣の顏がうつつたわ。だから私は顏を洗はずに來てしまつた。だけれど、もう私の目にはちつとも消えしない。あの方の樣子が生て動いて、私とおんなじに暮してゐるわ。

眞奈。　私部の殿さまは、今晩またお出に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なるの。

手兒奈。　今晩？　そんなに遲くはないの、もう直に此處へお出になる筈なのよ。私は今日此處で頂くものがあるの、女の魂の鏡を、殿様の手から胸へ入れていたゞく約束をしたの。

眞奈。　私の兄さんに逢はないようにして下さいよ。

手兒奈。　なぜなの。

眞奈。　あなたの心持ち一つで、私部の殿様が大變なことになると思はないの。

手兒奈。　私はそんなことを考へないの、私は昨夜のままでいつまでもゐるの。（獨言のように）　いつまでもあのまゝでゐるの、此帶もかけて下さつたまゝだし。私はあれから水一口も飲みはしない。あれから口をきいたのは今眞奈にきいただけだし。――ああ、ほんとに好い朝、鶴がないてゐるし、入江の水はまるで夢を見てゐるようだし。

眞奈。　何をいつてゐるの。

手兒奈。　いゝえ、もすこしたつと殿様が私の胸へ鏡を入れて下さるのよ。ねえ眞奈、兄さんも御領主さまも好い方ね、でも手兒奈は、自分が思つてゐた通りのことが出來たのよ。眞奈左様なら、好い朝ね。私は美しいでせう、私は大變嬉しいの。

眞奈。　手兒奈。繼橋の下は玉藻が大變しげつてゐるから、水にはいるなら氣をつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けて下さいよ。藻が足へからむとあぶないから。

手兒奈。　左樣なら眞奈。

眞奈。　なんて美しいのだらう。今日は神々しくつてまるで神さまのやうに見える。兄さんがいくら思つてもだめだと、今朝ばかりはさう思つた。

私部小室が來る。

小室。　あなたでしたか、私は遠くから見て手兒奈だと思ひました。

眞奈。　手兒奈はいま水を浴(あび)にゆきました。

小室。　私の來ることは知つてゐる筈なのですが。

眞奈。　さういつてをりました。鏡を持つてきて下さるのだと。

小室。　あなたにそんなことまでいひましたか、ほんとに子供ですねえ。

眞奈。　私は心配してゐるのでございます。繼橋のところはこの頃玉藻の根がはつてをりますから、からむといけないと思ひまして。

小室。　なぜそんな危いところへいつたのでせう。

眞奈。　大層汗になつたといつてゐました。なんだか嬉しいのと夢ばかり見てゐたので汗ばんだから、水を浴てくるといつてゆきました。それは美しかつたのなんのつて、今朝の手兒奈ほど美しいのを見たことがございません。そのくせ顔も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まだ洗つてはこなかつたのださうでした。

小室。　私はなんだか聞いてゐるうちに動機がはげしくして來ました。そして手兒奈は機嫌がよかつたでせうか。

眞奈。　よい朝だよい朝だといつてをりました、鶴の聲をきいたのを悦んでゐました。自分でも今朝は美しいといつてをりました。

小室。　何にしろ早く逢ひたいものです、ばかぐ〵しいとお思ひでせうか、何だか不安でしかたがないのです。

眞奈。　こつちの方へお出になると、繼橋のところが見えます。私が添にゐて、あなたが御覽になつてゐると、私がおしへたようで、あとで怒られるといけませんから、あなた一人で見ていらつしやつて下さい。

小室。　此邊からですか。――あゝ繼橋は見えます。ちよいと見て下さい。いつでも何處いらへ衣服を脱ぐのでせうか。

眞奈。　青い芦の上へ脱ぐのですが、見えませんか。

小室。　もう上つたのでせうか、近間の水の面には何にも見えません。水もうごいてゐないようです。

眞奈。　ああ、私の目の見違ひでせうか。見違ひであつてくれ、見違ひであつてくれ。

小室。　手兒奈に凶事があるのではありま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すまいか。

眞奈。　あの舟は私の兄の舟です。あれ、あすこの芦の間へつないだでせう。あの舟の上に——あゝ、どうしよう、手兒奈が死んだようになつてゐる。——何處へお出なさいます。いゝえあなたがいつてはいけません、今あなたがいつてはいけません。舟に乘つてゐるものは、水におぼれた人を救けることをよく知つてゐますから、私がいつて連れてくるまであなたは待つてゐて下さいまし。私の兄は乾度氣違ひのようになつて騒いでゐるに相違ありません。まかせて置てやつて下さいまし。乾度手兒奈の息を取かへすに程はありません、おぼれたにしてもほんのすこし前にはいつたのですから。

小室。　止めないでおいて下さい、あなたはこれが見て過ごせるものと思ふのですか。私がいかなければ見殺しにするようなものです。

眞奈。　そんなことはありません、決してそんなことはありません。勝鹿の眞間の者は、手兒奈の生れたのを土地の自慢にしてゐるのですから、決して死なせはしません、却てあなたがいらつしやると、助かるものも助からなくなります。

小室。　そんな譯はない、そんな譯はない。

眞奈。　いゝえあります。私部の殿樣が、手兒奈を抱いて泣いたといへば、土地の

もみはどんな害をするかしれません。あなたのお手に渡すよりは、手兒奈を死なせた方がよいと思ふのに違ひありません。

小室。　いくら憎まれてもよい、手兒奈が生なければ生きなくつてもよい。私の手で私の妻は介抱します。

眞奈。　あなたが生てゐられると思召すのですか。手兒奈ををしがるもの達に、あなたを仇だと思つてをります。

小室。　思はれてもよい。私は私の妻の最後を見にゆくのだ。

眞奈。　いけません、どうしても私は離しません。私の兄があなたを殺します。

里の人々共に手兒奈の死骸を連れてくる。眞奈の兄後より遅れがちに來る。

小室。　手兒奈か、我妻。なぜ、なぜ、こんな姿になつた。なぜ私の來るのを待つてくれなかつたのだ。たつた一歩の遅れが、もう行きつくことの出來ない隔りになつてしまつたではないか。手兒奈、手兒奈、昨夜の手兒奈はもう二度と私の手に歸つて來ないのか。

眞奈。　たつた今、笑つてわかれたばかりだつたのに、どうしてこんな事になつたのだらう。兄さんお前はなぜ生してくれなかつたの。

小室。　誰でもよいから、一番最後まで見たものが、手兒奈の樣子をきかしてくれ。

眞奈。　兄さんお前知つてゐるの。知つてゐるのならどうか聞かしてあげておくれ。

兄。　知つてゐるが其人に聞かせるにはあたらない。

眞奈。　それでは私に聞かせておくれ。お前は今朝早くから舟で出てゐたね。

兄。　むゝ、出てゐた。沖へは出てゐない、繼橋のぢき近所に舫つてゐた。

眞奈。　それではすつかり知つてゐるのぢやないか。

兄。　俺は昨夜の通り、船の中へ倒れたまゝで呻吟つてゐた、するとあの橋の下へ手兒奈がおりた。さうだ、する〳〵と下りた。衣服もぬがないで、水にうつる自分の顔を眺めてゐたが、何だか驚いたような様子で顔をあげると俺と目があつた。

眞奈。　それからどうしたの。

兄。　俺が氣がついた時に、手兒奈は水に浮いた、そして沈んだ。

眞奈。　兄さんはすぐに水へはいつてくれたのでせうね。

兄。　また浮いた時に俺はぼんやりと眺めてゐた。まるで水の中に玉藻の花がかたまつて咲いてゐるように、奇麗な顔が見えた。

小室。　なぜすぐに助けなかつたのだ。そんな暇に救ひあげたら息はあつたらうに。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

兄。　それをこなたに聞くことはない。手兒奈は眞間の女の中で一番貴い女なのだ。他領のものに唆かされる位ならば生かしておくがものはない。殺してしまつて何時までも眞間のものにする。

小室、　貴樣は手兒奈のかけてゐる帶に手をかけたな。

兄。　いかにも手をかけた、その帶をつかんで引寄せて上げようとしたのだ。此女は其手を拂つた。俺のかけた手を拂つた。そして解けかけた帶をしつかり抱いて笑つて見せた。

眞奈。　その儘沈んだのですか。――二人にも三人にも思はれて、一つの體を捨てしまつたのか。私は幸福ものだといつた聲が耳に殘つてゐる。

兄。　幸福ものだといつたのか、何が幸福ものなのだ。こんな帶を貰つたから、死ぬようなことになつたのだ。

眞奈。　だから兄さん、私が言つた通りに、早く手兒奈に打明けてくれたら。

兄。　俺にはそんなことは出來ない。俺は手兒奈を他領のものにすることも出來ない、それだから見殺しにしたのだ。

小室は鋭なゐきかけて思ひやむ。

小室。　手兒奈、お前は昨夜のことを忘れないように、さうやつてその帶を抱いてゐるのだね。私も終生忘れはしないよ。私は殘つて却てお前がうらやましい。約束の鏡はお前の懐へ入れておくから、こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のまゝ埋めて貰ふが好い。私はお前のことで他人を怨むことはよさう。お前を殺したのは私が起りになつてゐる。だけれと手兒奈、私は私の妻がこんなに郷里の人に惜まれるのを嬉しくも思ふよ、悲しくも思ふよ。此世での二人の緣は短かつたね。

（大正參年八月廿一日夜）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

紫玉

――プシブシェフスキイ

『よ、貴方、早く貴方の所に歸つて來られるやうにして下さるでせう、早く、え?』

女は男の頸をやさしく抱いて訊いた。

『さうとも屹度。二週間か、三週間もしたら屹度手紙を出すから、さうしてそれから……』

二人は互に寄添つて稍少時は抱き合つてゐた。男は女の頸を抱へて髮の毛を捋りながら。

『私はお前に甚麼に感謝して可いか解らないよ、これまでと云ふもの、私は戀愛についてこれ程に信じたことは無かつたのだ、然し今は初めて知つたよ、實に私は今度こそ眞實に愛されてゐると云ふことを知つてる、私の爲ならお前は甚麼犧牲をでもよろこんでして呉れるのだから。』

男は女を一層近くに引引せた。

『然し決してお前から私は何にも別に要求はしない、たゞ私はさう信じてゐるのだ、知つてるのだ。お前は私の爲なら甚麼犧牲でも厭はないと云ふことを。そりや甚麼ことだつて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も皆。』

『えゝ〳〵甚麼犧牲だつても……』と、彼は靜な聲で云つた。『ほんとうに此の世界では貴方の爲に犧牲にするやうなものは、私まだ全く見付けられません……甚麼ものを貴方の爲に犧牲にしたら……若貴方の望なら、私それはもう喜んで、それは勇んで私の靈でも差上げますわ、すつかり、全くすつかり……』

彼は彼女の額や、眼や、髮に長いこと接吻してゐた。

『幸福だ私は今。』彼は少時してさう云ひ出した。『全く幸福に思つてる、さうして何だか自分が強くなつたやうで、若くなつたやうに思はれる、全然新らしく生れ更つて來たかのやうだよ』

彼は喜に輝いて見えた。

『さうなの、私にもさう思はれますわ。全く貴方お若くなりましたよ。初めに私貴方にお目にかゝた時ね、其時なんぞは貴方、何だか肩を貧羸く窄めて、唇は始終何だか偲う病的な、不愉快な微笑に歪められてゐました、が、でもそれから貴方はずつと變つて御強壯になりましたわね、いつぞやなんか、丁度貴方が街を歩いてゐる時でした、私が貴方の後から行つたのを、貴方はさうとは氣が着かないで、何だかもう大變に感動なすつてゐらつし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やるやうな、酷く得意な態度で、頭をずつと上げてね、まるで皇帝陛下が街をお通りになるやうな御様子でしたわ……そりや私がさうしたのですわね、さうでせう、私がさうしたのでせう？』

『さうさお前がしたのだ……』

彼は彼女の手を取つて默つて兩手に感謝の接吻をするのであつた。

俄に彼女は衝と立つた。

『あゝさうだ！　も少しで忘れるところだつた、貴方に私の大切な寶物を見せて上げるのを。』

彼女は鑰を探した。さうして箪笥の抽斗から小さい箱を出す、箱から彼女は自分の大切な寶物を一つ〳〵に更に取り出した。重い金鎖の附いた大粒の紫玉(エメチスト)の頸飾、高價な古代の指輪が數個、ダイヤ入の襟留が數個。

これは彼女が親讓りの寶物で、たゞこれだけがやう〳〵殘つてゐた彼女の一切の大事な財產であつた。

『これは私のたゞ天にも地にもの寶なのです、私に取つてはこれを貴方の次に大事なものなのです、私これをまあもう少時の間藏つて置く意(つもり)です、今度改めて貴方のところへ參り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ますまで、で、その初めての晩に私はこれを胸に掛けます、貴方の爲には。重いあの絹の着物を着てね。ね、ようく御覽なさい、ねえ、そら、隨分立派ぢやないの貴方？』

彼女はさう云ひながら、その紫玉(エメチスト)の頸飾の金鎖を恭しく自分の頸に掛けて見た。急に男は心苦しいやうな氣がし出した。何の譯か自分でも解らないが、俄にさう云ふ氣がしてならない。恰も一朶の雲が迅速に彼の頭を擦去つたかのやうに。彼はさう思つた。自分が如何に貧乏であるか、如何に彼女を迎へるには多大の勞働を要することなのか、と。だがそれは彼女の爲だ！　おゝさうだ！

『貴方這麼やうなものを何かこれまで見たことがありますか？』と、彼女は頸飾を大事さうに見遣りながら男にさう訊いた。

『今夜中(こんやぢう)取らないでさうして頸に掛けてお出で。』

ふと彼は何心なく指輪を指に嵌て見た。

『いや、止さう、止さう、紫玉(エメチスト)は別れの前には緣起の惡いものだとか云ふことだ……』

日が暮れかけた。薄暗くなつた。室の中の空氣は爽に清く流れ、空は一しきり美しく彩色された繪のやうであつた。ほんのりと、やさしく、匂やかに暮れかけた外(そと)の色は、光る絹のやうな彼女の髮にさも似て、何だか彼女の上に下るべき神秘的な幸福な豫感(よかん)をもつて來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

るかのやうに覺えさせた。

（未完）

瀬沼夏葉譯

朝顔

ひや〱と涼風のあしにさはれば
あけがたのうつゝさもなく
わかれすむわびしさに嘆きつゝ
すく〱と起きて庭を見れば
瑠璃ろの朝がほひとつ咲けり

――望月れい――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

獵人——オリーブ、シュライネル

或る山間の小村に一人の獵人がありました。彼は毎日々々野に山に野鳥を獵りして居ましたが或る日彼は不圖大きな湖水の緣へ出ました。彼は其處の燈心草(Rushes)の中に立つて何處からか鳥が飛び出して來るのを待つて居ました。すると忽ち彼は何にか大きな影に覆れました。と同時に其の影は水面にも映じました。彼は目をあげて空を見ましたが其の影を作つた本體はもう見えませんでした。が彼はもう一度其の影を見たいと思ひました。そして其の見たいと思ふ慾望は刻一刻と燃えるやうに烈しく增して來ました。彼は終日其の影がもう一度現はれるのを待つて居ました。見張つて居ました。けれども日が暮れてしまひました。影はとう／＼現はれませんでした。彼は口をかたく結んでむづかしい顏して空の獵嚢をさげて村へ歸りました。村人等は變つた彼の樣子に不審を起し種々と質問をあびせかけますが彼は決して答へません。唯一人考へ込んで居ました。が彼の親しい友人が來た時に彼は始めて口を開きました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『私は今日今迄に見た事のない物を見た。其は銀のやうな翼を擴げて無窮の青空を帆走して居る大きな白い鳥のやうであつた。で今私の胸のうちは燃えて居るやうだ。其は單なる一閃光であつたかも知れない。水の上の一寸した反映であつたかも知れない。けれども私はもう一度其の影を捕へて見たいと思ふ事の外は此の世に何の望みもなくなつた』

友人は笑ひました。

『それは、君、水の上を遊ぶ光線の工合ひか、さもなけば君の頭の影が映つたのだ。明日にでもなつたら忘れるだらう』

けれども明日になつても三日たつても四日過ぎても獵人は同じやうに考へ込んで居ました。彼は森に、山に、湖水の邊にさまやうて待つたけれども無駄でした。彼は最早鳥をうつ事を止めました。彼はそんな事どころではなかつたのです。村人は、

『何をあんたに彼は苦しんで居るだらう』

『狂人になつたのだ』

『否々、もつと惡い。彼は今迄人間の見た事もないものを見付け出して、世間を一つあッと云はせやうとして居るらしい』

『そうだ、だから我々はあんな奴にかゝはつて居ないで、あんな奴との交際は斷つてさア

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

皆行かう」

獵人は一人取り殘されました。彼は悲哀に沈み涙を流しながら或る晩暗い處をブラ〳〵して居ますと彼の前に普通の人よりも丈高い莊嚴な老人が立つて居ました。

『あなたはどなたですか』

と獵人は聞きました。

『我は智慧（Wisdom）である。が時々人は智識（Knowledge）とも云ふ。我は此の山間で生れ、此處で育つたものだが普通の人は我を見ない。非常な悲しみに遭遇して涙で洗はれた目だけが我を見る。そして我は其の人の苦しんだ度によつて話しをしてやる』

『オー、そんなに永く此處に住んで御居での御方なら御存じでせう。あの大きな白い鳥は青空を横ぎつて行くのを見たあの鳥は何であつたでせう。人は私に其は夢であつたか、さもなければ私の頭の影であつたやうに信じさせやうとします』

と獵人が云ふのを聞いて老人はニッコリしました。

『それは眞理（truth）と云ふ鳥である。一度彼女の影を見た人は再び平靜に歸る事は出來ない。彼は死ぬ迄彼女を求めて止まない』

『オー、どうぞ御教へ下さい。何處へ行つたら私は彼女を見付け出す事が出來るでせう』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『未だ〳〵お前は苦しみやうが足りない』
と云ひ捨てゝ老人は行つてしまひました。

此の時獵人は懷から想像の(Imagination)梭を取り出して願(Wishes)の糸を卷き付けた。そして終夜かゝつて一張りの網を織りあげました。朝になつて彼は其の網を地上に擴げました。そして網の中へ、父から讓受けて大切に胸のかくしへしまつてあつた輕信(Credulity)と云ふ穀粒を撒いて置きました。それは白いヤブダマ(Puff-ball)のやうなもので一寸踏むと埃のやうにプーッと飛びます。彼は網のそばに座つて何にがかゝるかを見て居ました。すると鳩のやうな目をした雪のやうに白い鳥が來て美しい聲で人―神々々々々(Ahuman-God)と歌ひました。二度目に來たのは黑くて神秘的な鳥でした。それは人の靈魂の底迄も見透すやうな黑い愛らしい目を持つて居ました。そして唯一言不朽(Immortality)と歌ひました。獵人は此の白い鳥と黑い鳥を両腕にかかへて申ました。

『此れは皆あの美しい鳥、眞理の眷屬に相違ない』

外の鳥が又來ました。それは綠と金色でした。それは物賣る人の呼び聲のやうな突通る鋭い聲で死後の賞與、々々々々(Reward after Death)と歌ひました。

『お前は私の求めて居るもの程美しくはない。が併しお前も美しいのだらう』

と云つて彼は其の鳥も捕へて置きました。それから又種々の美しい鳥が愉快に囀りながら來ました。そして網の中の穀粒はおしまいになりました。獵人は凡ての鳥を一所にあつめました。そして丈夫な鐵の籠を造り其を新信仰と(New creed)名け其の中へ捕へた鳥を皆入れました。此の時世間の人は此の獵人を祝して集つて來ました。そして歌つたり踊つたりしました。

『オー、幸多き人よ、オー、不思議な獵人よ、オー、立派な鳥よ、オー、美しい聲の鳥よ』とほめたゝへます。が彼等は何處から鳥が來たか又どうして其が捕へられたかは聞かうともしません。唯だ喜び、歌ひ、踊つて居ます。獵人も亦喜んでこう申しました。

『確に此の鳥の中にあの眞理も居るのだ。そして時節が來ると彼女の羽毛が皆ぬけ替つて純白な美しい姿が現はれるだらう』

けれどもいつ迄たつても鳥には何の變化もなく時はずん／＼過ぎ去りました。人々は未だ歌つたり踊つたりして居ますが獵人の心は又だん／＼重くなつて行きました。彼は人々からコツソリぬけ出して以前のやうに悲哀に沈みました。猛烈な慾求がむら／＼と湧きあがりました。或る日彼が涙を流しながら物思ひに耽つて居りますと其處へ又老人(Wisdom)が現れました。で獵人は今日迄に彼がして來た事の顛末を詳しく話しました。老人は淋し

く笑つて、

『今迄にも、眞理を捕へやうとしてお前のやうな網を張つた人は澤山ある。が無駄な骨折りであつた。彼女は輕信の粒などは好かない。又彼女の足は願の網なぞにもかゝらない。第一彼女はこういふ場所の空氣には堪へられないのだ。お前が捕へた鳥は皆虚僞の雛である。彼等は美しい愛らしい、けれども矢張り虚僞である。眞理は彼等と何の關係もない。眞理は彼等を全く知らない。』

と聞いて獵人は絶叫しました。

『それでは私は居ながらにして此の燃へるやうな慾望のために身を燒かれてしまはなければならないのですか』

『聞けよ。お前は大なる艱難を經て來たからして今、我が知る事だけの凡てを話してやる。それはこうだ。眞理を探し求めやうとする人は第一に此の迷信の國を去らなければならない。それから此地方に屬するものは塵程のものでも身につけて居てはいけない。獨りで彼は絶對の否定、絶對の克巳と云ふ國(Land of Absolute Negation and Denial)へ行き其處に住んで居なければならない。其處で彼は誘惑に打ち勝たなければならない。そして眞の光が現れた時に彼は立ち上り其の光りについて日光の輝く國へ行くのだ、すると其處に嚴正な實

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

體と云ふ山が聳へて居る。眞理は其の山の向ふに住んで居るのだから彼はどうしても其の山を越へなければならない』

『そして其の山を越へた人が彼女を捕へるのですか、其の人が彼自身の手で彼女に觸れるのですか』

老人は頭を振つて

『否、彼は彼女を見る事は出來ない。彼女を捕へる事は出來ない。未だ其の時が來ていない』

『それではまるで望みが無いではありませんか』

『が、こう云ふ事がある。以前に幾人かの人が其の山を登つた。彼等は裸岩を廻り廻つてよぢのぼつて行つた。そして高い處をブラッィて居る間に彼等の内の一人が一本の白い銀のやうな羽毛を拾つた。それは眞理の翼から落ちたものであつた。で其れはこう云ふ事になる。』

預言するやうに老人は身を起し大空を指差して

『其はこう云ふ事になるだらう。其の銀のやうな羽毛が人間の手に充分集められた時に其の羽毛を緒となし其の緒で網をつくるのだ。其の網である其の網でこそ眞理を捕へる事が出來る。何となれば眞理の外は何物も眞理を捕へる事は出來ない』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

獵人は立ちあがつて、

『行きます』

と申しました。けれども老人は彼を引き留めて、

『お前によく注意して置くが、一たび此の土地を去つたものは決して再び歸らない。一度其の國へ足を入れゝば、たとへ七日七晩血の雨を流しても再び其處を出る事は出來ない。去つて行くものは永遠に去つて行くのだ。それからもう一ツ云つて置くがお前が難儀して行く途中でお前に與へられるものは何にもない。行くものは誰でも自由で行くのである。彼にやどる大なる愛のために行くのである。だから行くと云ふ其の勞力が賞與なのだ』

『私は行きます。けれど山の上ではどの方面の道をとつたらいゝか御教へ下さい』

『我は開闢以來蓄積された知識の子（the child of The Accumulatel-Knowledge-of-ages）であるから我は人間が歩いた事のある道を行くだけで人間の前へ出て進む事は出來ない。あの山の上には人の足跡が殆んど無い。であるから各々が彼自身に道をつくらなければならない。各々が身を危うして進むのである。我の聲は其處迄行くともう聞へないだらう』

と云つて老人は消へてしまひました。獵人は踵を廻らして彼の鳥籠へ行きました。そして手づから其の籠を毀し始めました。籠の鐵は彼の肉を傷けました。毀すと云ふ事は時によ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ると造るよりも困難なものです。彼は一ッづゝ〳〵鳥を出して放したが黒い鳥だけはおさへて居ました。鳥は低い聲で不朽と鳴きました。

『私は此の鳥を放す事は出來ない。此は重くはなし、又食物もいらない事だから私は此を懐へかくして連れて行かう』

彼は鳥を懐へ入れて其の上を外套で覆ひました。けれども其はだん〳〵重くなつて其のために彼は動けないやうになりました。彼はそれを抱へて居たのではとても其の村を出られません、餘儀無く彼は懐から鳥を取り出して眺めました。

『オー、美しい、愛するものよ、私はどうしてもお前を連れて行く事が出來ないのか』

と叫んで彼は悲しそうに鳥から手をばはなしました。

『行け、ことによると眞理が歌ふ一曲のうちにもお前の歌の調子が一節位ひあるかも知れない。けれど私はお前の歌を聞く事はもう出來ない』

思ひ切つて彼は鳥を放しました。それは永遠に飛び去りました。そこで彼は想像の梭を取り出し、巻いてあつた願ひの糸を取りはづして捨てました。其の梭は懐へ入れました。なせならば糸は此土地で出來たのですが梭は未知の世界から來たものです。獵人はいよ〳〵出かけやうとしました。此の時村人等は怒號しながら集まつて來ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『馬鹿な！　氣違ひ！　犬のやうな奴だお前は。何故其の籠を破つて鳥を放したのだ！』
獵人は其の理由を說明しました。けれども彼等は聞き入れません。
『眞理！　馬鹿な事を云ふな！　そんなもの食ふ事が出來るか？　そんなもの飲む事が出來るか？　今日迄にそんなものを見た人があるか？　今迄お前の手にあつたあの鳥が實體だよ！　我々はあの鳥の歌を聞く事が出來たぢやないか。オー、お前は馬鹿だ！　卑しい卑劣漢だ！　無神論者だ！　お前は風儀を汚す奴だ！
『そうだ、毆つちまへ！
『まア、そう騷ぐまい、それは我々の知つた事ぢやないぢやないか。其の白痴者が行くと云つたら行かしたらいゝだらう』
と云つた人はさッさと其の場を立ち去りました。けれども外の人々は石や土を集めて來て盛に獵人に投げつけました。遂に彼はひどく傷けられ森の巾へと逃げ去りました。
それは既に夜でありました。
彼は先きへ〳〵と進んで行きました。闇はだん〳〵深くなりました。と彼は夜の國の境へ立ちました。彼はッと其の境を越へて進みました。が其處には光と云ふものが全くありませんから彼は手探りで步きました。けれど彼の手が觸れる木の枝はホロ〳〵と折れて、地

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

面は燃屑のやうなもので覆ふはれて居ました。ですから彼の一歩々々は深く踏込み其の度毎に細微な灰煙があがつて彼の顏をうちました。暗さは暗し彼は一ッの石を探しあてゝ其の上に座り込みました。そして兩手で顏を掩ふて居ました。彼は此の否定と克己の國で光りが現はれる迄待つゝもりです。

彼の心のうちも亦闇です。

此の時彼の周圍の沼から冷やかな霧が立ちのぼつて彼の體をつゝみました。細い氣のつかぬ位ひな小雨が此の闇の中へ降り出しました。そして彼の髮にも着物にも大きな水玉がたまりました。彼の心臓の鼓動はおそくなり手足は痺れ出しました。と空中に二ッの快活な鬼火が現れて其が踊りながら彼に近よつて來ます。彼は仰向いて其を見詰めて居ました。だん〳〵近くだん〳〵近く其の火は近づいて來ます。それは温でそうして輝いて居ます。そして星のやうに踊つて居ましたが遂ひに獵人の前迄來て立ち止まりました。そして輝いた其の焔の一ッの方の中央から髑を見せて笑つて居る女の顏がのぞひて居ました。彼女の房々した金色の毛は微風に玩ばれて居ました。もう一ッの焔の中央には愉快そうな笑つてゐるやうな漣がありました。それは丁度コッップの酒の泡のやうでした。彼等は獵人の前で又踊りました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『お前は誰だ』

と彼は聞きました。

『暗闇に獨り淋しく居る私に近寄つて來るお前は何物だ』

彼は又どなりました。

『私共は肉慾(Sensuality)と云ふ双兒です。私共の父の名は人性(Human-Nature)と申します。母の名は奢侈(Excess)です。私共は此の山や川と同年です。世界に生れた初めての人間とも同年です。私共は決して死にません』

と云ふて彼等は笑ひました。

『オー、私が此の柔い温い手であなたを抱いてあげませう。あなたの心臓は今凍へてゐます。私があなたを温めて其心臓を動かせてあげませう。さあ、こちらへいらッしやい』

と女が申しました。

『私はあなたに温い生命をつぎこんであげませう。あなたの腦は痺れて居ます。そしてあなたの手足は今死んで居ます。けれども私は此の烈しい自由な生命を用ひて生返らしてあげませう。さア、あなたの體へ此れをつぎこんであげませう』

ともう一ッの鬼火が申しました。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『さア、私共と一所にいらつしやい。私共と一所に面白く御暮しなさい。あなたよりももッと貴い人達も此處へ來て待つて居ました。そしてその人達は私共のそばへ來ますし私共も其の人達の方へ寄つて行きました。そして其の人達は決して私共を離れません。私共が實體です。私共だけが實體であらゆる外のものは皆迷想です。眞理とは影の事です。異教人は道化芝居を演じて居るのです。地球は灰です、木は皆ボロ〳〵に腐つて居ます。けれども私共は、觸つて御らんなさい、私共は生きゐます。あなたは私共を疑ふ事は出來ないでせう。まア私共を觸つて御らんなさい。どんなに其は溫いでせう。さア、こちらへいらつしやい。私共と一所に御いでなさい』

近くだん〳〵近く彼等は獵人の頭へ寄つて來ました。そして彼の額の冷い水玉は融け出しました。輝いた光は彼の目を刺戟しました。彼をマブシがらせました。彼の凍つた血は融けて流れ始めました。

（未完）

山田わか譯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

下田歌子女史へ ——野　枝

これは新日本九月號の爲めに無理々々執筆したもので決して自信のあるものでない。正直に云へば私はこれを書くのに實際いろいろな苦しい努力をした。けれどもいゝかげんなことで安神の出來ない私はこれを送つてからも可なり氣がとがめて仕方がなかつた。丁度新日本では戰爭がはじまつて記事が輻輳して困るから十月にまはすと云つて來た。私は早速原稿を返して貰つた。私にはあんな立派な雜誌にいゝかげんなものを出さなくつてもよかつたことは僥倖でゐつた。併し一方では可なり馬鹿にされたやうな氣もした。嫌でたまらないものを二度も三度も催促をうけて無理な努力で書いた丈けに不快であつた。併し私は返してもらつた原稿をそのまゝくづ籠に投り込むほどの勇氣もなかつた。それで私は此處に出して貰ふことにした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

斯うして先づ筆をとつてあなたのお名を書いて私の名を書いてそれから私は考へます。何と書いたらいゝのだたらうと。私はあなたに對して全く興味が持てないのです。また持つ程にあなたを存じません。私はあなたに對して公開狀を書かされやうなどゝは全く夢にも思ひませんでした。私は本當にあなたについては何にも知らないのです。それで私はこの間あゝ云ふおはがきを差し上げたのです。私は全く知らない人の事について彼是云ふのはその人に對しては勿論大變に失敬な事だし自分に對しても氣が濟まないので何とかしてあなたを知り度いと思ひました。それにはお書きになつたものを讀むと云ふことも一つの方法だと思ひました。けれども特に私があなたに對して抱いてゐる或る一つのものが私に向つて、本當のあなた自身とお書きになつたものとの間に必ず非常な差異があるに違ひないと云ふことを思はせました。で私は普通なら讀んだものゝ上からでも書くのですが特にあなたに對してはあんなはがきを上げて見たのです。そしてもしあなたがあの一片のはがきにもお目をお止めになる程の氣がなかつたなれば私はどんなに暑くともお目に懸りに行くつもりで居りました。一度會つてすべてを知る事は出來ますまいがでも大底の見當はつくだらうと思つてゐました。私は棚橋絢子とか跡見花溪とか云ふ人たちがあなたのお仲間であるかないか知りませんがおなじに並んでゐらつしやるあのお婆さん達なら實際こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んからそんなはがき處か書くことをうけ合ひはしません。けれどもあなたはあの人たちよりもいろんな意味から所謂「えたいの知れない人」であることが私の注意を少し引きました。でもしかしたら書いてもいゝと云ふやうな氣になつたのです。同時に私はあなたが何處にも捉へ處のない「一筋繩ではいかない女」であることも知つてゐます。それで私のあのはがきを私の眞意を汲んで會つて下さらないまでも「からかつて見る氣」位でも會つて下さることを期待してゐました。けれどもその期待はすつかり外れました。私は何だか馬鹿にされた樣な氣がしました。私は何時でも馬鹿正直に他人を信じてつまらない目に會ひます。尤もそれは私の獨りぎめが惡いので御座います。恐らく私の眞實を打ち明けて書いたあの葉がきはあなたの前には數多いあなたの生徒たちの御機嫌伺ひのはがきよりもまだたくさんの侮蔑をうけたことでせう。それで私はもうあなたに對して何の注意も向ける氣になれませんでした。でも今になつて書けないとは云へない義理になりました。私は嫌々ながらも書かなければなりません。それは私にとつては非常な苦痛です。私は又此處で仕方なしに、あなた個人としてゞなくあなた方位の年齢の人々の抱いてゐる妙な考へに何時も若い者の云ふことを繰り返して申ます。私達の今云ふことは所詮何處まで何を云つてもあなた方には或る一定の程度まで行くとそれから先はわからなくなつてしまふやうです。私た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ちもあんまり一つ事を繰り返して云ふのにいやになつてしまひます。あつさり云つて置きたいのですがそれでは一向きゝめがないのです。勿論私達としてはあなた方のやうな年よりの人たちに向つてとくよりは若い者同志で自分達の時代が來るまで潜勢力を養つておく方が本當なのかもしれません。けれども時に隨分はげしい馬鹿な事を云ふお翁さんやお婆さん達がゐます、そしてそのお翁さんやお婆さんたちの云ふことが幾分でも後進者の上に影響するやうな事があるときには私たちはそのまゝ打ちすてて笑つてはゐられません。私たちは、年をとつた人たちに向つて私たち同様な考へになつてくれとは申しません。たゞ若い人達の上に不當な傲慢な壓迫をつゝしんで下さいと願ふ丈けです。もう少し寛大になつてくれとたのむのです。それが全きり年とつた人たちにはわからない。私たちには知れきつたおなじ理窟を丁度兒童が物ねだりをするやうに耳のはたでがん／＼云つてうるさがらせば利き目がないのです。で私たちはしかられても何でも幾度もおなじ言葉を繰り返さなければなりません。何だか話が横道に込りました。

　私はめつたにあなたのお書きになつたもの等よんだことは御座いません。先づ一番はつきり覺えてゐますのは女學校時代の讀本でよんだの位です。それからどうかして婦人雜誌などにちよい／＼お書きになるものを二三度位讀みました。併し何にも覺えてゐませんけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れどもそれはもう極くさう云ふ向きの通俗なものであんなものにお書きになつたのであなたを見るのは少し酷かと思ひます。けれども、あんなのにお書きになるものを通じて見るあなたは極く淺薄な婦人としか見えません、あれ等のものから見たあなたはあまりに才ばしりすぎてゐます。あなたは才能そのものと云ふ感がします、あなたはその才を縱橫に驅使し得て禍されてゐらつしやるのではないかと思ひます。あなたのその才能にもう少し深味がほしいと思ひます。あなたは何に對しても相當の理解力は持つてゐらつしやるらしい。けれどもそれは外面的なる物にばかりであるらしく思はれます。尤もあなた位の年頃の人たちに——ただ習俗のまゝの單純な思想にかぢりついてゐらつしやる方に對して內面的な方に眼を向けさせやうとすのなんか間違つてゐるかもしれませんが併しもう少し自己の內省とそれから他人に對する批判に充分な寬容を持つて頂きたいものです。殊に私は若い婦人たちを指導してお出になる方としても個人々々の行動の一々の批判にも充分な同情と理解とを欲い——と思ひます、あなたの何に對してもお持ちになれる丈けの萬遍なく行き屆く理解力を面積を縮めて深みの方へ廻はして頂きたい。私が斯うして一生懸命に書いてゐてもあなたはこれを一々讀む丈けの努力すら私には與へて下さらないでせう、私のこの一文にあなたがむくひて下さるものは冷笑位なものでせう、さう思ひますと私はまた日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

本婦人の、特にあなた方のやうな階級の婦人たちの持つてゐる間違つた妙な感情で固まつたプライドを呪ひ度くなります。偏狹な頑固な日本の女流敎育家位呪ふべきものはありません。あの偏狹であの頑迷で無智で淺薄で本當の敎育など思ひもよりません。併しあなたはさうではないと思つてゐましたけれども矢張り仕方がないやうです。あなたの國家主義も到底彼是云へるものではないからよします。あなたのお書きになつたものは全くつかまへ處のない、取りとめのないことばかしです。もしあの通りな方なら私はそれこそ唾を懸ける程のねうちもない方だと思ひます、併し私は、さう思ひ度くありません。それは必ずあなたの社會的位置があゝ云ふ事を一寸云はせたのだと思ひます。あなたの心の奧に潜んでゐるものはもう少し何うかしたものに違ひないと思ひます。併しかう書きながら私は考へます。先刻私はあなたに才能そのものゝやうな方だと云ひましたね、さうだとすれば矢張りあなたは捉へ處のない所謂一すぢ繩ではいけない人です。あなたのすべてが才能です。どんな場合にもそれを驅使してあなたはその關門を通つてゐらつしやるのでせう。あなたが偉大に見える原因は其處らにあるのでせう。其處であなたはどんな場合ひにでも困らないのでせう。百人の違つた人に逢へば百色にその應接法を更へることがあなたのすべてなのかもしれません。そしてそれをあなたはたよりにしてお出になりさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へすればいゝのです。それにあなたには本當にもう一つの他の婦人たちに一寸眞似の出來ない處があるやうです。それはあなたにどつしりした膽つ玉の座り處のあることです。それがあなたの才能を驅使するものです。けれどもやがてだん〳〵に若い者の時代の曙光が現はれて來ました。あなたの才能がやがてもう何のねうちも示さなくなる時が來ます。あなたは今迄始終どう處すればいゝかと云ふ事ばかり考へてゐらした。即ち才能の使用法ばかり考へてゐらした。けれどもやがて今私たちが苦しんでゐる問題があなた方の傍に迄おしよせて行つたときにその解決には才能は何の役にもたちはしないでせう。そのときあなたの才能の使用法はたゞ一つしかありません。即ち一番利巧な使用法は新舊の折衷です。然しそれはやがてまつたくあなたがすべてに見放されておしまひになることなのです。もう完全なる道徳とか完全なる常識とか云ふことを云つてはゐられなくなります。さう云ふ中身のない形式的な空虚な言葉の存在は許されなくなります。あなたのやうな勝氣な方は何時の時代にも葬られたくはお思ひになりますまい。もう少しお考へになることをおすゝめします、才能も必要ではあります。けれども眞實を伴はないものは何時になつても駄目です。私は無器用でも遲鈍でも咄辯であつてもそれは決してその人の價値にさうさし障るものではないことを信じます。たゞ眞實本當の眞理に從つて考へ、處理するのが一番立派

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な偉大な人だと思ひます。私はこの意味であなたにもう少し眞實であることをおすゝめいたし度いと思ひます。あなたのすべての行き方はあまりに才ばしり過ぎてゐて何處かに虛僞がまじつてゐることを見逃すわけにまゐりません。或はあなたは大なる虛僞の中に埋まつた人であるかもしれません。そんな氣がします。あなたのお歩きになつた道はあなたにはずつとはなれた別の道、虛僞の道であるかも知れません。あなたの世間からのひどい誤解も或は其處らにあるのでせう。私はあなたの才能に敬意を表します。あなたは本當に立派なものをお持ちです。けれどもその使用をあなたはあやまりになりました。あなたに少しでも眞實と云ふ偉大なものが見えましたら、あなたはもつと立派な方におなりになつたかもしれません。或は私たちの歩いてゐる道と大差のない道を歩いてゐらしたのかもしれません。それは十重廿重に圍んだコンヴエンシヨンがあなたの上に權威を持つてゐたと云ふこともありませうし種々また境遇と云ふものも、それを阻んたのかもしれません。私はあなたがあの偏狹な頑迷な敎育界へお入りになつたと云ふことを衷心から惜しみます。

私は此處でまたあまり無智な事柄に向つて書き過ぎはしなかつたかと思ひます。今迄書いて來た處は大方は私の推察です。一種のあなたに對する空想であるかもしれません。もし私の云つた事に大變に見當違ひで御座いましたら遠慮なくお叱り下さい。私はその時には

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

派立にあなたに謝罪いたすことは覺悟して居ります。兎に角私は私の空想にしろ正直に僞らず書きました事だけをお斷りして置きます。もしこの事が見當違ひな事で御座いましたらそれは私の空想が外れたのです。あたれば幸ひですが若し外れましたら私はあなたの御意のまゝにお詫びいたします。實は空想にしても只少し根據のある事が云ひ度かつたのですが時日が切迫してゐて可なり無責任な書き方をしたことも此處におわびして置きます。兎に角私としてはあなたに對して公開狀を書くこと等は可なり氣恥かしいことでもあり又無意味であつたのです。私は自身の要求によつて書いたものでないと云ふ事に無責任な書き方をした云ひ譯の一部を負はさうと思ひます。そしてそれは卑怯な事であることも同時に思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゆくものよ――川田よし

空見れば空ぞ悲しきうす雲の晴れもやられぬ吾身なるかや

術なしと身を慨へばみちのくの暗き國邊もなつかしまるゝ

かよわくもおのれ一人をたのめよと君をおきてはなげくなりけり

かぎろひの若き一時の所業なり儚きものを戀と知らめや

今は只ふたりの幸をさきはひて吾れは涙を落すなりけり

我思ふ程にもましに君思ふひとを妬みにき常びとの如し

來し方の思ひの上に今はたゞひたに歩まむ疲れし足に

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母君は寂しうませば吾いのち断ちもやられず飯食しにけり

いつ迄もいつ迄も解けぬこゝろかな面伏せしつゝ今日もこもれり

今更らに君の慨きのいたましやほとほと消なむわかいのちかな

あきらめて今はあきらめて針とりぬさびしや針は白く冷たし

去なば去ねあの眞紅の玉椿ふたりにかなし追憶のあり

君遂に我れを解せず我遂に君を解せずそれ程のこと

此日頃果敢き書物讀めりけりをみなはあはれ尼となりつゝ

なげきつゝ髪を下せば殊更らにたちらねの母のこひしからむか

生れて來し羽虫の群れよ弱くとも生きねばならぬいのちなりけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

不平——岩淵百合

毒藥の壺をいたけばひゑびゑと我が死に生きのをごそかに觸る

おづおづと死を恐るれば鳳仙花はぢけてひとり飛び散りにけり

男ゆえ身をば果すをかるはずみなどとささやく人や唯、唯、

思ふことみな世にそむくされどなほ生きねばならず悲しきかなや

思ひただ一筋をゆくうつくしき戀はむかしのむかしのことよ

男ゆえ二十四時をひといろに嘆くといふはうつくしきこと

君見れば只悲しみになみだ湧く沈默（しじま）の靈のしるよしもなや

ありふれし世間の掟おづおづと恐るることも君ゆえによし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

微風——三ケ島葭

君を見てなほいづくにもあくがれのまさらぬ身をば刺したまへかし

悔も無く恨も無くてただわが身なやましといふ心となりぬ

思ふことなす心地しぬはしたなきことをなすまに我を忘れて

束の間のよろこびながら何ものも見がたきまでに我をおほひぬ

いかばかり君に求むること多き身ならん時に捨てよとも泣く

行くところとどまるところ知りあへず心しびれて君をげがしぬ

あまりにも心地よげなる君見れば我は眠れる心地こそすれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とこしへに消えじと思ふその夢をただみづからのものと知るかな
をとめごの日の幸ひももろともに知るべし君の妻となりてぞ
まごころをもてつぐなはん日を待ちぬかへらぬ人と別れたる後
歸りこし道の疲れにもの言はぬ君の前にも涙浮びぬ
われこの日病める君にもはてしなく笑まはせられてあだに日送る
君が病む枕邊さしてほそぼそと蚊遣の香の煙うづまく
君をよくみとりえざりし悲しさを忘れえぬのみ我は甲斐なし
かの山に亂れ咲きけん白百合の花にも我は心捧げず
軒下の暗より百合のにほふ夜は細き灯かげもゆらぎけるかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鈴虫の鳴く夜帰れば雪のごと消えてぞありし山の白百合
秋の夜は狭霧となりて浮ばんとはざまに散りし白百合の花
いつ知らずわたくしごころ起りしか心君より身より離るる
相見れば月にも行かじさばかりも君を守れる心ならねど
昨日まで明日てふことも思ひたることなき身もてわが子を思ふ
なつかしと思ふ心に先だちて引かるるほどの戀に足らめや
強きものはた大いなるものとのみ思ひがたくもなつかしきかな
故郷の涼しさ思ひわがもとに歸らぬ君をよしと思ひぬ
わが心俄に待たる故郷によき雨得たる君を思へば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うとましき我を見るべき君思ひ待ちつつ今日も歸るなと泣く

われながらいと哀れなりみ心も知らでかく病む身かと思へば

秋風は町にも立てど覺めがたし悲しや人に醉へる身ならん

我をしも妻と定めて呼ぶきはにあきらめ見えて心もとなし

このうき日なほはてしなくつづかんと思ひ過せし身をぞたのめる

なごむべき心を待てどいつの日もうつつなからん悲しさを知る

逢ふことと別るることに生死の思ひをなして終るべからん

かなしみの唄も浮ばずなりにけりあらはに今日のさまは見えつつ

山にゆき海にゆくらんいづくにもともなひがたき我を泣きつつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

未練――齋賀琴

わだつみの底ひしられぬいと深き君が心をはかりかねつも

とこしへにまさきくあれと消息のはかなき言に涙わきいづ

み心の千ひろの底にしづみはて死ぬるべき身の幸はつきせじ

一とせをしづかにひとり住みなせどなほしも君のこひまさるなり

わが泣くも笑ふも君は何事も打まぎらして笑みたまひぬる

しかばねはいかにともなれ君がため死なんと誓ひ遠くわかれし

わがために死ねよといへるみなさけの尊さゆゑに身をすててけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君がため世は臆はしくとこしへに祥くあれかしかくのみ願ふ
さや〳〵と風鳴りしきり雲走る秋はさびしや別れてすめば
夜をこめて啼けるこほろぎの彼もまたもだしかぬるか戀慕の情を
人知れず君をしたへる心より泉のごとくさいはひのわく
別れすみいよ〳〵君をこひあればさやかに秋のふけにけらしな
白くものわきて流るる山路ゆき君にあはまし秋風きけば
一すぢのわがゆく路のなほきゆえかくもあらぶる波にかあるらむ
夕來れば西のみ空を打まもり海のあなたの君をしぞ思ふ
別れては世のかなしみを一身に負へるがごとく心なやむも

待ち佗び——林 千歳

『あゝ、あゝ』

遣瀬ないやうな、辛いやうな、悲しげな呻きと共に、球枝（たまえ）は今まで蒲團一ぱいに身を匍ばせて、眼蓋を空氣枕の白い被布に押し附けて居たのを、一うねりさせて、腸から沸き出るやうな熱い息氣を吐きながら、午後四時過の西日の射す椽側の方を向いて寢返りをして見た。

八月末の惡く執拗い暑さが黃色い西日の直射に酷く暑さを增して椽側から座敷の疊の上へと、ジリ〱匍ひよつて來るのを、球枝は眠と見て居ると、此二三日前からの暑氣あたりに熱氣のある身體には辛棒の出來ない苦しさである。それを意估地になつて見て居ると窩んだ眼蓋の奥がヅギンとしてフラ〱と氣が遠くなるやうな氣がした。

球枝はヅキリとした强い光線を眼蓋の奥に堪へながらチーッと眼を閉つた儘、晝食が濟むと二語三語、言ひ合つた末に、考へ深い眼附を殘して日盛りの市街へ當もなしに出掛け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て行つた時三の事が日向を見て居ると、細い針の尖で突つき出されたやうに思ひ出された。

『あの日蔭もない日中に何んだつて出かけて行つたんだらう』

暑さと疲れとで膿んだやうな球枝の腦の中に、不安らしい影が頭をもたげ出した。

お互ひの我儘から些細の事で言ひ合つたにせよ、病に弱つて居るいたいけな妻に行先も言はずむつつりして、よしたゞ氣を變へる爲の散歩にもせよ出て行つて了へる時三の心持が疲れた神經の慄える程腹立たしかつた。球枝の病氣で床についているやうな時にはいつも今日のやうな喧嘩が必つと起つた。其都度球枝は熟々時三の苦勞甲斐のないのが厭になつた。時三は何ぞといふと球枝には自我(エゴー)といふものが執拗く附着いて廻つて居るといつた。何でも「自分が、自分がだ」とか、冗談にも「オイ個人主義者(エゴイスト)」とかいつたりする其時の時三の口の格好を思ひ出しても憎らしかつた。今にあの口附の時三が歸つて來るかと思ふと球枝の兩手を組み重ねた胸の裡で厭アな氣がちぎれた雪のやうに、ふーッと通つて行つた。もう一層此儘此處へ歸つて來なければいゝにと思つたりした。何んな時でも球枝が時三に並べ立てる事は、時三には皆んな球枝自身の非を擧げて居るやうなもので可笑しいと言つて笑つた。けれども時三が球枝を叱責するやうな、教訓するやうな調子で、球枝の性

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

格だの性癖だのを數へ擧げて例を示しながら說き聞かせる時には、球枝は、それが時三が球枝に言つて居るのか、時三自身に言つて居るのが解らない程、球枝には時三自身のことによく似て居た。こんな時には球枝はいつも冷たく唇を曲げて揶つたい笑を洩して居るのが癖であつた。いつの間にかお互に缺點ばかりが性格の中に入り違つて喰ひ入つて來るやうに思はれた。そして其爲に互に、相似た性格の短所を相手の爲に有たされたやうに、無理にも思ひたかつた。不圖、球枝は再び時三の身が不安に思はれ出した。貨幣持人もたずに出かけた時三が饑と渴とに疲れて何處かで地面に倒れて座つた儘、家へ歸ろうにも途の遠さに、喘ぎながら途方に暮れてでも居るやうな氣がする。が、すぐ其心の下から、子供ぢやあるまいし馬鹿々々しい事だと自分の想像を打消しながな床の上へ起き直つて見た。

ずんぐ\低くなつた夕日は、もう座敷に射し込む淋しい日光を蔭らして了つた、急に夕暮れらしい穩かさに溶かし出した。思ひ止つたやうにパッタリ風が息を止めて、植木鉢の木の葉も搖く氣配がない。軒先に蚊の群が無數に集つて來て、會戰でもするのか舞踏でもするやうに同じ個所で、高く低く、上に下に飛び交はして居る。球枝の周圍が、熱臭い息れにむッとした。球枝は枕元にある小さな唐藤の籠から濡手拭を引よせて、ジトジトした

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

胸の邊りの肌を拭つた。半ば乾きかゝつて、半ば濕氣を有つた手拭は、不氣味に生暖かく、病んでる球枝の汗ばんだ肌には焦れつたい氣味惡さが殘る許りだつた。

其處此處の隣り近所で、夕方の掃除の音が忙しくなる。だん〳〵夕照が薄れて行くに從れて、齒の浮くやうな車井戸の軋り、バケツの喧しい音も一度にさらつて行くやうに消えて行く。球枝は立上つて椽傍まで出て行つて見たが、歩く度に踏みしめる脚が力がなく、眼が眩むやうに腦の中がグラツとした。其儘にこの柱に凭れて、背を柱に凭せた儘そーツと椽側に蹲み込んで了つた。

『男ツて皆んな時三みたいに暢氣なものかねえ』

然う思つて球枝は自分の儘の氣にふいと家を出て、いつ何時でも不意と家に歸つて來ても人も大した怪しまなければ自分もそれを當然と思つて居るのが不思議のやうな氣がした。家へ歸らなくつても男の往く爲に待ち設けられてある家々は種類丈でも澤山ある。男なら金があつても皆無つても、時と場合と人柄と其家とによつては喜んで迎へられる。球枝はつまらない氣がした。同じ短所を有ちながら、球枝許りが醜く其缺點を表はして行くやうに言ふ時三が醜惡の結晶のやうな氣がした。球枝獨りをいぢめた、時三自身はどんなつらいいやな事に出會はしても自分から忘れるか、氣を變へる物事によつて忘れる事が出

來る、又忘れ得る程の暢氣な人であるのが憎かつた。

椽の向ふ一體に五六坪の庭を園らす垣根の外の通を雪駄の音が忙しく聞える。「時三が歸つて來た。」と咄嗟に球枝は思つた。足音が垣根をめぐつて消えて行つても、一歩一歩を刻む足が格子先に近づくのが知れるほど、歩數を數へながら、格子の開く音に耳を澄ました。同じ處を五六度も往たり來たりする程の時間を、耳を傾げて待つて見ても雪駄の音は空耳にも聞えては來なかつた。

『必つと、もう歸つて來ないつもりなのよ』

球枝は愚痴らしく斯う思つた。

『歸つて來ないつもりなら歸つて來てくれなくつたつてい〻』

然う思つて何となく唇の引きしまる感じがした。其癖、それでも時三の雪駄の音が聞えさうなものだといふ氣は失せて居なかつた。

一刻一刻に夕闇の黒い影が部屋の隅々から這ひ寄つて、球枝は自分の身體も忽ち吸ひ込まれて了ふやうな氣がした。斯んなに暗がりに思ひ寄られて居ても直ぐに電燈を捻りに立つのも物憂く大儀だつた。二月許のうちに芝居の稽古もしたり舞臺にも立たなければならない事に思ひ及ぼすと、今更のやうに時三の歸らないのが恨めしく、齒痒いやうな氣持ば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かりが募つて行つた。

此處の背後に當る小さな寄席で人寄せらしい太鼓の音が、はじくやうに忙しなく聞えて居た。球枝は蚊に攻められる苦しさに堪へられなくなつて、やうやく立つて手探りに電燈をともした。燈明の光が一時にパッと部屋中を照し出したので汚く取散かつた忘れて居たいろ〳〵の物が眼の前に描き出された。

明るくなつたら球枝は急にお腹が空いて居たのに氣がついた。斯んな時にこそ役に立たなかつた小婢でもせめて居て呉れたらと、十日許前に暇を取つて出た小婢のことまでつい愚痴らしく思ひ出した。

球枝は其儘の裝で家を空にして外へ出た。下駄を履いた足にまるで力が這入らなく膝が脚氣の人のやうにガク〳〵して足早に動かさうとしても自分で自分の自由にならなかつた。球枝は七八間先の玉ずしといふ紺の緩簾を潜つて二人前の誂へ物をすると、僅かな道をボツ〳〵拾ふやうにして家に歸つた。誰も居ない筈の家の內には何んとなく人の氣配がして居た。球枝はハッとして怖いやうな訝しさに格子の外から覗ひて見ると、內の人はどうも時三らしかつた。

球枝が上にあがつて行くのを見附けると時三は、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『何んだつて、今まで寢てゐた人が外へなんぞ出掛けるのだ』

と浴せかけるやうに云つた。自分に氣を使はした事も思はないで、責めるやうな言葉を吐く時三の氣が球枝は情なかつた。

『寢ておいでなさい。せめて座布團の上にでも居ればいゝのに、何處へでもさう座つちや第一冷えるぢやないか。また惡くなつても今度は俺は知らないぞ』

などゝ父親のやうな口吻で、半ば獨語のやうに言ひながら座敷に散らかつた新聞だの雜誌だの手紙だの團扇だのといふやうなものを片つぱしから片付けて歩いた。

『お待遠さま』といふ聲が勝手口で聞えたので。

『何だい、何が來たんだい』

『お鮨やさんよ、今行つて來たのよ、私が――』

『そんなものを――好いかなア』

『好いのよ、病氣なんか治つちやつた』

球枝はさう言ひながら埋れた火鉢の中を掻き起してお茶を入れたりした。球枝は先刻獨りで居た時よりも何んとなく無意識のうちに元氣がよくなつて行つて居た。

暫くすると二人は鮨を食べながらいろ〳〵の話を喋舌つたり聞せたりして居た。球枝も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二三時間前の忌々しさなどは、他人事のやうに忘れて居た。

『此處の寄席は大當だね、美音吉一座といふのが伊勢音頭なんて提燈をあげてゐるぜ』

『美音吉つて何アに？　源氏節？』

『然んな事だらう』

球枝の腦の中に樂屋銀杏に結つた薄汚い女達の群が、墨と紅と白粉できはどくゑどつた顏の幾つかゞ見えるやうだつた。男だか女だか區別のつかないやうなもの言ひで、賤しい錆た聲を疳高に張り高げては、一座の荷厄介にされてゐる年增女の罵る、座頭の美音吉といふ女の險しい眼付などをも想像した。

球枝は何といふことなく暗い氣持におしつけられた。

『私もう舞臺に立つのは止さうかしら。帝劇であつて見た處で、寄席であつて見た處であんまり差はないやうなものね』

時三は何か他の事を考へゐて、その返事はしなかつた。球枝の心はつまらない遣瀨なさに引き込まれて行つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐかきの一家――小林哥津

ゐかきの一家が長年すみなれた淺草の川のそばから山の手の今ゐるところへひつこして來てから、早やいもんでもう五年といふ月日がたちました。

その五年の間には家の樣子はずいぶん――まあまるでもとの面影がなくなつて了つたといふ方がいゝ程な變りやうでした。

大勢そろつてゐた娘達は大かたそれぞれ緣を見附けてかたづいて了ふし、長いこと派手なだけ相應に苦しいこのゐかきの家の身上を一人できりまわして來た女主人も、ふつとした病氣から思ひがけなく世を早めて了ひましたし――人かずの上からも、もとのやうな晴やかさはとても見られませんでした。そして、家の中の空氣もいつの間にかめつきり、ぢみにひつそりとなつててひました。

この頃では、豐潤な色と音と匂ひとにつゝまれた藝術的文明の熟れきつた江戸末世の爛が生んだ主人の浮世繪師はだんだんにそりの合はなくなつて行く世間に脊をむけて旅とい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふ樂しみの中に沒頭しきつてゐて留守がちでありました。

まつたく今のいそがしい世間にはこの浮世繪師のかく、ゆうちような洒落な繪などはもう氣樂な氣樂な夢にすぎないのでした。浮世繪師はそうした世の中を別にうらむのでもなく、昔の夢をくりかへして思ふでもなくしづかに大きな、誰れでも手をひろげて迎へて呉れるやうな自然を見てまわりました。

丁度この浮世繪師が、わづかに名といふ影となつて、いそがしい世間の人々の頭のすみに殘つてゐるのと同じ樣に、このゑかきの一家ははげしい浮世の片すみに、ひゞ、ひそやかな暮をつゞけてゐるのでありました。そして、昔のはなかやな夢は今はもう、家にのこつてゐる二人の娘達のあと〳〵の追憶にあかるい——錦繪の繪の具のやうな、古びた——そしてどこかにあかるい匂のある色でとりまくといふだけのことでした。

川の水が流れてきては、また流れて行くやうに、年月のあわたゞしいたちかたを、のんきなすべての世事に無頓着な浮世繪師が、つくづく感じるのはその娘達の成人ぶりでした。子供から娘に、娘から人の家内に、とうつて行くのは不思議なほどわけないことだと思ひました。

じぶんに似てのんびりした子、母に似たをもざしの子、そうして、大きくなつて、自然

にまわり合せてよい娘、それからまた、不幸なかなしい境遇にある娘、――大勢の娘たちのいろ〳〵なことを思ふたびに、浮世繪師はたゞもう不思議に人の運といふものを思ひました。

そのうちで誰れよりも、どの子よりもその成人ぶりの目だつのは、末娘なのでした。丁度この浮世繪師の名が、しらず〳〵錦繪のしみになつて行くのと反對に、その末娘は、年々に脊たけをまして肉をまして行きました。浮世繪師は旅からかへつてくる度に、その娘の後姿を見ておどろきを覺える程でした。

もうこの娘は世間の波をりつぱにきりぬけられると思はれる程、その娘のうでは丈夫そうに肉づいてをりました。もつくりとふとつて來たその兩肩にどんな苦勞がかぶさつて來ても、大丈夫この娘はそれをもちこたえることが出來そうに思はれました。いつ迄子供だ〳〵と思つてゐるうちにその眼には、すみからすみまではたらいて行く、ある鋭敏なひらめきさへ見えました。――浮世繪師はその末娘がもう二十一になつたと思つたとき――ふつとじぶんの年といふ事を考へられました。

しかしこのゐかきの一家に今も昔も相變らずなことがありました。それは、このゐかきの家といへばすぐ知つてゐる人には連想される程な有名な――昔からこの家とはつきもの

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゝやうな一人の老婆なのでございます。

老婆——娘達には祖母にあたるその人はまるで、この家の暮しの水底にしづんでゐるぬしのやうなものでした。もうぢき死ななくてはならないじぶんの命をしつかりと若い娘達の命に、女の髮の毛であんだ綱のやうなものでむすびつけてでもゐるやうにその老婆は、生きたい生きたいといふ執念で、その全神經はひきつゝつてをりました。

その老婆のとほうづもない長いきは、娘達二人と、そして、あらゆるこの家の血緣のものゝなげきでありました。

若い時から物のわかりの惡い、そして、思ひきり我まゝな性質のこの老婆は誰れにもいゝ感じをあたへない人でした。まるで昔の戲作本に出てくる裏長屋のばあさんそつくりといふやうな人でした。娘の死んだ女主人があんまりの我まゝを見かねて、物の道理をいゝきかせても、我意を通すのにいつぱいになつた意識でこんがらかつたやうに物がわからなくなつてゐるその老婆の耳には何のやくにもたゝないのでした。そして、なほさら妙にこだけわりをつけて行つて、一層まがつて了ふやうなねぢけた、下等に質をもつてゐるのでした。——死んだ女主人は時々その老婆といさかひをしました。そうしてその終いには、きつと。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「私はね、ほんとに幼さい時分、こりやてつきり家のお母さんはまゝ母だと思つたよ」と云ふのが常でした。――それ程その老婆は母親らしい、そしてお祖母さんらしい情のうるをひがかけてゐるのでした。娘達はそれでも少しはをし手のきいてゐたその女主人に逝かれて了つてからは、その老婆をもてあまして、ほと〳〵困ることがありました。わけて二年このかた、床についてゐるやうになつて、なほさらに生きたいといふ熱念がさらにつのつて來たこの頃は、まつたく、どうしやうもない程、苦しみました。

病的に神經のとがつてゐる末娘はその老婆にもの一つ云いかけられても澁面をつくる程――それほどその老婆をきらいました。そして恐ろしいと思ふのでした。

しかしそうした考へを、いつでも末娘はうち消すやうにいたしました。そんな時には一生懸命に、その老婆の、ふつと可愛らしいと思つたことのある、ある時の笑顏などを思ひうかべて見たりするのでした。それから末娘の幼さない時分に、このゐかきの家にをこつたある大きな災難の後で、その老婆がゐかき家の人たちと一人はなれて深川の方に住つたことのある時分のことなどををもひ出すのでありました。

――日影のやうなくらい軒のひくい深川の路次をくに、せまい庭のむこうに、四つ目がきなどをまわしたその家のさまを、ほんとうに哀れらしく、末娘はおぼえてをります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

秋のうすい夕ぐれの日ざしが、四つ目がきに――しほれた朝顔にうつすらさして、まだ達者だつた、その老婆が、臺所をかたこといはして、遊びに來た孫娘に夕はんをたべさせる仕度をしてゐる――と、その近くの川をとほる蒸汽船の笛がぼうつとひゞいて來て、何がなしに悲しい氣になつた、その時のことなどを思ふと、末娘は胸に何かかなしみかせまつてくるやうでした。

しかし末娘はどうもその時分の老婆の氣質がどんなだつたか全くおぼえがないのでした。末娘が思ひ浮べるその頃の――深川の家にゐた老婆はどうも今の老婆とはちがふやうな氣がするのでした。

で末娘の記憶にはまつたくその老婆の影が出ないのでした。そこには別なもの哀れな小說的な空想が頭にのぼつて來ました。――そしてやつぱりいゝ感情をもとうとする念は逃げて行つて了ふのでした。――その末娘は物心がついて以來女作者になりたいといふ夢想をだいてゐるのでありました。

まつたく哀れだの可愛らしいのだと、思はせる事の出來ない程その老婆については、おそろしい話を末娘はしつてをりました。邪慳な、亂暴なその老婆に對するにくしみはどうてもいとれる時はないだらうとじぶんで思ふ程でした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

六人の娘達――末娘をぬかしてあと五人といふもの誰一人その老婆のきびしい折檻をうけないものはありませんでした。末娘は幸に、もう大分に老婆が身體がよはつた頃育つたので針をふくんだやうな叱言の毒口はきいてもあまりひどい折檻をうけた事はないのでした。

末娘はそのおそろしいおしをきの話をきく度にちゃみ上りました。末娘はその育つ時分家の中にをこつた事から何につけておびえる――何かをばかにこわく思ふくせがあるので餘計なのでした。

――姉達のあるものは雪のしん〳〵とふる日に學校のかへりにころんで着物をよごしたといふとかで、家へ入れられないで寒いのき下に泣きながら立たされてゐた人もありました。又あるものは義理のある一番上の姉への面當にしもしないいたづらをたてに、馬のりになりなられて、もう死んで了ふんだと思ひながら悲鳴をあげることも出來ないやうなひどい目にあつたものもありました。かぼそい女主人は、力のある老婆をおしのけることも出來ずに、子供達の泣き聲をいたづらにきくばかりなのでありました。大勢の門弟たちのとめたてするのが餘計に氣に入らないで、なほ〳〵夢中になつて手をふり上げふり下ろしたそうでございました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「あたしの孫だもの、殺そうと生かそうと大きなお世話だよ」――こんな亂暴な文句を捨ばちに云つた老婆をだれ一人よく思ふ人はない筈でございます。

それでも娘達は親身といふ不思議な情あひから、こわかつた、かなしかつたと昔話をくりかへしながらかわる〴〵夜伽をするのでした。

長い間、娘を苦しませ、そして孫娘達をもかなしませ――そして憎まれて來たこの老婆はまだ〴〵この先いく年か孫娘達を悲しませるのでございます。――食物をむさぼり食べて、生きやう〴〵としてゐる熱念を人達は、みんな淺ましいと思ひ、そしてそれを影でさゝやくあふのでした。

末娘はじぶんにもこの人の血がまじつてゐる――と思ふと情けなくなりました。――そしてふつとじぶんにもじぶんの思ふ事、云ふ事を邪が否でも通さないではをかないやうなところのあるあるのを考へるとあらそはれないものだといふやうなことを思つては、情けなく思ひました。じぶんの娘の死をさしてかなしみもしなかつたその老婆の顔には人間らしい美しさがかけてゐました。――末娘はじぶんの顔がどうかその老婆の顔に似かよつてゐるところのあるのを厭やに思ひました。――しかしどうかすると意地張りらしいやうにとがつた上唇はどうしてもその老婆のと同じやうな氣がしました。末娘は、それを紅でよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くぬりかくしました。

その老婆が死ぬ時の話はよくゐかきの家の人達の間の話題にのぼりました。ある時でした。いよ〳〵老婆にもお別れになる時、皆な泣くだろうかといふやうな事を末娘がふつといゝ出しました。と

「私はやつぱりないちまふわね」と一人、五人目の娘が云ひました。あとのものは、皆ななかない方の仲間なのでした。

その五人目の娘といふのは、一度、その老婆の實家をついだ事のある人で、まあきびしい折檻をうけながらひかく的可愛がられた人なのでした。けれどやつぱりこの頃では末娘と一緒に一かたならない苦勞をその老婆の上にする一人なのでした。その娘は姉妹中で一番やさしい人でした。

末娘が物心ついて以來、家の中での話相手はその五人目の娘――すぐの姉でした。

その姉娘はいつまでも――いくら年をとつても、無邪氣なぼうとした目ざしをして、おだやかなゆう〳〵とした心持の人でした。末娘とは年が八つもちがつた間でありながらどうかすると、末娘の方が年上に見える程、すがたも若やいだ人なのでございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

年よりはませた末娘の何かのしかたはよくその姉娘を小馬鹿にしてゐるやうに、はたからは思はれました。きかない氣の、癇癪もちの末娘はせんにはよく、そんな思ひちがひからやすつぽい同情をその姉娘によせる姉娘の女友達やらわかい姉達やらにくつてかゝりました。――でも今はそんな場合末娘にはそんなばつとした――云つて見れば馬鹿正直なこゝろはなくなつてゐるのかそんなむだな口をきくのもそんだといふやうに思ひあがつた顔をしてすぎることが多いのでございます。それをあたりの人達はまた憎くゝ思ひました。

この二人の氣質はまるでうらはらなのでした。末娘にはその姉娘のほんとうの氣心がわかりませんでしたし、姉娘には末娘のまた氣がさつぱりわかりませんでした。――しかし大勢の姉妹娘中で、一番親しみを感じ合つてゐるのはこの二人なのでした。それは二人とも同じやうな藝術的な趣味をもつてゐるといふところからなのでした。

姉娘は繪をかきました。――末娘は繪入りの草双紙をよみました。そういふ二人の趣味がどつか一つにまとまるのでございました。

けれどそれ程したしんでをきながらその二人は、ほんとうにつゝまずじぶん達の心持をわつて話し合ふといふところがありませんでした。話さう話さうと思つてもそれが話せない――といふやうなところがあるのでした。それがお互ひに何にもお互ひの心持をしること

の出來ないわけなのでございます。

末娘と姉娘も、妙な形に入つた、あるものに對する遠慮といふやうなものをもつてゐました。

姉娘はわりあいにやさしい、――秋はぎのやうなたをやかな人柄に似合しくないまで、微妙なところのかけてゐる人でした。――末娘はそれをいつも倦きたりなく思ひました、それはその姉娘のかく繪の上にも、物事をする時にも、それからその姉娘がものを考へるときにも見えました。末娘はわけてそれが繪の上になど見えた時、それをいゝたい〳〵と思ひながらつい云ひ得ないのでございました。末娘はなにかの時に見て厭だつた、その姉娘の人の好い額にやつきとなつた怒の色を見るのがたまらなくいやさに云ひえませんでした。

その姉娘が、どうしても思ふやうに繪筆がうごかないで、ぼんやりとしてゐるのを見るくらい末娘にとつて苦しいことはありませんでした。まつたく今のまゝの有樣でゐたならこの人にはほんとの繪がかける筈はないといふ事が末娘にははつきりとわかつてゐるのでした。もつといろ〳〵目をあいて、もつと、隅から隅まで見まわして、そして、よくものを感じて――末娘はそう思ひながら、そんな生意氣は云へませんでした。それに姉娘には

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自由なひろ〳〵とした氣がもてないところがありました。末娘はそれも悲しみました。匂ひのこまやかな、絢爛目をあざむくばかりの藝術界の人達にまざろうには、あんまりにぢみな、そしていぢかんだものしかもつてゐないその姉娘が、人達の間に見をさゝりのするのが末娘には口惜しく思はれました。

それには境遇――今のその姉娘の身のをきどこから來る、一種のめらんこり――な色があらゆるその人のもつてゐる色彩の上にかげをさすのでありました。かく繪もかく繪もにごつたおごみをどつかにもつてゐるやうでした。――それも末娘のかなしく思ふ事の一つでありました。

じぶんの思ふまゝに、じぶんの思ふ事をやりとげるまでゞもなく、それを云ふ事さえ出來ないやうに弱いおとなしい氣の姉娘にはひつかりした後だてがなくてはならないと、いつも末娘はかんがへました。しかし、浮世繪師は大勢の姉達が一度づゝはよそへ出て苦勢をした、經驗からどうしても、この二人は手ばなさないと思ひこんでをりました。

末娘は父親の純な生一本なそうした考へを、そむく事は好みませんでした。――けれど、もしじぶんからその姉娘が何かあたゝかい血しほがじぶんの胸に流れはじめるやうなことにぶつかつたら――ふつとそうした事を思ふのでございました。そういふ場合にそう

いふ感情を充分育てゝ行くやうに、――それがなによりの幸福だと、かたく、末娘は信じるのでありました。

末娘は人のことは考へても、じぶんはどうすると人にきかれたら、おそらくそれは答へることが出來ない程なのでございます。じぶんの心持はあつたかいのかつめたいのか、それもわかりませんでした。そればかりか、いつからかだいてゐるじぶんの夢想もいつになつたらほんとうに目の前にほんとうの事になつてあらはれるのか、――それもわからないことでした。時々その末娘が書くものはあつても、いつも、駄目なのでした。人々に讀まれる價さへないものでした。

末娘はじぶんの夢想の影がだん／＼に審けば／＼經驗の薄くなつて行くのを心細く思ひました。そんならもう一層やめて了つたらいゝぢやないか――と人に云はれた時、末娘はどうしたらいゝかまつたくわからなくなつて了ふのでありました。

もう老婆もなくなつて了つてやがては浮世繪師もこの世の中にゐなくなつた時、――その時二人の娘はどうするのだらうと末娘は思ふ時たゞもうその末娘の目の前には何だかわ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

からないぼうとした烟のやうなものがはてしなくひろがつて行くばかりでございました。

おはれしもの

みかへればはづかしきことかぎりなく
かへらぬ悔の嘆きにみつ
いま世のつれの君たちと
さはことなりと思ばれど
すゞしのきぬの濡れ穴ろを
ひそかに肌にまくに似て
ほのかにまとふ心情(こゝろ)あり

——望月れい——

遺書の一部より――野枝

もう二ヶ月待てばあなたは歸つて來る。もう會えるのだと思つても私はその二ヶ月をどうしても待てない。私の力で及ぶ事ならばすぐにも呼びよせたい。行つて會ひたい。けれども、もう廿二年の間、私は何一つとして私の思つた通りになつたことは一つもない。私の短かい二十三年の生涯に一度として期待が滿足に果たされたことはない。それは本當にふしぎな程です。私は何時だつてだから諦めてばかりゐます。またあきらめなければなりませんのです。あなたに會ふことも出來ません。私は本當に弱いのです。私は反抗と云ふことを全で知りません。私のすべては唯屈從です。人は私をおとなしいとほめてくれます。やさしいとほめます。私がどんなに苦しんでゐるかも知らないでね。私はそれを聞くといやな氣持です。ですけど不思議にも私はます／＼をとなしく成らざるを得ません。やさしくならずにはゐられません。私は自分のぐずな事を悲しみながらます／＼ぐずになつて行きます。私は悲しいそして無駄な努力ばかしを續けて來ました。私は敵に生命をくれと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

云はれてもすなほにさし出すやうな人間に生れてゐるのです。私はまだ廿三年の間にたゞの一度だつて不平をこぼしたことはありません。まだ人に荒い言葉を返した事はありません。私は敎へてゐる子供たちを叱らうとすると自分の方が先きに泣き出します。私は小さい妹や弟たちからでさへも馬鹿にされて叱られます。それでも私はその弟たちにたゞ一言の口答へさへ出來ません。皆他人は私をほめてくれます。親しさを見せてくれます。けれども私は何時でも自分のふがひない矛盾を悲しむことで一ぱいになつてしみ〴〵人と親しくなることが出來ません。私は怒ると云ふことが出來ません。現在私がかうして今死なうとしてゐてさへ誰も憎らしい人はないのです。私は生きてゐることに堪へ得られない自分に對してさへその意氣地なしに對してさへ腹を立てることが出來ません。私はたゞめそ〳〵悲しむたけです。私は自分自身を制禦する丈の力さへ與へられてゐません。私は長く生存すべき體ぢやないのです。當然與へられねばならない人間としての自由の何一つとして私は持つてはゐません。たつた一つ、それはたゞ神樣がこの弱い私にたつた一つの自由を與へて下さいました。私はそのたつた一つの自由を生れてはじめてのまた最後の自由として、それを握ります。けれどその自由さへ實は今まで時期を許して下さいませんでした。私の長い間願つた時期は近づいたやうです。それにつけてもたゞあなたに申あげたいのは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたはそんなことは決して知つてゐますが自分に負けないで下さいと云ふことです。私は前にも申あげる通りに、自分が何時でも負けてはその度びに一皮つゝ自分の上に被せて行きました。此度こそはこの被ひを一思ひにと思ひますがその度びに反對にかぶつて行きました。今はもうまつたく私の周圍は身うごきをする程の餘地も殘つてはゐません。何時かあなたは、私に、「死んだつもりでならどんなことも出來る。何故もつと積極的な決心にお出にならないのです」と云ひましたね。ですけれど繰り返して申ます。私は弱いんです。私はその殼をつきやぶつて出た後がこはくてたまらないのです。私に――この弱い私に與へられた自由は一つしかありません。私はもう私のすべてを被つてゐる虛僞から離れて醜い自分を見出すことは私にとつては死ぬより辛いのです。私は今迄他の人のやうに自由がなかつたことを思つて下さい。私には一日だつて、今日こそ自分の日だと思つて、幸福を感じた日は一日もありません。私は私のかぶつてゐる殼をいやだ〳〵と思ひながらそれにかぢりついて、それにいぢめられながら死ぬのです。私には何時までもその殼がつきまとひます。それに身うごきが出來ないのです。私の聲の――眞實な叫びの聞こえる處にゐる人は誰もないのです。私はもう「よりよく生くる望み」などは到底もてません。私はこの世に存在する理由を何處にも認めません。私は「自分」と云ふものを把持

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

してゐることとの出來ない弱者です。私一人の存在が何にもかゝはりのないことを思ひます。私と私はもう一日もはやく處決しないではゐられません。人のことは誰にも分りません。私は毎日教壇の上で敎へてゐる時、又職員室で無駄口をきいてゐる時、私が今日死なう明日は死なうと思つてゐる心を見破る人は誰もない。恐らくは私の死骸が發見されるまでは誰も私の死なうとしてゐる事は知るまい、と思ひますと、何とも云へない氣持になります。「それが私のたつた一つの自由だ！」と心で叫びます。本當に私のこの場合ひにたつた一つたしかめ得たことは、人間が絕對無限の孤獨であると云ふことです。私の死骸が發見された處で人々はその當座こそは何とかかとか云ふでせう。けれども時は刻一刻と歩みを進めます。二年の後、三年の後或は十年の後には誰一人口にする者はなくなるでせう。曾て私と云ふものが存在してゐたと云ふことはやがて分らなくなつてしまふのです。よりよく生きた處でわづかにタイムの長短の問題ぢやありませんか。人間の事業や言行など云ふものが何時まで傳はるでせう。大宇宙！　運命！　私の今の面前に押しよせて來てゐるものはこの二つです。私はもうすべての情實や何かを細かく考へる煩はしさに堪えられません。私は曾て少しは、自身の慰さめにもと思つて基督敎と云ふものを信じて見ました。私は牧師や傳道師たちからのほめられ者でした。立派な篤信者だ。美しい人格だと讃めら

れましたけれども自分には矢張り苦しくてたまりませんでした。矢張り虛僞の教へと云ふことを感じました。私は遠ざかりました。それがこの頃になつて漸くその教への眞髓をつかみ得たやうな氣がします。運命なのです。それがその力が神と云ふ變化されたものになつたのです。私は運命を信じます。その不可抗な力を信じます。今私の上に一ぱいにその力がかぶさつてゐます。恐らく誰の上にもさうなのでせう。私はいくらもがいた處でその力にかなはないことを知つてゐます。不思議なこの大宇宙を支配する偉大なる力にも私は從順にしたいと思ひます。私はかうやつて書いてゐて、ふと、矢つ張り、私の今迄の生活は虛僞でなかつたのかもしれないと云ふことを考へます。私は矢張り、その運命の支配するまゝに動いて來たのです。ですからうそではないやうにも思へます。私ばかりでなくすべてのものが――たゞ人間が運命と云ふものを考へないでてんでん勝手にいろんな事を考へてはあたれば本當、あたらなければうそだと云つてゐるやうにも思へます。思へば考へれば深く考へる程分りません。善とか惡とか云ふのもみんな人間の勝手につけた名稱でせう。あゝ、私はもう止めます。まつくらになりました。何だかすべての事のケヂメがわからなくなります。私は今私の考へてゐることが一番正しく本當であることを信じてその通りを行ひます。私はよはいけれどぐちはこぼしません。あなたもそれを肯定して下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私の最後の處決こそ私自身の一番はじめの、また最後の本當の行動であることをよろこんで下さい。私のその處決がはじめて私の生きてゐたことの本當の意義をたしかにするのです。私は私の身をまた生命をしばつてゐる繩をきると同時に私はすべての方面から一時に今迄とり上げられてゐた自由をとり返すのです。どうぞ私の爲めに一切の愚痴は云はないで下さい。

あゝ、私は今迄何を書いたのでせう。もう止しませう。たゞ私は最後の願ひとして、私は本當に最後まで終に弱者として終りました。あなたは何にも拘束されない強者として活きて下さい。それ丈けがお願ひです。屈從と云ふことは、本當に自覺ある者のやることぢやありません。私はあなたの熱情と勇氣とに信賴してこのことをお願ひします。忘れないで下さい。他人に讃められると云ふことは何にもならないのです。自分の血を絞り肉をそいでさへゐれば人は皆よろこびます。ほめます。ほめられることが生き甲斐のあることでないと云ふことを忘れないで下さい。何人でも執着を持つてはいけません。たゞ自身に對して丈けは全ての執着を集めてからみつけてお置きなさい。私の云ふことはそれ丈けです。私は、もう何にも考へません。私は今はじめて生れてはじめて自分の內心から出た要求を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分の手で滿たし得られるのです。私の殘した醜い死體を發見した時にどんなに人々はさわぐでせう。どんな憶測をすることでせう。私はもうすべての始末をつけてしまひました。誰も知りません、誰もしらないのです。知つてゐるのは私だけ。この手紙が三日たつてあなたの手に這入るまでには大方全部、私の望みが果されるでせう。私ははじめて私自身の要求を自身の手に滿たすのです。はじめてそして最後です。愚痴を云はないで下さい。お願ひします。私はもう、自分の處決をするよろこびに一杯になつてゐます。けれどもあなたに丈けは矢張り執着があるのです。それがこれ丈の手紙を書かせました。よく今迄私を慰さめてくれましたね、本當に心からあなたにはお禮を申ます。隨分苦しい思ひもさせました。すべて御許し下さい。もう一切の執着を絶つて下さい。あなたと私とは今はなれてゐます。たゞね二三ケ月たつてあはれる筈のが都合でもつと長くあへない丈けだとおもへばそれ丈けですよ。ね、隨分長く書きました。不統一なことばかりですけれど許して下さい。混亂に混亂を重ねた私の頭です。不統一な位は許して下さい。ではもう止します。最後です。もう筆をとるのもこれつきりです。左樣なら。左樣なら。何時迄もこの筆を措きたくないのですけれど御免なさいもう本當にこれで左樣なら。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ・コヴァレフスキィ――アン・シャロット・レフラー

ソニヤ・コヴァレフスキィの自傳は前號で終りましたが、その以後の傳記は彼女の友人で、ストックホルムの有名な閨秀作家なる、アン・シャーロット・レフラーに依つて書かれてゐます。このアン・シャーロットは後年ソニヤをストックホルム大學の數學教授に招聘した同大學の學長ミッタッハ・レフラーの妹で、かのエレン・ケイなど〻も親しい友達でありました。アン・シャーロットがソニヤの自傳の後を受けてその一生の傳記を完うするに至つた理由や、過程は緒言の中に述べた彼女の言葉で明らかになつてゐます。從つてこの緒言以下の各章に使用されてゐる、「私」と云ふ文字はそのアン・シャーロットの事と御承知下さい。――譯者

緒言

ソニヤ・コヴァレフスキィが突然、思ひがけもなく亡くなつたと云ふ知らせを受け取ると直ぐ私は私の義務として、『露西亞に於ける生涯(ラゼフスキィ家の姉妹)』と題されて出版した、彼女の子供時代の追想記を續けなければならないと考へました。それには色々理由がありました。第一には彼女はどうしても若死をして、私は彼女よりかも永生きをするだろうと云ふような氣がしてゐましたから、自分の傳記を書く事を何度も私に約束さしたの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でありました。

彼女は極度まで自省したり、自己解剖したりしてゐたので、自分の感情や、思想、行爲を悉くぢつと考へ込む習慣を持つてゐました。而して殆んど毎日往き來して私共と一緒に暮してゐた三四年の間、彼女は凡てこれ等の思索を私に傳へて、その觀察を正しい心理的の形式に組み立てようと致しました。餘り內省に傾き過ぎた爲めに、屢々無意識ではありましたが、事實を損ねるようにさせました。その自己解剖は鋭く、冷酷であつたかも知れませんが、時には自づと理想化しようとする傾向のために妨げられました。そんな譯で彼女の與へた繪は、種々な點で他の人々の見たのとは違ひました。

彼女は或時には餘り自分を苛酷に判斷し過ぎるし、或時にはまた他の人々よりかずつと手緩くする事もありました。

もし自分の生涯の傳記を書かうとしてた彼女の企てが旨く運べたならば、これは彼女の自書像で、私と長い間、始終してゐた心理的の會話の裡に表現した思想に一致した事でありませう。ところが不幸にもこの著作、疑ひもなく世界文學に於ける最も重大な傳記の一たるべきものが書かれないで殘りました。而して此人の歷史のほのかな輪廓を引く事が私の運命となつて來ましたところで、私はその仕舞をやるについては、彼女が無事の時よく

してゐた通り、私自身を彼女と同一にする積りにして、謂はゞ彼女の暗示の下に書く事が私に取つては唯一の可能な方法だと云ふ事を自然的に感じました。彼女の第二の自己たるべく——彼女がよく私をそう呼んでゐた通り——而して彼女自身に就いて、彼女が私に與へた書像を出來得る限りで復寫すべきであります。

けれども私は彼女が亡くなると間もなく書き初めた此等の追想記を、いよ〳〵出版しようと決心の着くまでには一年以上經過さして仕舞ひました。この間私は手を廻される丈け廻はした各國のその友人達の話や手紙に依つて、私の記臆を助けようと試みました。これは彼女がよく話してゐたその生涯の外面的な出來事を正確に記述するためでありました。此手紙から私は彼女の性格の上に眞理の光りを投げるらしく見へたあらゆる物を引照しました。——眞理、それは彼女自身の概念と一致する限りのものであります。

それ故讀者諸君は私が此處に述べつゝある言葉に依つて、それは客觀的の意義に於て眞の傳記ではないと見るでありませう。

序でに、精神の解剖を說くに當つて、客觀的眞理とは如何なるものでありませう。

多くの人々は私と意見を異にして、ソニャの感情、行爲の或ものゝ上に甚だしく違つた解釋を置くでありませう。けれども私の立ち場からはこれは何んでもありません。私の話

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した凡ての事實は、私がその事實を證言し得る事が出來てあつた限り全く眞實であります。此點はソニャ自身の暗示には從ひませんでした。事實に就いては彼女は屢々最も空想家だつたからであります。

一年前、私がクリスチャニヤでヘンリック・イブセンに逢つて、ソニャ・コヴァレフスキイの傳記を書いてゐますと云ふ話をしたら、彼は申しました。

『あなたの書いてゐらつしやるのは、言葉の本統の意義に於ての傳記なのですか。それとも詩的な影像(イメージ)なのですか。』

私は答へました。

『私の書き度いと思つてゐますのは、私の眼で見た、あの人の身の上に就いての、あの人自らの詩で御座います。』

『それで結構です。』と彼は申しました。

『その問題は詩的に取り扱はなくつちやなりません。』

これ等の言葉は私を勵ましました。而して私の企てた仕事に就いての私の意見を確めてくれました。

もし出來る事なら他の人々が寫實的な記述をしたらいゝでせう。私はたゞ、彼女が自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自身に就いての強い個人の解剖に、私の個人の概念を與へ度いと思ふのみであります。

一八九二年、ネープルスにて

著者

第一章　少女の夢。結婚式

ソニヤが十七ばかりの時。その家族はセント・ピエペルブルグで一と冬過しました。この時露西亜青年の智識ある仲間は、活潑な運動(ムーヴメント)のために勢込んでゐました。取り分け若い娘達の間に中々盛んで、心的の自由を増進する運動が、その祖國に發達し進歩して來ました。

これ等の向上心は虛無主義のものではありませんでした。政治的の傾向さへないのであります。智識と光明に對する熱望から起つたのであります。それが大流行になつて、數百人の上流の娘達が外國の大學で勉强するために出掛けたと云ふほどになりました。親達は娘のこの精神には大低反對でありますから、若い女達は甚だ妙な、一風違つた方法でその困難を切り脱けました。自分と同意見の若い男達と、約定づくの結婚をするのでありました。チューリッヒの女學生で、後年虛無黨の嫌疑のために呼び返された人々の大低はこん

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な結婚をしたのでありました。男達は娘達を家から連れ出して、何處かの大學へ送り屆けて仕舞ふと、初めの約定によつて、その人達をば其處へ一人殘して、自由にさせるのでありました。

セント・ピエテルブルグで、ソニヤやお姉さんの交際してゐたお友達の中では、こんな結合はもう有りふれた事になつてゐました。それ故二人も戀の競技で、自分一人の感情や感覺の滿足、つまり自愛だけしか知らぬような男女間の平凡な結婚の契りよりかも、その方をずつと理想的だと重んずるようになりました。

こんな若い熱誠家に取つては、自己の幸福などは第二の條件でありました。公共のために自己を犧牲にする事は、偉大な貴い動機のみから出たのであります。勉强しよう、人々の心を改善しよう、而して愛する國のために何んでも持つてゐる丈けの力を盡して、自由に對しての烈しい奮闘を助けよう。暗黑と壓制から、光明と自由への向上を助けよう。――これがこれ等の上流の若い娘達の心を引きつけた思想でありました。その親達は娘を教育する目的と云つては、貴婦人又は結婚した女にする以外には何んにも思はなかつたのでありますから、この獨立や謀反の徵候に對しては勿論强硬な敵意ある態度を取りました。若い人達もそんな獨立とか謀反とかを思ふと共に、年上の人達のゐる所でも今までのよう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に默つて引込んで計りはをりませんでした。『全く幸福な時でした。』ソニャはその時代の事を話す時にはよく斯ふ云つて呼びました。『私達はこの新思想に夢中になつてゐましたから。現在の社會狀態は長い事はない。自由あり、凡ての人に智識ある光榮ある時がもう直ぐだ、確かな事だと信じ込んでゐましたの。さあ斯うなると同志の者は嬉しくて堪りませんわ。大人連中の會などで若い者が二三人出逢ひますとね、その場ではお互ひに話をする譯には行きませんけれど、顏つきなり、手ようなり、聲の調子なりで直ぐ分つて仕舞ひます、そして自分たちは一つお仲間なのだと思ひますわ。』

『この若い男女に親しみを感ずると云ふのは全く人知れぬ樂しみですわ。その人はあなたがこれまで見た事もなければ、一寸とした話さへした事がないんでせう。それだのに同じ思想、同じ希望を持つてる人で、同じく公共の目的のために自己を犧牲にしようとしてゐる群れの一人だと云ふのですからね。』

アニウタを中心として集まつたお友達仲間では、誰もソニャに目をくれるものはありませんでした。彼はお姉さんよりは六つ下で、丸つきり子供のような顏つきをしてゐました。アニウタは綠色のグースベリーの眼をしたその小娘がお氣に入りでしたから、皆んなのところにゐていゝと許してゐました。誰か大きい人が烈しい熱誠な話をする度に、その眼は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

悅びに輝きました。それにその娘は決して出しやばらなくて、年上な、且つ自分よりはずつと華やかなお姉さんの後におとなしくしてゐました。

ソニャは何處までもアニウタを賞讃してゐました。美しさも、優しさも、才能も智識も色んな點から自分よりは勝れてゐると思つてゐたのでありました。けれども彼女の賞讃には大分嫉妬が交つてをりました。それも相手を貶しめようとか輕んじようとかするのではなくて、同程度にまでなり度いと思ふのでありました。この傾向はソニャが自から幼年時代の思ひ出ての中にも云つてゐますが、その一生涯の特性でありました。彼女は斯うあり度いと思ふ資格に就いては、他の人々を買ひ被つたり、それが自分に欠けてゐるのをこぼしたりする癖がありました。取りわけ美しさや、愉快な物越しには深く感じました。お姉さんはこんな點でずつと立ち優れてゐましたから、ソニャは他の方面で打ち勝とうと思ひました。子供の時から、悧巧だとか、生れつき學問が好きだとか、智識に渴えてゐるとか云つて賞められてゐましたのが、今度はその野心と、數學の先生の奬勵で刺戟されました。彼女は驚くほど理解が早くて、思想も豐富でありますから科學的の事には確かに天賦の才能があるようなのでありました。けれどもお父樣が若い娘には珍らしい、こんな學科を勉强させる事にしたのも、古いお友達で非常な學者の人から勸められたと云ふまでであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。それで娘がもしや本氣に研究したがりはしまいかと思ふと共に、その承諾を取り消しました。初めそれとなく家を出て外國の大學で勉學し度いとほのめかした事は、先年アニウタの著作が爆露したように惡く解せられました——言葉を換えますと、それはまともの道を迷ふ罪惡的傾向だと申すのでありました。事實、上流の娘達で同じ目論見を立てた人々は、親達に羞恥と嘆きをかける、女山師に過ぎないと見なされてゐたのでありました。

斯うして二つの反對の潮流が、此貴族的な家庭に相並んで流れました。內證ではあるが、自由に對する謀反的な熱誠な希望と、大びらな、正直な、父としての殘虐とがそれであります。その殘虐には自分が正當であり、優者であると思ひ込んでゐますから、此不思議な譯の分らない力を制御するために、堅く拘束して置こうとしたのであります。

終にアニウタとお友達の一人はある大膽な決心をしました。二人の中の一人——誰だつても構ひません——が例の理想結婚をしようと云ふのでありました。それで二人ながら救はれるのであります。と云ふのは、彼等の一人が結婚をすれば、他の者はそのお友達と一緒に大陸に行く事を許されるだろうと思つたからでありました。こんな風で旅行するのを誰も誹る事は出來ません。愉快な漫遊のように見えるのでありませう。ソニヤもきつとその人々と一緒に行くのを許されるでありませう。彼女はお姉さんの離されぬ影で、どちら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も一人を置いて旅行する事は迚も出來なかつたからでありました。

この計畫は直ぐと極つて、その次ぎの問題はそれを實行するに就いて助けてくれる適當な人を見つけ出す事でありました。アニウタとイネズは知つてゐる人をあれこれと探して、大學のある若い敎授がよからうと云ふ事になりました。この人は一寸としか知らないのでありますが、正直な熱心家だと云ふ事丈けは分つてゐるつもりでありました。それ故一日三人の娘は皆んなして――ソニャは例に依つて殿軍であります――その敎授の家へ訪問に出かけました。

下部が三人の若いお孃樣方を取り次いだ時には、その人は書齋で仕事をしてゐました。少しも懇意な間柄と云ふのではないのですから、こんな人達の訪ねて來たのを喫驚いたしました。

彼は丁寧に立ち上つて、坐を進めました。娘達は長い寢椅子の上に三人して坐りました。而して暫くの間氣後れして默つてゐました。

敎授は若い娘達と向き合つた自分の搖り椅子に坐つて、交る〳〵一人々々を眺めました。すらりと脊の高い、美しいのはアニウタで、一擧一動のうちに彼女特有の微妙な優しさがありました。その大きな、輝いた碧暗い眼は、幾らかおぞ〳〵しながらも、ぢつと彼を見

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つめてゐました。イネズはあざ黒く四角な方で少し肥えてゐました。鷲のような鼻にまつい、涼しい眼をしてゐますから、中々きかない風に見えました。ソニャはちゞれつ毛がたつぷりあつて、純潔な正しい目鼻立ちに、子供のような無邪氣な額と、一種特別な、熱心にものを聞き且つ知らうとする眼を持つてゐました。

とうとアニウタは相談した通りを話し出して、平氣で斯う云ふ質問をかけました。『もし教授がこの人達を『解放』する事に賛成なさるなら、そのうちの誰かと假の結婚をあげて、獨逸か瑞西のどの大學かに皆んなを連れて行つて下さらないでせうか。而してその上で皆んなを其處へ殘しておいて下さらないでせうか?。』

他國とか、又他の場合とかで、若い男が美しい若い男の口から斯んな問ひをかけられたとしますと、その返事にはきつと幾らかの俠氣とか、皮肉の色があるでありませう。けれどもこの時その人はそんな事情などには平氣でありました——アニウタの撰擇が大して誤らなかつたのであります——而して非道く眞面目な冷淡な風に、自分は少しもこんな申込みを受ける氣はありませんと答えました。

すると若い娘達はどうだつたでせう? 斯う拒絶されてさぞ屈辱の思をした事と考へるでありませう。決して、そんな事はありません。この事件に就いてどんな事をするにしたつ

て、初めつからその若い男を悦ばせる考へはなかつたのですから、女性としての誇には何の關係もありは致しません。彼等は如何にも平氣にその拒絶を受け取りました。誰かゞ或人に一緒に旅行しませんかと尋ねた時、『えゝ』と云ふ代りに『否え』と云ふ返事を得たような有樣でありました。

三人の若い貴婦人達は立ち上つて、暇を告げました。教授は戸のところで皆んなと握手をしました。而して長い間どちらも二度と逢ふ事はありませんでした、彼等はその人が自分達の信用を傷けやしないかと云ふような心配はちつともしませんでした。それと云ふのは彼もこの神聖な同盟に屬する人で、お互ひ同士裏切る氣のないのが分つてゐたからでありました。十五年ほどして、ソニヤ●コヴァレフスキイが非常に有名になつた時、セントヒエテルブルヒのある會で、彼女はこの人に出會ひました、而して二人不首尾に了つた結婚申込に就いて笑ひ話をいたしました。

この時アニウタのお友達の一人は、戀のために詰らない結婚をいたしました。彼等はどんなにそのお友達を輕蔑したり、憐んだりした事でせう。ソニヤは殊に、斯うして誰でも凡ての思想を捨てるのだと思つて、胸一杯腹立たしい氣がしてゐました。その若い妻君も、お友達の前では自分もすつかり値打ちが下つたものゝように恥ぢてゐました。彼女は結婚

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の幸福などの事は決して話そうともしませんでした。而して良人にもお友達の前では自分を抱かないようにさせました。

ところが突然全く思ひもよらぬ事がソニャの上に起つて來ました。

アニウタとイネズは初めの失敗にも萎まず何處までもやる氣で、も一人り若い男を撰ひ出しました。その人はまだほんの大學生ではありますが、非常に明敏な人で、勉强のために自分でも獨逸へ行きたがつてゐたのであります。家柄もよく、皆んなから大層賴もしがられてをりました。そんなわけでアニウタの方でも、イネズの方でも、どちらの親達にしろ、その人と一緒になる事には、やかましい反對をしそうもありませんでした。今度の申込みは手輕にすまして仕舞ひました。アニウタが親しいお友達の家でその人に出逢つたのを幸ひと、自分達の相談の行きさつを話して、その胸を聞いたのでありました。彼はその計畫に加はるのは大贊成だけれども自分の妻としてはソニャを欲しいと云ふ全く思ひがけない返事でありました。

けれどもこの事は三人の同盟者には大變な事になりました。どうしてこの子供を、殊に六つ上のお姉さんがまだ片附かないでゐるところに、お父様にすゝめ立てゝ手放させる事が出事ませう。もしいゝ『相手』がお姉さんに申込んだのなら、お父様は反對しはしない事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

がよく分つてゐました。全くのところアニウタはその氣まぐれな譯の分らない性格で非道くお父様を氣遣はせてゐますし、それにもう若い娘の結婚しなければならぬ年になつてゐました。コヴァレフスキィは幾分か若いけれども、前途が甚だ有望らしいのですから、お姉さんの求婚者として受け合つて全く觀迎されぬ事もなかつたでありませう。けれどもソニヤは！ 駄目でありました。その申込みはきつぱり、取りつき場もなく斷はられて仕舞ひました。而して家族は直ぐとパリビノへ歸る用意をいたしました。

何としたものでありませう。田舎に歸る事、有らゆる希望を打ち捨てる事、若い娘達の生命の本體となつた凡ての興味に左樣ならを告げる事は——自分達は何か偉大な事件のための殉道者だと云ふ感じもしないまゝで、牢屋へ行きつゝあるようなものでありました。こんな非詩的な追放よりかは、自分達の思想のために本統に牢獄の苦しみをした方が氣樂だつたでありませう。

この窮境（ヂレンマ）になつた時、不斷は內氣なソニヤが偉い、斷乎とした手段を取りました。優しい小娘で、自分の愛してる人から、厭な顏をされたり、いけないと云はれたりするのさへ堪えられなかつた人が、この危機一髪の瞬間に於て、剛鐵のようになりました。生れつき非常に感じ易く、情が深くて、誰でも優しい目つきをされると直ぐ搦みつきたがる犬のよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うに、抱かれる事の好きな人が、一度反抗の精神が起ると、强情な精力と無慈悲を現はす事が出來ました。一瞬間前まで無性に愛してゐたその人でも、何と思つても構はず深く傷ける事が出來ました。彼女には感情の全く係りのないところでも、激烈な意志の力と、燒き盡す精力がありました。今や彼女は家を出て仕舞つてどんな價値を拂つても勉强を續けようと決心いたしました。

一族の晩餐會がある事になつてゐました。その朝お母様は買物へゐらつしやるし、お父様は倶樂部へ出掛けて、女敎師は女中に手傳つて客間の飾り付をしてゐました。娘達は二人つきりで居間にをりました。晩餐の時に着る筈の綺麗な新らしい着物は側に置いてありました。

二人は決してお伴なしでは家の外に出られなかつたのでありました。けれども今日家ぢゆうがごた〳〵して忙しいのを幸ひに、ソニヤは一人でそつと家を出ました。アニウタは一つお仲間でありますから、一緒に二階から下りて來て、妹が見えなくなるまで門口で見張りをしてゐました。それがすむと不安な待ち設けをしながら居間へ歸つて、輕い靑色の着物を着はじめました。

もううす暗くなつてゐて、まつ先につく瓦斯燈が輝いてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニャは面紗を下ろして、頭巾(バスリック)をしつかりと頰のまわりに結びつけました。而してこの時分には殆んど人通りのない大通りを、大股に步いて行きました——たつた一人でそんな處にゐたのはそれが初めてゞありました。彼女の脈動は極度の亢奮で高く打ちました。ロマンチックな事の好きな心を持つた若い人達には非常に興味のあるこんな素晴らしい計畫をしたのもその亢奮でありました。彼女はその身をこれから一役をしようとしてゐる小說中の女主人公のように思ひました。小さいソニャたる彼女は、これまではほんのお姉さんの影だつたのでありました。それでもこの小說は彼女が輕蔑した普通の戀物語とはずつと違つてゐました。

そのしつかりした、早い、規則正しい足どりで行つたところは、戀人達の出逢ひの場所ではありませんでした。息のつまるほど動氣の打つたのも、戀の亢奮のためではありませんでした。子供のように暗いのが怖くて堪まらなかつたのであります。彼女は直ぐ通りにある或陰氣な家の二階へ、灯のない階段を大急ぎで登つて行きました。一つの入口にそつと小刻みな神經的なノックを二度すると共に、その戶の直ぐと開いたところを見ると、今それを迎え入れた若い男は、彼女の着くのを待ち受けてゐたのでなければなりません。彼は直ぐと地味な書齋に彼女を連れて行きました。其處にテーブルや椅子の上に書物が積んであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

るかと見ると、こちらには又彼女の坐はれる所があるように、わざ〳〵裂けた椅子がちやんと掃除されてありました。

その若い男は小説の主人公のような樣子はしてゐない事を斷はつて置かなければなりません。その荒い赤い鬚と餘り大きすぎる鼻とは、初めの一寸と見には彼を醜くさせました、けれどもその深い碧暗い眼を一と目見たなら、つひ引きつけられずにはゐられない、賢こく、優しく、且つ情深い表情がありました。こんな風變りな方法で賴つて來たその若い娘に對する樣子は全くお兄さんのような風でありました。

若夫婦はどき〳〵しながら廊下にせき込んだ怒りの足音のするのにぢつとき〻耳を立て〻、待つてゐました。ソニヤは幾度も寢椅子から飛び立つて、まつ赤になつたり、まつ青になつたりしました。誰かが來たような氣がしたのでありました。

暫くして親達は家に歸りましたが、お客の見えるまでにはやつと着換をする間しかありませんでした。そんなわけで、食堂に集まつて食卓に着くばかりになるまで、妹娘の居ないのには氣がつきませんでした。

『ソニヤは何處に居ます？』親達は二人とも直ぐ斯う云つてアニウタに尋ねました。アニウタはまつ青な顏をしてゐました。この瞬間彼女は亢奮と期待の交つた反抗の表情をし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、不斷よりかも丈も高く、ずつと自覺してるようでありました。

『ソニヤは家を出たのです。』彼女は聲の震えるのを空しく抑えながら、お父樣の眼を避けるようにして低い聲で答えました。

『家を出た？　一體どうした事だ。誰と？』

『一人でゝすわ。化粧臺の上に手紙が御座います』

下部は直ぐその手紙を取りにやられました。一座は深い沈默のまゝ坐つて食事を初めました。

ソニャの加えた打擊は自分で分つてる以上に烈しく、且つ思ひも初めぬほど殘酷なものでありました。その子供らしい執念の中には、若い人の向ふ見ずな我儘があつて、それが人にどんな苦痛を與えるものか分らないのでありますから、容赦はありません。彼女はお父樣の一番の急所を傷けたのでありました。

親類の人々の皆んな居る面前で、この豪慢な人は娘の不始末に對する屈辱を忍ばなければなりませんでした。彼女はたゞこれ丈けの事を書いてありました——

『お父樣お許し下さいませ。私はオールデマールと一緒にをります。もうこの上は私共の結婚に反對して下さいませんように。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イヴァン●セルゲゼエヴィッチは默つたまゝこの文句を讀みました。それから一寸と御免を蒙り度いと云つて食卓から立ち上りました。

十分の後、いよ〳〵心配になつて來てきゝ耳を立てゝゐたソニヤとその相手は、待ち受けてゐた怒りの足音を聞きました。鍵をさゝなかつた戸はノックもしないでさつと開きました。而してクルコヴスキイ將軍は震えてゐる娘の前に立ちした。

晩餐の終り頃にお父樣と娘は一緒にオールデマール●コヴァレフスキイを連れて食堂に這入つて來ました。イヴァン●セルゲゼエヴィッチは震える聲で斯う申しました。

『娘ソニヤの未來の良人をお引合せ致させて下さい。』

野上彌生子譯

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

山と海と（日記）——川田よし

八月一日　晴

隣の小禽が今朝は朗らかに啼く。「自分を理解してくれる女に、よい小禽を飼つてもらひたい。」とK樣の日記に書いてあつたのを思ひ出した。ある時ある室内に於て、たしかに小禽の心よい聲に慰められるけれど、まだ飼ひたいと思つたことは一度もない。自分自身をも愛し得ない私に、どうして小禽の世話など出來やう。ある時ある場所で夢中に可愛がつてやつたとしても、ある時ある場所できつと、私は殺してしまふかも知れないと思つて、慄然とした。

蠶で忙しがつて月が變るとも思ひ設けなかつた時の間に月は變つてゐた。私は新らしく出直さねばならなかつた。クラシックな教育に哀れな模範生とされた女は、ともすれば眞理は目前に、美は足元にありながら、使ひ慣れた眼と感情とを外にしては、物象を觀ることが出來なかつたのである。自己の全人格を森羅萬象に投げ込み、生命を浸して美しき涙の一滴を注ぐ未來が、私の上にだつて來ない筈がない。眼を新らしくし心を純潔にして聲なき聲を聞かねばならない。何事によらず否定するのが私の癖であつた。時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

々進れ樣さする心は、佛壇の前に朝夕鉦を叩く母の心から、私の心深く拭ひ去るよすがもない程に、浸み通つてゐるのであつた。

夕方猫が怪我をして來た。「ブチ」と呼んでも返事も出來ない程になつてゐた。座敷迄來て、よた〳〵と倒れた。私は蚊を追つてやりながらそつとさすつてやると、痛いと云ふ風に體をぴく〳〵させた。「死ぬのでせう」と雇の人達が云つた。私はまだ手づけずにゐつた母と私の牛乳を持つて來て飮ませやうとした。しかし飮まうともしなかつた。口元迄やると恨しそうに眼をどんよりさせて、痛い體を身動いだ。

夜になつてから、近所の子が鼠を持つて來てくれた。それも亦かいで見たきりであつた。「どうせ死ぬのですよ」とまた誰かゞ云つた。蠶は百枚以上になつたので、桑を上げるのに一時間もかゝつた。それをすませてまた猫を見舞つた。牛乳は一滴もなかつた。鼠は喰ひ破られた腸を見せてゐた。私は輕蔑された樣な氣がして、いま〳〵しい樣な眼付に猫をも一度見返つた。

八月二日　曇

今日から朝永先生の近代思潮のお話があるといふので中學へ行くことにした。休になつて久しい校庭の草は、暑い日盛りをすく〳〵と延びてゐる。男子の學校

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はダリヤ一本の形にも何處か男の味が通つてゐた。ポプラーの葉は梢高くはた〳〵とゆらいでゐる。

朝永先生は、金子先生に氣分がよく似て居られた。あの方よりは、さすがに學者らしい嚴いところが多いけれど。

五日間のお話は大體、近代思潮の背景と西南獨逸派についてである。今日は文藝復興期からの「我」の意味をつけて神秘說からカント迄の道筋を大凡に進んだ。女の友の多くは、むづかしくて解らないと眠そうにして時間のすゝむの許り待つてゐた。

K樣からのはがきが來てゐた。

二人の思ひ出の驛から、山の間を汽車が走りました。向ふの山の緣りが帽子に青くうつるのでした。夜は叔父と、月見草の咲いてゐる河原に、月を浴びて魚とりに行きました。昨日は妹と草とりに行きました。やわらかな草の上に、蟬の脫殼などの落ちてゐる林です。朗らかな小とりの聲。Tは子供が出來たし、Gは神經衰弱で房州へHさんと一緒に行きました。

八月四日　晴

講義がすんでから、Sさんと二人でクロバーの庭に行くことにした。もう何もかも打ち開けたSさんも私が病氣してから自分の苦しいことを一寸も云はなかつた。見舞に來た時は、私をぢつと凝視し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。眼に涙が一杯になつて來ても、口を開かなかつた。

でも私には、其頃のSさんの心の動搖が、手を握つて居る内に私の血液の中に滲透するのを覺えた。可哀相な女と思ひながら私は私の病氣の苦痛に、專念に眼を閉ぢてゐた。久しぶりで二人は心の面を合せたと思つた。

クロバーの密生してゐる中に仰向けに寢ころぶと、地の濕り草の潤ひが體中に傳つて來る。アカシヤとポプラーが梢の線をすいて、空の紺青が涯しなく、心を吸ひつくすほどにいよ〱蒼い。Sさんは苦痛の沈默を續ける。戀失せし寂寞、戀せらるゝ苦惱、この二つは渦をつくつて蜘蛛の巣のやうに、Sさんの血液を吸つてゐる。

涙が落ちそうになつたのをかくして、他の木影の草にSさんが行つてしまつて、ひとりになると、私は明日お歸りなさるK樣のことで、幸福に滿ちてゐるのを覺えた。

その幸福に輝かしい眼をする時、どんなにSさんは苦しいかわからない。同情の出來ない私であつたかも知れない、と思ふと此靜けさが不安になつてたまらなかつた。

Sさんは殘り惜しそうな眼付きをしたけれどやはり默つて私の後からついて來た。

緑の草の上の、クリームの洋傘と、コバルトの包みと、薄色の下駄の緒との艶な冴えた配合がまだ眼についてゐた。跣足にこびた草の柔さを思ふと、戀人の肌ざわりが思ひ出された。別れる時Sさんが「私どうしても山へ行きますの」といつた。

一萬尺の高い山へ死にゝ行くのではあるまいかといふ不安が湧いたけれど、私は直ぐそれを否定して平氣をとりつくろつた。

八月五日　晴

蠶が忙しいので講習を休むことにした。網の樣に細い枝の空に亂れてゐる繪葉書に「Aに出てゐたおまへの顏をみて歸りたくなつた。五日の夕方にはつくでせう。」といふことなど書いたK樣からのたよりが朝のお茶の濟んで間もない頃着いた。私はわくわくする程人なつかしい情に滿ちた。

お歸りなされたのは、電燈が點いてよほどしてからであつた。それ迄馬車の音のする度に幾度庭へ出ても見たか知れない。

「大變丈夫そうになつた」と仰しやる。

二人は十餘日の顏をしみ〴〵合せた。

青い月光が障子にさす。二人は裏から田圃の方へ歩いて行つた。草には露がしとゝに結んで、裾がしめ〴〵して來た。空は澄み切つて涯しなく晴れてゐる。圓い

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月かげは仲秋の頃の様に傷み易い心にさせる。

やがてある海岸の旅のことを云ひ出すと、

「女は單純なものだ」といふ笑みを見せて男は泌み泌み女を抱いた。女の乳房は小さくなつてゐた。

私は過去の尊さもやはり、現在の尊さには及ばないと思ふ。すべては形をかへる、愛も憎みもすべて形をかへる。昔のまゝの形で愛が私たちの中にあるならば、それは滞り腐る。私達は日々に新らしく生々として息づかねばならなかつた。いつも二人の前途に「新しき喜あれ」とねがつてゐる。

そしてそれを今も信じてゐる。海岸の旅、輝く雲、二人の新らしいそしてはげしい愛は、またそこにもゐる。何處にもある、滿ちてゐる。生活の全ては私たちには、深い強い意味である。とK様の此頃のたよりに書いてあつた。

私達の戀ひ求めてゐる "Something new" は此夜をこめて、二人の心の潮流となつて強く表れるのを感じる。思ふこと思はるゝことの價値の尊さは今更ながら、涙ぐましい迄に全身に漲るのを覺えた。

八月七日

講習は昨日ですんだ。難しかつたので綜合して思ひ起すことはとても不可能なことであるけれど個々の話と、何か考へね

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ばならぬやうな氣分にさせられたことは大きい賜である。今日は教育部會がある
そうである。

竈のためにすつかり疲れたからよそうと思つたけれど、K様が御話をなさるといふので行くことにした。朝永先生は昨日の殘りを「自然と理想との關係」としてお話なされた。K様は「藝術上の問題」といふ演題の下に象徴主義のお話をなされた。

中學校長が勅語を奉讀するとき、白いヅックの靴をはいた若い先生が儀式正しく、校長の前へ御勅語を持つていつた。濟むとまた丁寧にお辭儀をしてそれを下げた。

K様は「ショウといふ皮肉な男がありまして」といふ調子で喜劇の説明から、その儀式を喜劇の圏内に入れて、湧き出る様に話を續けられた。ロマンチシズムに入つてから、友達が、かいたといふ「海と椿と女」といふ大きい繪を塗板にお貼りなされた。

水色がかつた講堂の色彩に、眞紅な椿の三本の木と、眞白い花と、濃く深い蒼い神祕の海の色と、物思はしげな女の朱の腰巻とは、强烈なしかも感傷的な印象を二百の人々の頭に投げた。外は夕立になる前の風に木の葉が搖れて、多様に變る光線に、一枚の繪は百萬言の物語りをした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さあつと激しい雨が來ると皆深い呼吸をした。窓を閉める音が暫くやかましかつた。

八月八日

朝の内は少し生々して居る野菜も、八時頃になるともうなよ〳〵してしまふ。茄子許りが頑丈に紺青の幹を延びてゐるのが不思議である。丈のひくいもろこしの子は、待ち遠な子供のために裂かれて、水々しい豆を見せてゐる。

今日の會には、東京の有名な新聞記者が來るといふ著書もある方だといふ。

待ち設けた其記者は豫想外の人であつた。體格は人並勝れてよいのに、不健全と不健康とを表す樣に顏色は眞蒼であつた。

演壇に登ると、記者らしい態度に「おくつろぎなさいまして。」と如才なくいふ。内面的な、充實した眞摯な朝永先生の感じから、突き出された程に反對な外面的な、皆放散して輝かしい許りで内には殘つて居る何物もない態度がいやであつた人の氣色許りを伺ふ以外に何も話の充實はなかつた。ベルグソンとオイケンの話をした。輕薄な引例の滑稽は女の滿足を買ふには充分であつた。面白かつたとか悟つたとかいふ女が多かつた。東京から來た女學校の女の先生は「横に擴がる空間に縱の時間か流れて來て交叉する時」などゝ其記者の眞似をして、いろ〳〵な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

表情をしてゐた。東京の女は顔面筋肉の發達から表情か豐だといふ。けれど此のひとの様に誰にも誠實を見せやうとする故意は見苦しい許りである。

Sさんは大變沈んでゐる。「Mさんがね、一人子をなくした時だつたから死ぬ心意で山へ登りましたの。そしたら一寸だつて怖しい處なんかありませんでした。と仰しやつたの。そんなことを考へたらば何だか不安になつたんですけれど、でもまだやめやうと迄は思ひませんの。」といつた。そして「川田さんにおよしなさいと云はれるのが一番怖い。」ともいつた。

K様は午前きりでお歸りなされたのであつた。「ベルグソンを知、オイケンを情として分類するなんて不見識があるものか。」と惜々しそうに仰しやつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

嫉妬の意識（日記）

生田花世

私は野原さんの顔をぢつと眺めてゐた。詳しい事情をここに書いて置く必要はない。つまり野原さんはゆくべき處もなく、又歸るべき處もなくなつたのである。取るべき職業もまだ見付からず、又眠るべき家もないのである、もとより此の女が家を出たと云ふ行爲は穩當なものでなく、又輕卒なものであつたのは云ふまでもない、今に至るまで殆んど一ヶ月もの間、通信さへ許さない此の人の家族の人々はこの人に對してこの人の行動を怒るだけの事情はあるに相違ない。然し家族のものとしての正當な態度は、凡てかう云ふ場合には、家を出ない間は出さないだけのベストを盡し、一旦家を離れた以上は、離れたものとして、それに對する愛のベストを盡さなければならないものである。一朝そこを流れ出した水はもう再び舊へ流れて還る理由がない。野原さんを咎める事はもう過去であつて、現在ここに職業もなく、眠るべきところもなしにゐる悲慘な一人の女はこれは痛ましい救ふべき人の子であつて打擊してはならないものである。

私たち二人の結婚の生活はまだ二三ヶ月にしかならないし、お互の愛情の狀態もまだ可成泥醉してゐる狀態である。それに物

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

質的に云つても私たち二人は自分たちの其の日其の日さへ不安がないと云ふのではない。然し今かうして私たち二人の前に提出された問題としての――この職業もなく眠るべき家もない人の子をどうして反撥する事が出來よう？　私の心には可成混雜する不安の裡から、どうにかしなければならないもの丶やうな同情が泉むのである。殊に私達二人のものは二人とも十年あまりもの間、人の力を養ひとして漸く芽を伸ばし葉を伸ばして生長してくる事が出來た、私たち二人が生長し相愛し、結婚する事の出來たのは、一に他人の力でなくして何であらう、それで私は私が人から受けた力を、今は私が人に與へねばならない様に思ふ。人類的な報恩の意味は甲の人から受けたものを甲にかへすと云ふ場合は稀有の事であつて多くは甲の人に受けた力を乙の人に移してそこに初めて甲の人に對する人類的の報恩を濟まし得る譯のものではないだらうか。私が今、この困つてゐる一人の女の上に施す愛は私が過去に某々氏からか丶る場合に受けて來た愛を人類的な廣い關係の下に人類といふものに報恩し得る譯ではあるまいか。今私がこの女の上に働く私の力は寧ろ私を生長させた某々氏の力であるのではなからうか。

此の窮迫した人の子を拒絶する事、若しくはさうしないにしても、それは私の重大問題ではない、何よりも私は私に本當に大

切な決心――それは眞理の上に植ゑ付ける私の自覺を造らねばならない。

　私は興奮して紅くなりながら、いろ〱の事を陳述する野原さんの顔を見て、それを聞いてゐる間に、人の此の世界に在る事の意義が、自分を他人に加へる事が、――他人を自己に包括する事が――もしくは自他を一つの宇宙とする事が正しい美しいそして眞の藝術品としての存在である事を直觀する事が出來た。

　私はこの女を自分の生活の中に抱きたい心持を覺えた。またさうしなければならない樣な人類的な義務も感じた。若しも私の心が「人間の正當な生活に根ざさない事であつたとしたならば、私が何らかの虚榮のため、何らかの野心のため、また私がこの人を利用しようとするために、眞にこの人を自己とする欲望なしにこの人の上に私の意志を投げかけるならば私は其の時、世界的の意味の罪人である。本當にこの人を自己の生活とする事が私の眞摯な欲望であるか――どうか？

　それが私の唯一の問題でなくてはならない、その中心の問題さへ私の心に確立すれば、たとへ私たち二人の結婚の生活が、まだ日の淺いものであつても、私はこの人を懷に抱く事が出來る。凡てさうする事が正しく美しい事であり誤りのない事でさへあるならば私は明日の食べものに困つてもこの人を私の家に眠らせる事が出來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

――五月三十一日――

私の心境が新しい道程を經て、極めて有望な高い空の方に展開する事の出來る意味多い苦悶が私の前に現れて來た。私は今その苦悶のために胸奥の痲痺する樣な悲哀を感じてゐる。私の目には涙が浮んでゐる！

その凡ての事情の詳記はここに書き上げる餘裕がない、要するに家もなく職業もなく、まことに危うい弱い一人の女――野原さんが私の家にあゝして暮してゐる。

野原さんは私の生活に苦しい大きい意味を以て現れた、それは私たち二人の愛を試みるものゝ樣でもあり、また私の心を高めてくれる機緣でもある樣である。

私は野原さんに當分の間家にゐていゝと云ふ事を告げた。而して野原さんは私とともに暮してゐるのである。私は野原さんに接するに從つてこの危い弱い人の子を憫れみ悲しまずにはゐらなくなつた。そしてこの女の無垢な魂を私が昔經て來たやうな苦しい血まみれのものとさせたくないと思ふ欲望を強く感じて來た、私の知らない女の命が何十人何百人あつて、その人々が踏みにじられ泥にまみれてもそれは私がどうする事も出來ず、從つて私の生活には何の交渉もない、然し今や私の懷にゐる一つの命はもう私の生活である私がこの命を愛する心は、また私が公けに女性全體を愛すると云ふ行爲に外ならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然し私の頭上には思ひもかけない黑い雲がかぶさつて來た。

或る私の知つてゐる男性がある、その人の夫人を訪ねてその故鄕から上京した親しい女の友達があつた、夫人はその女の友達に對して昔のまゝの暖い友情を持つてゐたので、その上京を喜んで迎へて、一時自分の家庭におちつかせた、が、それは意外な災禍となり、その女友は夫人の男の意に應じて、夫人は一年ならずして家を追はれて、而してその後に、その女の友達が妻となつた――と云ふ事が私の知つてゐる一人の男性にあつた、男と云ふものにはさう云ふものがある。然し、私は、自分の夫を、かりにもその種の嫌疑をもつて見る事が出來ようか?

然し苦痛は猶豫なく私の心を曇らせねばならなかつた、そこに何かがあつたであらうか――もとより何もないのである――然し苦痛は自然の現出であつて、私はどうともする事が出來ない――何も事實はないのである、否、有るべき豫想さべもあるべき筈はないのである、然し苦痛の意識が私に生れて來たのである。

此の日私は午前から家を出て、二三軒の知己をたづねて、家ではその人が留守居をしてくれてゐるので安心をして、夕方まで居て、歸つたのは五時をすぎてゐた、私が家に入ると野原さんが出迎へてくれた。その青ざめて見える顔色は境遇の不安のため

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に荒んでゐる、部屋に入ると夫は私を見て、景色ばんでゐた――いらいらして、けわしい言葉で、歸りのおそいと云ふ譯をたづねた、男のその眉目にも暗い青ざめたところがあつた。私はそこにべつたりと坐つて、そして此男の言葉にすべての幕を切り落された心持がして、涙が靜に浮んだ。私の心は初めて意識する苦しみに痛みながら――、

私は苦しい！　どうすればいいのであらう。私は夫の顏とさうしてあの女の後姿さを見て吐息に沈んだ。――六月二日――

昨夜――人の寢靜まるのを待つて私は自分の室を辷る樣にして、椽側に出て、そつと雨戸を繰り開けて、暗いけれども冷たい潜んでゐる夏のはじめの冷たさの漂う庭におりた。庭は濕つて暗く冷たいけれども、空には青白い月が光つてゐた、猫も歸つて來ない、あれはどこへ行つたのであらうか――檜の垣のむかふに見える、黒板塀の上を白い手毬のやうなかたまりに見えて、猫が歸つて來ないだらうか、暗の中にも微かにスヰートピーの花が二つばかり白く浮いて見える、私は寢卷のまま、その土地の濕りにぬれる程蹲つて、そして空の方に目をむけてものを思つた。

今日は事の多い日であつた……母の手紙では、私の國の私の家の隣りの農家の今年九つになる照枝さ呼ぶ女の子が、山の間の池で溺死したと云ふ事を知らして來たし、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

午後には夫がドストエフスキイのもの――それを買ふ金の、工面をしたりした。

それに私は昨日よりももつと濃い苦痛につつまれてゐる！　あの女が何をするであらう？

それのに私が何故苦しいであらう？　自分の男が何をするであらう？　それのに私が苦しい。私は本當に二人に對して惡い事を考へていけない、どうして私はこの樣に無智な苦痛をこしらへるのであらう！　自分の夫が一寸あの女を注視した、ただそれだけの事が私を苦しめる！　自分の夫は私があの女を不憫に思ふやうに、やはりあの女を憫れんでくれなくては困る、それのに夫があの女を見る時、私の心は痛みを覺えて來る。

いけない！　これは世に云ふ惡女の情けである、私はさうも思つた、しかし苦痛の意識はやはり私を捉へてゐるのである。今私は自分で自分の愛を試みてゐるのである、私があの女を愛する事は私の欲望である。私はあの女の事を思ふ時、私がもしもこれを突き放す時はとりかへす事の出來ない危險があつて、私がそれを保護してやらねばならないと思ふ欲望がある、この女が社會と云ふものゝ濁流にその何も知らない命を流して了ふことは、私の今の心持、廣く自己を占めてゆかうとする欲望、他人を出來るだけ包括しようとする愛の當然の不安である、それに私はこの女が自分と自分

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の夫との中間に介在する時、無限の苦痛におびやかさるる、私はどうして愛して、且つ苦痛なく、何故安らかに悦ぶ事が出來ないであらう？　夫に對する私の愛がまだ強固でなく、この女に對する私の同情が本當のものでないからであらうか？　結婚してまだ百日にもならない、二人の愛がまだ若いものであるからであらうか、假りに二人が結婚後三年ほどしてであるとした時、かう云ふ事はないのであらうか。然し私は今自分がこの苦痛に出あつたからと云つて、この人の子を救つたことが無智であつたとも虚僞であつたとも思つてはゐない、たとへ私がどの樣な結果に出あつても私は少しも悔いるところはない、私は悔いると云ふ消極的な態度よりも、むしろこの苦痛に打ち克つ努力をしたいと思ふのである。

――六月六日――

私の心が嫉妬に曇つてゐた、私の心はあの女に高價な犧牲を拂つた。私は胸のしびれる樣な苦痛の二三日を暮した。はじめ私はこの苦痛が嫉妬であらうとは少しも思はなかつた。然し今はこの苦痛がまぎれもない嫉妬である事に氣が付いた。然し私がその事に氣が付いてからも私のこの女に對する心持には少しも動搖がない、この女を今の場合――未來は云はず――手放す事が出來ない、それは私自身の感情の不安だからである。この女を幸福にしたい、この女を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

助け出したい、この心持は私の純な欲望であるからである。

私の嫉妬はつむじ風の様に猛然と吹き起つた。然しその嫉妬の內容は對他人的なものではなくして、たゞ自己をのみ傷害しようとする性質のものである。私はこの女のために無意識に壓倒せられるやうな形跡をも感ずる。

然し、私はこの暗中を摸索して光を得たい、私はこの苦痛――嫉妬の意識を自分の力でたしかに純化し消滅させる事が出來るとおもふからである。で、私は靜に考へを進めた。

私は自分の夫を思つた、そして夫の性格を思つた、そして私は自分の性格を反省した、而して最後に私はあの女の性格を觀察した、無智がこゝに橫はつてゐる。この場合、この人、この性格の間に何が發生する事が出來よう。然し其の他にはかりしられぬ――私の心が思ひも及ばぬ理由が在つてそれが成立したらどうであらう！

私は再び夫の顏を思ひ起して、そこに自分の精神を集中させて、そして自分はこの人を――この未知數の人を――信ずるが、信ぜざるか、この二つの道しか自分にない事を思つた。信じないとする――要するに私の自然な心の聲は、私の性格に根ざす私の欲望は信せんとしてこの人を信ずる事が出來ないか――と自分にたづねた。

然し私の自然の要求は信じたい！とさ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う小さな聲を上げた、信じたいのだ、本當に、永久にこの男を信じたいのだと私の心が答へた。それで私はこの信じたいとおもふ心持を、これを伸ばして、力強くして、そして苦痛を除去させようと思ひ出した。

信じたいのだ、そして信じるのだ、非常に信じねばならない、信じられない場合が私をいやと云ふ程私におしよせてくるまで信じてゆくのである。信じる心が足りないから苦痛なのである。信じないから、自分の所有するものに不安を起すのである。信じねばならない。信ずると云ふ事に私の心を燃燒するのである。さうすれば私の周圍は私の集中力に順應するのである。それが眞理であるからである。信ずる時私の顔から曇りがとれる、信ずる時、私の聲は朗かになる、信ずる時、私の瞳は温かである。さうすれば夫も亦、あの女も私の信ずる力に生き始めるのである。そして云ふまでもなく私は二人の命に對しては、太陽となるのである。そして二人を適當に生育させるのである。さうすれば夫は安らかにその勞作をつゞけ、あの女には出來るだけ有利な境遇をさがさせて、そこへ送り付ける事が出來るのである。

さうしてもし、自分のこの信の力をつき崩すだけの――私の豫期しない事實が出來て來たならば、そして私の前に二人の愛が成り立てば私は其の時私はどうして悪びれよう！　私は臆せずに、その苦い盃をのむ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のである。信ずると云ふ心は、その苦い盃を飲むのであると私の態度を定めた時に、はじめて強烈なものとなつたからである。それで私は自分をこの信仰の上に植ゑねばならないのを感ずる。かくして信ずる力を確かに持つ事が出來る時、私は何に出あつてもそれを征服し所有する事が出來るのである。

——六月七日——

野原さんは私の家を出て行つた、ある私達の知つてゐる人の家の出産の手傳にと話がまとまつて、而して、今私たちから別れてそこに行つた。自然に行くべき處に行つたのである。

その女の人が出ていつてから、家の中で、たゞ二人ぎりとなつた時、私は自分の偉大（おほき）い努力のよろこびを樂しんだ、私はひそかに自分の信仰の力を讃美せずには居られなかつた。そして私は新しく男を愛した。

——六月八日——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

安河内警保局長の意見に就て

岩野清

去る七月廿八日に東京朝日新聞紙上に「困つた女の問題」として安河内警保局長の談話だと云ふ記事があつた。其記事中「青鞜社とか云ふ連中」は「色欲の餓鬼」であると云ふ箇條に對して、安河内局長の言責をたしかめるために、八月一日同局長を内務省にお訪れした。平塚明子氏と私とである。私達は勿論同局長に對して地位ある紳士としての尊敬と禮儀をはらつて面會を申し込んだ。然し同局長は[illegible]多忙とあつて圖書課長後藤氏をして代つて私達の用談をお尋ねになつた。で私達は課長を通じて、どう云ふ見方で「色欲の餓鬼」などと云ふ重大な侮辱をなすつたのかと質問した。處が同局長の課長を通じての返答は、「青鞜社の幹部の人々に對してさう云つたことは斷じてない。」と云ふのであつた私は又、

「では、此記事に青鞜社の連中とありますのは記者の誇張でございますか？」と再び押し返してお尋ねした處、

「それは、「青鞜」の讀者、或は謳歌者の中に、徒に色欲に走つてゐるものがあるから、それらの人達をさして云つたのである。」

「それはどう云ふ事實から斷定なさるのですか？ 公人として、新聞のやうな公衆の耳目を持つたものに發言なさる以上は、無論たしかな根據がおありになる事と存じます。」

「然しあなた方御自身雜誌をお出しになつてゐても、其讀者中にどんな人達があるか殘らず知つてお出になるとは思はれません。只局長は多數の讀者中にさう云ふ人があると云ふ事をお認めになつてゐるのです。」

「ではこれはたれでございます。」

「それは個人の私行に立入ることですから申上られません。」

「それは多くの讀者中には稀には失敗がないとは、私達もお受合はいたしません。けれど、それは讀者の一人の事で青鞜社とは關係のない事でございます。そんな關係のない人達のために、社の名を出しになる事は、私達としてまことに迷惑な事でございます。」

「お說は私も認めてゐます。只「青鞜」が婦人文藝雜誌の代表的なものですから、例へば青鞜のやうなと例に引いたまでなのです。」

「御存じか知れませんが青鞜の社員と云ふものは僅々四五名に過ぎないのでございます。」

「こちらでは勿論青鞜にどれだけの人が働らいてゐるの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

か知つてゐません。我々は青鞜社には若い婦人達の多數が集つてゐる大きな團體だと思つてゐました。」

「さう致しますと、私達の內部がどんなものか御存じなく、只漠然と世間の評判位を根據になすつておつしやつたやうに存じられますが。」

私達の質問に對して課長は、讀者或は謳歌者の中にあると認めてゐると云ふだけで、根據のある事實をもつてはゐられないのであるから、この點を平塚氏も私も再三押しつめたけれど明快な回答はなかつた。

で私達は、何れ此會見は新聞に發表するつもりでございますが、局長が青鞜社の內部の人達を指して、あゝ云ふ言葉をお向けになつたのでない、と云ふ事に言質をお持ち下さるかと念を押した。それに對しては課長は明らかに責任を以つて「青鞜社の內部の人達をさして云つたのではない」と答へられた。

私達の會見はこれで終つた。課長事務多忙の間に、私達のために局長の代理として快よく會見下すつた事は、私達二人共厚く御禮を申し上げる。然し、局長が青鞜社の內部のものの一人をも御存じなく、又雜誌青鞜が常にどう云ふ主張をしてゐるかも觀察なさらずに、徒らに世間の衆俗の風說に雷同して、あんな漫罵をなつた事、假令、讀者をさしたとお云ひぬけになつても、苟も地位あり名望ある紳士として、甚だ輕卒な事だと思ふ。さうして問ひつめれれば、箇人の私行に立入る事だからと遁辭を弄される。それだけ箇人の權利を承認なさる紳士の態度がおありになる程なら、なぜ全然御存じない青鞜社をみだりに名ざしてあんな誤評をなしつたか。又假令讀者中にたまく失敗者があつたにしても——私達は少なくとも青鞜を眞に了解してゐる讀者中には、決してそんな評にあたる人達はないと信じしゐる——それを社に責任があると斷定するのは不法だと思ふ。人間の生活は局長のお考へになつてゐる程原因結果の單純なものではないそれが果して青鞜を讀んだからか、或は他の動機から出たか、又青鞜を讀む人、必ずしも他の新聞雜誌を、少しも讀まないと云ふ限りはない。然も青鞜は色欲挑發的の言論をした事にはない。もしあるとおつしやるなら明らかに指し示して頂きたい。

とにかく私達は、無智、無理解な世間の衆俗と同じやうに、同局長が確かな根據もなくみだりに青鞜の讀者に對して酷評なされたことは、地位ある紳士として甚だ無責任な事だと思ふ。

最後に、青鞜社には關係のない事だが私として治安警察法第五條の改正に就て少しく局長の御意見を課長から伺つたがこれは別に他の雜誌で發表しやうと思つてゐるから、茲にはこれに就ては書かない事にしておきます。

（大正三年八月二日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新しい女のために――上野葉

警保局長の意見といふをきゝて

頃日警保局長が青鞜社同人を目して色欲の餓鬼だど公言したことを某新聞紙は傳へてゐる。それに對して局長が全然否定されなかつたのに見ると其言を幾分信じなければならぬ。是は偶局長によつて世の先輩諸老の通弊を代表したものではあるまいか。

我國の老大家諸氏が後進青年に對する態度は悉くこれである。彼等は一足飛に空中にぶら下つて居る。高く棲つて其足下にはどんな路がついてゐてどんな谷が有つてどんな岩が錯綜してをるかには一向無頓着である。そして一も二も無く平然として今時の青年は駄目だ。新しい女なんてものは云々と斷言して恬として愧ぢない信念の美しさよ。こんな杜撰な頭腦、輕卒な品性の彼等に頼つて經綸せられてをる國家の前途は危いではないか。

すべて科學的結論が精細な立證に出てゐなかつたならば吾々は決して其法則を認めもしない、尊重もせない。論理的な近代人に向つて前提を無視した憶測を強い樣さしたつて誰が首肯するものぞ。水素と酸素とが二と一との割合で化合したならば何が出來るかと云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

間に對して小學兒童が煙の樣なものになるだろうと推斷する樣な調子で青年を推斷して得々としてゐる。彼等は一度も立ち入つて青年を知ろうともしなければ研究を仕樣ともしない。それで青年男女の指導者たり得るならば寧ろ奇蹟だと云ふの外ない。

人間を今無自覺者と自覺者との二つに分ける。前者は因習によつて盲目的從屬的に己を左右して行く方で行爲の標準は他にある。行爲の根底が自己にないから虚僞矛盾動搖が多い。一貫した底力がない。後者は自我の眞聲によつて自我を律して行く方で標準は己に在る。——自我と云つても勿論主觀客觀兩面より來つて一丸となつてゐるもの——常に內に向つて反省して行く人達であつて如何なる些末な行爲でも他人の定めた誼に一任してそれに甘じて居る樣な無責任者では無い。一々自己內面の僞らざる要求自己充實の切なる情感によつて自己に責任を負て自己を實現して行く所に底力が有る。二者の分れる所は年齡敎育男女の如何等には關してゐない。しかし大體の傾向から見たならば他の指導によつて動いてゐる少年少女とか久しい間因習に慣れて反省力の鈍つた中年以上の男女は多く無自覺の狀態に置かれてゐる。殊に最も著しいのは殆ど絕對に男の從屬になつて一も二も其敎に盲從して內省の餘地を與へられなかつた女性は比々として皆無自覺者だつたと云ふ一事である。彼等の多くは父母の云ふが儘に家事を見習ふ。結婚する。夫の我儘に虐げられる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

子供を産む育てる。子に從ふ。これが女の道だそうだから踏まねばならぬと觀念してゐた。彼等には自我が眼覺めてゐないから人格と云ふものはない。人格がなければ眞否を批判する識見が無い。是非を撰擇する能力が無い。識見もなく能力もない、彼女達には因習道德が唯一の準據となつてゐるのは理の當然である。然し此種の女性は既に葬られ樣とし て今はむしろ無自覺から自覺に入らうとして一方因習道德を疑ふと同時に他方に未だ明瞭な自我の形が表はれて來ない。何故吾々は女として の道を行くのだらうか？　その女の道とはどんなものか。貞操とは？　母として？　人として？　なぜ何が善で何が惡なのだらう？　なぜ男と女とは仕事が違ふのだらうか？………多くの問題が一つ一つと無自覺な女の頭に閃いて來てしかも解釋を下すことが出來ない。現代の思潮に多少觸れた若い女老い女は何れも此懷疑の岐路に彷徨してをる煩悶してをる。獨り女性のみではない。多くの男女青年は何れも因習を脫し樣として懷疑に陷つてをる。なぜならば自我を呼び覺して吳れる聲が未だ極めて微弱だからである。そして刻々に疑惑し刻々に煩悶しつゝ眞に吾々の行くべき道は何處に存してをるかと深思默考してをるのである。現代は無自覺の狀態から脫し初めて煩悶してをる懷疑者が其の過半を占めてはゐないだらうか。當局者は斯かる懷疑者に對して何等の努力を拂つてをるだらうか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

偶々極めて少數の眞に自覺した女性がある――言論に表はれてをるもの否らざる者との二種があるが――彼等は舊い女の樣に炊事もする。洗濯もする。裁縫もする。子も產で育ててをる。然り其行爲は舊い女と何の異つた處もない。けれど其動機に至つて霄壤の差がある。彼等は他から强ひられてそれに盲從乃至屈從をしてをるのではない自我の要求に出立して自ら進で動いてをるのである。從つて彼等は自己の行爲の一つ一つを明瞭に理解してをる。徹底してをる。如何なる事變が襲つて來ても一寸も其立場が動搖しない。輕擧妄動は自覺者に見ることは出來ない。彼等は一步を進めて更に女性自らの實質を充實せしめるために普通の女達が座談に交際に浪費する時間を讀書に利用して內生活を豐富にし樣と努力してをる。內省に思索に利用して益々透徹し樣と努力してをる。衣食住に費す下らぬ勞力を省いて或は藝術に或は職業に注がうとして簡易な方法を案出し樣と努力してをる。かくて彼女達は決して男性を女性の敵對の地位には置いてゐない。元來男女は同じ人間と云ふ大道をこの異つた二つの形を以て無始より無終に同じ方向に好伴侶となつて共同作業をなしつゝ步いてをるのである。其間にはたゞ單に兩者を結び付ける愛と云ふ絆があるだけに敵意もなければ惡意も介在してゐない。兩者は互に他山の石となつて後れる者を導き先する者に導かれてすつきりとした心持で濶步して行くべく造られてをる。或時代に女の足

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の弱かつた爲に對手の男はたゞ氣兼をして卑屈になる事だけを知つて其足を改良することに怠つたが爲に遂に道の片端をおどおどしながら後の方からついて來るの外はなかつた。それが久しい因習となつて內に省みる暇なくたゞ對手の顏色ばかりを窺ふ無自覺者となつたのである。二つの形の人間が並で步くだけの大きさの有る人間道に其伴侶が遠のいてをると云ふことは互に寂しいことである。互に物足らぬ事である。自覺した男女は後れた方を引つ張り上げ先立つ者に追つ付かうと一生懸命に努力してをるのである。男と女とは已に其形が異つて居る。從つて其實質に於て何等抵觸する所はない己は己の形を益々美しく發展させて行けば其所に何等の爭鬪は起らない。そして人間と云ふ共通の道を步いて行くのである。――例外のあることは念頭に置て――

女として自覺すると同時にゝ人間として自覺してこそ吾々の總てである。性に特殊な行爲思想もあれば性に共通な行爲思想もある。それ等がすべて自我のドン底に根ざして來ねば徹底した眞理に生きて行くことは出來ぬ。徹底した天地を開拓して行くことは出來ぬ。自我がすべて動搖のない自由意志に出立したならばやがて期せずして社會は盤石の安きに置かれるであらう。

一度自覺に入つたならば最早安閑としてゐられようか。誤られた因習から脫して新なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞理を闡明して行く時に常に其行手に横はつてをるものはそれ等因習の迫害である。勿論それは彼女達の豫期し隱忍してをる所なのである。しかしながらそれ等迫害が苟も思想界の先鋒に立ち風敎の衝に當つて世の木鐸を以て任じてをる人々、國民の蒙を啓いて行くべき局に在る人々の無自覺無理解から投げ付けられるとしたならば蓋し思半に過ぎるものが有らう。如何に自家撞着の甚しきことよ！

抑も經世の要は仔細に民情を勘校し人心の趨向を考へて之を善導して行くに在る。行政のための行政ではない。法のための法ではない。苟も眞に憂國の士が有つたならば時々刻々に轉變しつゝ有る活きた世界を治むるに死んだ法を布いて甘じて居られるであらうか。時々刻々に進で行く思想界を導いて行くのに何時までも昨の思想を準繩として安じてをられるだらうか。吾々は日々に新である。此日々に新なる吾々を治めて行く彼等は果して日々に新なる梭察を實行してをるで有ろうか。靑年男女の間に鬱勃として動いてをる徹底した思想、眞理に勇む元氣、新なる建設のために萬難を排して努力しつつある不撓の意氣、それ等は悉く個人としての立脚地を固むるのみならず延ひては懷疑のために動搖してをる社會の地盤を根底から築き上げる唯一の新しい力ではないか、それを迫害するとは何事ぞ！ 若も彼等に一片の誠意誠心と物を洞察するだけの明とが有つたならば苟も黑白の批

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

判を誤らないであらう。否むしろ自覺の先達として彼女等を推賞利用してこそ彼等の本領ではなかろうか。少くも老いて益々後進青年の研究に怠らない唯一人者大隈翁の幕下に一人の具眼者のないのは慨歎の至ではないか。

迂遠な道德や信條が已に青年の間に葬られてもつと自我に痛切なもつと徹底した何物かを求めてをる底力のある思潮が流れてをる事實に鑑みて侮るべからざる大勢を如何に善導すべきかを攻究せねばならない。そして其實情を熟知した上で正しい、批判の下に或は之を採つて奬勵するも可。默過するも可。發賣禁止を命ずるも可、要は青年を導くには青年の心に入つて女性を導くには女性の心に入つて理解ある適切な方法に出でなければ害あつて益のない努力に終つて了ふ。

實業界のこと官界のことすべて眞理は玆に在る。無責任な空論を排除しなければ行政の實質は擧らない。眞摯な勇敢な女性を迫害する前に先づ行政當局者敎育當事者新聞記者諸老の猛省するにあらざれば益紛糾は紛糾を生み混沌は渾沌に錯入して人心の趨ふ所を知らざらしめるであらう。國事多端の折柄益々愼重な態度と根底ある自覺とを以て自他共に努力し度いものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最近の感想――らいてう

第三週年に際して

私達の中から生れた弱々しい子供がどうにか此處まで發育して今度で丁度滿三つといふ年を迎へるにあたつて、私は可愛い子供の將來に對して色々の期待と憂慮とを持つと同時に今迄だと〳〵しくも歩いて來た三年間の子供の足跡をこと新らしく顧みずにはゐられない。

私は初號から順々にその足跡をしらべて、さま〴〵な感慨に打たれたのである。單に誰にでもすぐ目に付く外觀――例へば編輯の仕方だとか、執筆者の名だとか、雜誌の體裁だとかの上に著しい變化があつたと同樣に、內的方面にも變化もしくは進歩のあつたことは確である。その歩みは誠にはがゆい程のものだつたにせよ、全體としての傾向、特徵、若しくは、中心生命とか、眞精神とか、名付くべきものが漸く鮮明の度を増して來たことは否定出來ない。最初は渾沌として何ものとも分らなかつた子供の精神の內部からそこに何かしらそれ自身の世界が創造され、一個の獨立した人格者とならうとするものゝ萌芽が明

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に現れて來たのである。私は極、大まかに通觀する時、まづこの點に注目せずにはゐられない。

始めの何號かの「靑鞜」は只女流作家の作品ばかりを羅列したといふやうなそしてそれが婦人の手によつて經營され、編輯されてゐるといふやうな外面的な特色の外何ものもなく、しかもその發表されてゐる作品の多くは只多少の文才があるといふに過ぎない、無自覺な無智な婦人の、婦人生來の纖細な感覺や、感傷的な性情や、器用から出來た「面白い」とか「氣がきいてゐる」とかいへば足りるやうなものであつた。只、僅に文壇にすでに知られてゐる二三の名有る作家の名によつて面目を維持してゐるといふやうな憐れな姿であつた。その間に多くの執筆者が出たりはいつたりした。斯うして「靑鞜」全體の上に見られたと同樣の變化なり進步なりが、同時に執筆者個々人の上に於ても見られるやうになつた。何故なら彼等は自己又は自己の周圍との種々なる戰の間に、次第により眞面目に自己について考へるやうになり、自己の內に向つて深くほつて行くことによつて、益自己を知り、自己により誠實ならむと志すところに、自からその人自身の個性が現はれてくるやうになり、いつか各自の立場といふやうなものも朧げながらも定まつて來たから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

實際二年前の婦人界は今とは餘程違つてゐた。男子の方では—殊に男子の文壇に於ては、既に自然主義の運動とか、個人主義の運動とかによつて一切の因習打破に努めた後、やうやく目覺めたもの達が自分自身の眞實な生活を始めやうとしてゐたにも係らず、當時の婦人界はなほ十重二十重に固められた因習の中に深い眠りを貪つてまだ容易に醒めそうもなかつた。よし多くの婦人の中には多少の先覺者があつたにせよ、それを口外するほどの向ふ見ずを敢てするにはあまりに自己の利害について、又は社會の力について鋭敏な神經を有つた悧巧な人達であつた。社會も婦人の存在すら殆んど認めてゐないかのやうに婦人に對しては全く無關心な態度を示してゐた。否、時に嘲りの笑をもつて答へる位のものであつた。その時私は「原始女性は太陽であつた。」といふ一文(それは今見ると冷汗の出るほど少女らしい幼稚な、粗雜な、矛盾だらけな、思索の餘地を澤山殘したものではあるが、その根本精神に於ては今も同じである)に於て婦人の內的自我の解放を叫び、婦人の自由と光明と生命とを奪つた一切の因習を打破し、道德、習慣、敎育、知識、制度の外に立つて、直ちに自己本來の內的要求にのみ生きよ、自己の內的要求をつき詰めることによつて生命の本源に復歸するを得るであらう。かくして婦人の最も眞正な、そして最も强い、最も美しい自然的な生活が得られるであらう。眞の意味で最も自然的な生活が最も理想的な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

宗教的な生活であるといふ意味のことを云つた。それに對する男子側の不得要領な意見は二三の新聞に發表された。けれど私はもと〳〵男子側の聲にはあまり何の注意も拂つてゐなかつた。

それよりも何かしら婦人側から多少の反響が來さうなものだと實は心待ちに待つてゐた。けれど多くの婦人には、私の言葉は只あまりに狂的なものとして受取られたに過ぎなかつたのであらう、我が明治の婦人界に於ける先覺者の一人である岩野清子氏唯一人から（氏は當時大阪にゐられた、そして私にとつてはまだ全く未知の人であつた。）誠意と同情と涙ある書を寄せて私を勵まして下さつた丈だつた。（尤も私から手紙を出したのだか）氏のこの手紙は私にとつて今も忘れ難いものである。

新聞雜誌などに新しい女といふやうな文字がぽつ〳〵見え出したのはかれこれ一年も後のことである。最初の意味は多少なり社會的地位をもつてゐる女、自分自身の職業をもつて自活してゐる女、獨身の女といふやうなものらしく、そこに別段思想なり、生活態度なりに何の相違もないものらしかつたが、いつかそれは私共青鞜社のものに特に與へられた名稱のやうになり、更に色々の愚かしき意味が附け加へられた。五色の酒を飲むこと、遊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

廓に行くこと、マントを着ることなどは彼等が所謂新らしい女の缺くべからざる資格であると共に、彼等の新しい女に對する嘲笑と侮辱の材料とされ、かくして新しい女は俗衆の好奇心の的となつた。又世の敎育家、宗敎家、經世家、爲政者までも新しい女とさへ云へば只々恐るべきもの、有害なものとして直接間接に攻擊又は壓迫を加へるやうになつた。私の文集「圓窓より」が發行すると同時に曖昧な理由のもとに發賣を禁止され、全く社會的な又は實行的な性質をもつてゐない、只若い婦人の單純な知識欲から計畫された文藝研究會までも終に中止するより外ないやうになつた。これは「靑鞜」創刊後一ヶ年半ばかり後のことである。

私共はこの際、世間が嘲笑と侮蔑の意を籠めて私共の上に被らせたこの名を避けやうとはしなかつた。否私共はその儘それを取り容れて、新しい女を以つて自から任じやうとしたのである。少くとも新しい女たらむことを求めたのである。そして私共は世間に對するときに何の顧慮する處もなく「私は新しい女です」と云つて來た。けれど彼等のいふところの新しい女と私共のいふところのそれとはその內容に於て全く違つてゐた。彼等が數へあげるやうな外的な新らしさは私共には何の意味もないことであつた。私共はそれを內的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な意味に使つた。そして只内的に常に新しい女でありたいと努めた。それは自我の解放された女にのみ望まれることなのはいふ迄もない。

時代の趨勢はもうさういつまでも婦人界にばかり太平の眠りを與へてはおかなかつた。多くの若い婦人達の中にも既に覺醒の機運が向いて來た。それは意識の上に容易に表れなかつた迄も總ての日本の女の心の中に、既に〳〵その準備が出來てゐたかのやうだつた。久しい因習の壓迫のため彼等の胸奥に深く潜んでゐた色々の不滿不平や不安が一時に頭を擡げた。この動搖は都會に住むものから地方にあるものまで、殆ど日本全國の若い女の心を今や襲はうとしてゐるのである。彼等は漸く私共の言葉に耳を傾けるやうになつた、そしてそこに幾分の共鳴を感せずにはゐられなくなつて來た。彼等は自分達の生活が多くの不自然や虚僞の上に立つてゐること、自分といふものがいつもあまりに粗末にされてゐること、などに氣付いた。只自分に對して眞面目な忠實な生き方をしたい、かう願つたとき彼等は否應なしに彼等を取圍んでゐる因習に對して戰を開かねばならなかつた。家族制度や結婚制度を呪はずにゐられなかつた。子は親に、妻は夫に、學生は教師に背くやうになつた。社や私宛にして、自分の現在の生活に對する不滿の心を訴へられる娘や若い妻や、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女學生は日に増し多くなつて、もう珍しいものでもなくなつた。中には家出して來られるやうな思ひ詰めた婦人もあつた。是等の多くの婦人の中には時に婦人のヒステリー的な模倣性に出たもので、眞にその人自分の內的な要求に根をもつてゐないやうな一時的のものも交つてゐることを私は否定しやしない。けれどそれは總てのことに免れ難い例外といふものである。大勢に何の影響があらう。いかほど舊い人達が心配されやうが、危險がられやうが、あらゆる手段を以て壓迫を試みられやうが新時代を妨ぐことは出來ない。若い女の內部に起つたこの精神運動は最早蔽ふことの出來ない時代の大勢である。彼等の要求が眞實なものである以上、その要求は既に刻々に實現されつゝあるのである。

今日の若い婦人で、在來の婦人の生活に、又現在の自分の生活に滿足してゐるものは一人もあるまい。彼等は皆或る不滿と懷疑の中に動搖してゐる。只彼等の中の多くはまだ周圍を恐れ、さまざまな情實にからまれて、それを口に出し得ないといふ迄である。私共は何も女子解放運動といふやうなことを別段に或形式のもとで、具體的に、又社會的にした譯ではなかつたけれど、私共の中に起つた或氣分なり、精神なりが寧ろ却て暗默の間に到る處の若い女の心から心に直接に波及していつたかのやうである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれど今日のこの婦人界に於ける覺醒はいふ迄もなく、覺醒の第一歩に過ぎない。僅に因習打破の時代——古き自己と周圍に對する戰の時代であつて、眞に覺醒した譯ではない。だから彼等の態度はまだ消極的であり、否定的である。何としてもまだ彼等には積極的に主張せらるべき新自己が、新生活がないのである。一度、内に省みたならば、そして何ものよりも重じてゐるその自己がゐまりに肉體的にも精神的にも小さな、貧しい、弱い、慘めなものなのをしみ〴〵と感じたならば心細くならないものは恐らくあるまい。

醒めやうとしてゐる女の中の或者は早くも誤つた方向に走つて、物質的人生觀に囚へられ、單に外部的に解放せられたばかりで却て生命の本源から遠ざかつた。私は曾て「職業的婦人」といふ一文の中で多少書いたやうだが所謂醒めた女だとか獨立した婦人だとかいふものゝ顔に疲勞困憊の影を見る時ほど私は慄然とすることはない。また彼等の中の或者は狹隘な個人主義者となり、相對的な意味に於ける孤獨の中に淋しく座つてゐる。彼等の身邊には絶え間なき不安の影がまつはつてゐる。私はこの意味で岩野清子氏の信じ行つてゐるといはれるあの個人主義に滿足することが出來ない。私も或意味に於て確に個人主義者である、そして自己の孤獨の感を常に味ふものである。けれど私は清子氏の云はるゝ如き相對的境地にあつての個人主義には到底安ずることが出來ない。醒めた者の必ず一度は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

通過せねばならぬ境地だとは信ずるけれど、私は多くの近代人と共にさういふ孤獨や不安に長く堪へてゐやうとは思はない。私の求める個人主義はもつと個人といふものを最後までつき詰めることによつて、そして出來る丈擴大することによつて得られる自己の絶對境地に立つての個人主義でなければならない。その孤獨とは唯我獨存のそれでなければならない。太陽の孤獨でなければならない。(私は御良人岩野泡鳴氏の思想及生活の中にはおのづから絶對の境地の開けてゐることを早くから認めてゐる。)清子氏は或は人間の生活の中にかういふ境地のあることさへ御認めにならない方かも知れない。けれどそれは氏の考へられるやうな夢ではない。イリユージヨンでもない。最も確な現實である。思ふに氏はあまりに理知的なのではあるまいか。氏の思想、生活には今一歩破らねばならぬ堅い殼が殘されてゐるやうに思はれてならない。私とても個人の要求の何よりも重ずべきこと、個人の生活の充實をまづ第一とせねばならぬことを主張する點に於て氏に讓らない。けれど個人の要求は同時に人類的な又宇宙的なものでなければなるまいといふ。私共は自己の根本要求の中に人類の要求を、宇宙の要求を、個人の生活の上に人類の生活、宇宙の生活を悟るべきではあるまいか。此處まで來なければ個人の要求もその生活もあまりに根ざしの淺い、はかないものに過ぎなからう。宇宙生命の本源を離れて個人に何等の力があらう。個

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人の充實といふことも個人の生活の中に絶對の天地を所有しえないものにとつては畢竟空なる文字に過ぎぬものではあるまいか。

私は新しい女の新宗教を思ふ。彼等のからだと心の總てを一つぱいに滿たす「光」を求める。

（三、九、一五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

嘉悦女史の西洋の廢物について

雑誌記者の無責任極まることは今更言ふ迄もないけれど、古い寫眞等を盗み出して、勝手な題目をつけて捏造事を、大袈裟に書き列られて世間の無智な人の好奇心を騙つて購讀する様に、覺醒した女性を玩具扱ひにして居る、實に憎くむべき、奸手段、陋劣さ、それを眞に受け取つて自から古い女と、名乘り上げ自己の無智無能を世間に發表して平氣で居る世間師よ、！

彼等を相手にすべく私はあまに懸け隔てて居る。淑女畫報と言ふ隨分陋劣な、毎號世間を欺いて、賣りさいすればよい、一冊でも多く賣り度い主義の雜誌を、七月下旬、下谷坂本町三丁目の緣日の夜店から、白銅貨を一ッ投じて買つて來た。今私しの言ひたいのは其の中の、女の働きぶりと題する嘉悦孝子女史の話しについててあす。

「西洋の廢りものの二十世紀や、人形の家が上場されましてから若い女の態度が俄かに變つて來ましたが、甚だ寒心すべき事でございます。

獨逸に二十年ばかり滯留してこのほど歸朝した知人の話によりますと、二十世紀の如きは向ふでは既に人が排斥して振向きもしない時代後れのものであるのに我國ではこれを今新しがつて騒ぎ立ててゐるのは甚だ心外です。これをいいことにして我國の若い婦人が俄かにこの眞似をし始めたのは甚だ遺憾のことでございます。日本の婦德がございます。それを忘れて西洋風にかぶれることはあまり感心すべき事ではありません。女はやはり女らしく貞淑でなければなりません。飽く迄家庭の人でなければなりません。私は飽く迄日本主義でゆきたいと思ひます。日本主義を實行するところに日本婦人の特色があります。」

之を讀み終つた時、その無智、無能、馬鹿々々しさに呆れ返つて仕舞いました。教育家などゝ世間から祭り上げられ自からも信じて、保守的に後向きして前進してゐる現代教育家諸氏の代表的言葉ではあるけれど　何といふ氣の毒な人だらうとも思ひました。

心外でございますさか遺憾でございますとか繰り返したり、日本には日本の婦德がございますさか、絶叫したり。して居られるのが、厭に私のしやくにさわつた。勿論、女史には何んの痛痒あらう筈が無い、で私は——御伺ひいたしませう。

新しい人と思はれることが夫程恐ろしいのですか、夫程、女史の人格に影響を及ぼすものと考へて居らるゝのですか、又女史は人から、古い女と思ふて貰ひ度いの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ですか、と。

夫れは弱い女の叫びです。女は弱いものと言ふ事を自から是認し且つ自己に適用した女史自身の弱い泣聲です。一面に於て保守的精神を衒ふ。そうして自己を無意義に沒却して仕舞つた。之は失禮な言分かも知れません。けれど、あなたのやうな方に多くの者は子女の教育をお托しゝておくことをあまりに氣付かつて申すのです。生意氣な女と仰しやるでせうが、でも眞理です。

いかゞでせう――夫れでこの記事の何處かに女史の感觸を害するものが潛んで居たら覺醒を促した言葉であると解釋して下さい。

勿論この意味に於てこそ意義のあるもので之を措いて何の目的もありません。

最う少し言はして下さい。女史には、ノラの心がわかりますか？　嘘(うそ)です。女史方の樣な無理解の人に何んで首肯(わか)るものですか。もつと、もつと、女史は自己に對して眞面目に忠實にならなければわかりません。私は所謂付の新しい女は最も恐れ且つ憎んでゐる一人です。

お前の觀察は皮相に過ぎないと、仰しやるでせう、尤も未だあなたとは一面識すらありません。

然しその人の片言隻語も之を批評し得ることは、言ふ迄もありますまい。しかも之を凡て皮相なりと難じ去るとすれば、生意氣女と、怒號して憤を晴らす愚人の心情と、五十步百步ではありますまいか。どうぞ〳〵よく御反省なさつて下さい。あなたは責任ある女子教育者ではありませんが、まづ第一に若い女の心を知られればなりますまい。

――蒲原房枝――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「牡丹刷毛」を讀んで

先日拜借してまゐりました松井須磨子樣の「牡丹刷毛」をさく晩拜見いたしました。

あれは讀んでしまつたら讀んだ上の感想といふやうなものを書くやうにとお仰つて借して下さいましたのですね。あたくしは安うけあひに——讀みたかつたので「ええ」なんて申して拜借してまゐりましたのでしたつけね。けれど、後になつて、少しよせばよかつたと思ひました。けれどお約束でございますから——それに今月はどうしても外のものが書けませんので、あれも書けないと申上るのはどうも義理が惡いやうで、ございますので、まあ讀んで了つたあとの心持といふやうなものでも申上やうかと存じます。

まづあたくしの面白くおもつたのは、あの本の夫々出てゐる寫眞でございました。だんだんに藝術的にある程度までレフアインされて行く人の顔といふものにたまらない興味をもちました。それから一番おかきになつたもので好きだつたのは「女蝶」といふ小説でした。一番いやだつたのは伊勢へいらしつた時の日記のやうなものでした。何ぜなら、あすこに書いてある、おこん貫の芝居なんかゞ——あたくしの大好きなおこん貫の芝居の話なんかを大そういゝかげんなめちやくちやなことが書いてございますのですもの。

それから一番おかしかつたのは「マントきてわれ新らしき女かな」でございました。ずいぶんあの方はのんきでございますね。あたくしはふつと一人で笑ひ出して了ひました。

まあ全體のかんじは、あのつゝみがみの西洋紙に石はんですつてある千代かみのやうな感じでございますね。あの模樣の千代紙はあたくしが大すきで、あたくしの手まわりのものを入れとく箱にはつてあるのと同じでございます。それが石ばんずりにされたかと思ふと、前の「おこん、貫」くらいいやな氣もちがいたしました。

そう〳〵あれには何か序がついてをりましたね。何でも大そう著者をほめてある序でしたね。——昔の草双紙の作者がじぶんの家にうつてゐる化粧水の廣告をすましてかきこんでゐることを思ひ合せて、なんだかあたしは面白くなつて了いました。

あたくしの讀んだ後のこゝろもちはこんな事でございます。——

もう秋らしい涼風がふきますね。これからが本をよんでも、しみ〴〵と身にしみてよめる時になるんでございますね。ではさよなら。

——哥津——

らいてう樣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□私は何よりもまづ先に皆樣に御詫びをしなければなりません。それはさうさ九月號の出せなかつたことです。九月一日に出す筈のが色々の事情――經營上の――のため十五日に出すことになり、その十五日がまた少し遲れて、製本の出來るのが　十八日頃になつたので思ひ切つて十月一日發行さいふことにして仕舞つたのです。それでつまりは九月號を休んだといふやうな形に事實の上ではなつたのです。原稿の方ははやく集つてゐたのをとうとこんなことにしなければならなかつたのをほんとに殘念に思ひます。何といつても只今の處編輯から校正から會計庶務の全部を私の手一つでしてゐますので、責任ばかり重くて、かういふ仕事をとることに全く不馴れな私はいつも力の方が足りないのです。それに兩親さ別居して以來は生活の方の心配もすこしはしなければなりませんし、小さな家でも自分の家を持つて見ればまたそれ相應な家の中の仕事も增えて參つたので、全くのさころ少しまごついで仕舞つた譯なのです。落着いて物を考へたり、讀んだり書いたり、郊外を散步したりする時間がなくなつたのが、私には無性に悲しまれて來たのです。野枝さんは野枝さんでお子さんの世話や、家事のことや生活のための仕事で、私などとても及ばぬほど多忙な日を送つてゐられるので、その中で原稿を書かれるといふことがごれ丈の努力だかしれないさ思ふととても手傳つてくれさいふやうなことは私には言ひ出せなかつたのです。それて適當な書店に托した方が社の發展のためにも、私一個の都合上からも一番いゝことだと思つて、そしてさうするならば紀念號からにした方がきまりもいゝと思つて、私は幾つかの心當りの書店との交渉に專ら力を入れて見たのです。そんなことをしてゐる中に私の例の頭の壓迫がひどくなつて、烈しい頭痛さへ一緒にやつて來ました。私は一週ばかりは散步をしたり、座つてみたり、寢てみたり生き苦しい思ひをして病氣さ戰ふより外仕方がなかつたのです。その中に時は用捨なくたつて行きました。こんな始末でこの夏は暑氣と多忙と病氣と貧乏の中でまごついてゐたので旅行や避暑などに出かけたための休刊とは事情が全く違つてゐるのですから、御推察の上御許し頂きたいと思ます。

□九月號未着の御葉書に對し一々御返事をさし出しませんでしたこともこゝで御詫びをいたします。

□紀念號にのせる筈のもので編輯の都合上次號に廻したものもおりますから御承知を願ひます。

□補助團は都合により暫く會員の募集を中止しました。

□この間九月九日は妙義樣の御祭だつたので皆集つて一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

晩賑やかに話しました。林千歳さん、生田花世さん、上野葉子さん御夫婦、野上八重子さん御夫婦や岩野さんや小倉(清三郎)さんや音樂家の原田さんなども見えました。

□交換廣告をのせることの出來なかつたところの多かつたのを御ゆるし下さい。今度は九月二十日に雜誌をこしらへ上げて仕舞つたので原稿が間に合はなかつたのです。いづれ其內に御埋め合せしたいと思ひます。

□染井もだん〳〵よくなります、野にも、森にも巷にも秋が來ました。私達の內生活の上にも收穫の多いことを祈ります。

□この間或雜誌を見たら誰れだつたか忘れましたが、らいてう氏の共同生活は何も新しいことではない昔からある野合と同じことではないかといふやうな冷かしがありました。「新しい」といふことを只外的に見てゐるからこんな淺薄な言葉も出るのでせう。私は外的な新しさなどを考へて見たこともありません。けれど私はその方にかう申しませう。當人同志の間に愛がなくて只他から認められる合法的な所謂「結婚」よりも「野合」の方がどれほど純だか、眞實だか、それ自身に價値があるか。かういふ意味で野合といふやうな下等な言葉も私達には何の非難にもならないのです。私達は立派な結婚をしたといはれるよりも寧ろ野合だといはれるのを名譽にする位でせう。(らいてう)

消息

□野上彌生子氏は御子樣達をつれて歸國。上京は來年三四月頃の由。

□伊藤野枝氏は小石川竹早町から又染井へ歸つて來た。今野上さんの御留守宅にゐられる。

□奧村博氏は個人展覽會を九月廿三日から五日間日比谷美術館で開く。

□小野(保持)研子氏の住所は巢鴨町一二二四。

□福村鐵太郎氏早川一郞氏等にて十一月より會員組織の雜誌「平民藝術」を創刊する由。事務所は本郷區駒込千駄木町百二〇、平民藝術社。

□「新潮文庫」の發刊　新潮社にては泰西名著の全譯叢書「新潮文庫」を發刊せり。袖珍總六號一册二百頁、定價は二十五錢均一とし、長篇は數册に分つ。文藝のみならず哲學•科學•宗敎の各方面に亘り、第一期を百册とし、毎月三册乃至五册を續刊すといふ。既に發刊せるものは、トルストイの「人生論」(御風)、ゲエテの「ヱルテルの悲み」(秦豐吉)、ツルゲネフの「初戀」(生田春月)「イブセン書簡集」「吉藏」「マルコポーロ旅行記」(敏郞)ドストイエフスキイの「白痴」(米川正夫)、ダキン「種の起原」(大杉榮)等也。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寄贈書籍

若き雄作の悲しみ（定價壹圓五十錢）　辰已正直著　春鳥社發行

底の社會へ（定價壹圓參拾錢）　小川未明著　岡村書店發行

自然の扉（定價七拾錢）　荻原井泉水　東雲堂發行

寄贈雜誌

中央公論　白樺　藝美　女學世界

新思潮　現代の美術　六合雜誌　近代思想

我等　新潮　女學雜誌　藝文

生活と藝術　人生と表現　詩歌　層雲

婦女新聞　早稻田文學　みづゑ　蛇の舌

婦人の友　帝國文學　東亞藝術　心の花

第三帝國　假面　新人　眞新婦人

反響　新女界　三田文學　卓上

新佛教　俳味　アララギ　創造

文藝復興　婦人文藝　サンデー　東洋哲學

新紀元　中外日報　娠子軍　國民文學

赤い壺　地上巡禮　共鳴　塔

自由講座會員募集

第一學期十月開講

一週二回四時間

近代批評史　生田長江氏

西洋劇壇の現狀　小宮豐隆氏

近代文學主潮　片上伸氏

美術の新傾向　齋藤與里氏

ベルグソンの哲學　中澤臨川氏

舞臺建築の研究　後藤雞兒氏

近代文學に描かれたる戰爭　馬場胡蝶氏

オスカー•ワイルド　平田禿木氏

會費、一ケ月一圓束脩五十錢（前會員は束脩不要）

會場、小石川區上富坂町　普及福音教會

申込所、府下巢鴨一六九三　自由講座事務所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年九月二十日印刷納本
大正三年十月一日發行

東京府下巣鴨上駒込四一一
青鞜社內
編輯兼發行人 中野初

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
印刷人 篠田玉三

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
印刷所 大正社

禁轉載

發行所 東京府下巣鴨上駒込四一一 青鞜社 振替東京二一一一六番

發賣所 神田表神保町三番地 東京堂 電話本局四五六一番 振替東京二七〇番

特價三十五錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靑鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を靑鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置

第四條　本社は係員、社員、賛助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、每月一回機關雜誌靑鞜を發刊すること。「靑鞜」には係員、社員、賛助員の寄稿を發表す。(但し補助團員の生活及思想を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

一、每年一回大會を開くこと、(但し賛助員は出席隨意たるべし)大會には賛助員を招待し講話を請ふことあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を遂するため別に補助團を組織す。

第六條　係員、社員、賛助員は女子に限る。

第七條　係員は本社の目的に賛同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己に その責任を負ふものとす。

第八條　係員は每月「靑鞜」の配布を受く。

第九條　係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　每年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に賛同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「靑鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齢の外に履歴の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と(小說、戯曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし。)最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　賛助員は本社の目的に賛同し、雜誌「靑鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。賛助員は每月靑鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて募集す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■ 奥村博作品 ■

油畫展覽會

私の生活の上に一轉期が來たやうに感じられます。從つて私の畫の上にも或る變化がこやうとして居ります。私は今過去の自分に最後の別離をし、此處を私の第一步として新しい道に向つて步みはじめやうとするに當つて、その道標として第一回の作品展覽會をいたします。一九一三年から一四年の二年間の作品でございます。私は再び是等のものに會はうとは思ひません。どうぞ私の將來の爲めに是非見て頂きたいとおもひます。

九月廿三日より廿七日まで

日比谷美術館

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靜岡縣農學士 金原明善翁題字
農學士 合志修敬氏序文
農學士 熊谷八十三氏校閲
石垣清一郎氏著述

最近 花壇草の研究

中判頗美裝
原色版口繪入
用紙上等印刷鮮麗

特價四十錢 送料六錢

讀者よ。試みに晨に起出で丶翠綠滴らんずる鮮葉の裡に隱見する花蕾をかぞへ。夕べ務了へたる庭園の散策に、白露星滋き邉。芳香蛾を誘ふも夢の如き草花の情趣をうち眺むる課業ありとせば。そは如何なる勞働の後さ雖も。恐らく爽快なる氣分と活潑なる勇氣とをもて、起たればならぬ服役ではあるまいか。――著者

內容概目

第一編草花。緒言。第一章春の卷。諸草。水仙。香菫。三色菫。チユーリップ。撫子。石竹。セヤシンス。菖蒲。溪蓀。杜若。雛菊。勿忘草。アネモネ。矢車草。金盞花。除蟲菊。翠菊。牡丹。芍藥。クロッカス。百合。金雞草。水仙翁。ケマン草。虞美人草。第二章夏の卷。花菱草。香連理草。ダーリヤ昇り藤。水玉蘭。薔薇。睡蓮。金蓮花。グラジオラス。百日草。松葉菊。万壽菊。鳳凰菊。花輪菊。天人菊。金魚草。築羽根草。松葉牡丹、千鳥草。貝細工。第三章秋の卷。亞米利加風朝草。コスセス。草夾竹桃。月見草。女郎花。雞頭。朝顏。第二編栽培。第一章種子の取扱。種子の購入。種子の貯藏及摘採。種子の鑑定及試驗。播種の季節。第二章草本の取扱。苗床と播種。花壇。移植。鉢植、宿根の植付時期。第三章手入及早咲。株分。肥料。灌水。早咲法。變咲法。接木。挿木。手入。球根植物の手入。球根の貯藏。球根の植付。根分。蛾蟲と其驅除。器具。第四章野草の栽培。野野の改良。移植。栽培。人工媒助。日本の野草。第五章花の用途。夜會の草花。西洋花と西洋●花。料理と草花。手工と草花。食卓と草花――(等)

發行元 東京京橋南傳馬町 有隣堂書店
(振替東京六六九六番)
(電話京橋一〇五五番)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新しき思想の傾向を知るには近代劇に如くものはない、近代劇は最新思潮の流れの方向『生命の流れ』の現狀を空論的でなく具體的に活寫せるものである。此書は近代劇の中にて最近世界の耳目を聳動せる大傑作を短く面白く讀み易き物語風に書き砕いたもので、原作を讀むよりも時間を要せず而も得る所は同一である。苟も新社會に活動せらるゝ紳士淑女は必ず一本を懷中せらるべきである。

新刊

近代劇物語

四六判美装

價　巻一 金六拾五錢　巻二 金七拾錢

郵税　巻一 金六錢　巻二 金八錢

何れも普通小説を讀むが如くにすら／＼ご全篇の筋を味ふことの出來る重寶な本である

巻一

ワレン夫人の職業　ショー
青い鳥　マーテルリンク
海の婦人　イプセン
暗の力　トルストイ
サロメ　ワイルド
原作者評傳
原作者語錄

巻二

沈鐘　ハウプトマン
モンナブンナ　マーテルリンク
やもめの家　ショー
父親　ストリンドベルヒ
ハンネレ　ハウプトマン
ロズメルホルム　イプセン
原作者評傳

東京京橋區銀座一丁目　日本圖書株式會社　郵便振替東京二一九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

十月號

俳味

毎月一回
一日發行

■おもかげ帖……沼波瓊音
■疑問の任口……志摩鳥阿
■叔父の行方……中村其外
■汁の實……都田蠻六
■夜更かし……長尾素枝
■私解芭蕉の發句……沼波瓊音
■僕の倦みたる朝鮮の風物……野崎小蟹
■俳句十講……岩田月葉
■洒竹手記……故大野洒竹
◎俳句　◎俳歌
◎附錄、ベルタガアラン夫人……藤澤修二譯
◎裏繪、三階から……野上白川

▲見本、往復端書にて申込あれば贈呈

定價　一部廿錢 郵税壹錢　三月分税共 金五十五錢　半年分税共 金壹圓　一年分税共 金貳圓

發行所　東京本郷西片町十（振替東京三四三四番）　俳味社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三越の新館成る

帝國首都の中央、日本橋々畔の白色宮たる三越呉服店は、千百六十七の日子と、二十二萬人の勞力とを費して、こゝに全く落成を告ぐ。

地に入ること三十有餘尺、天を摩すること百七十尺、地下室より屋頂階に及んで實に七階、塔に上れば東京市中を一眸に萃め、不二山は正に指呼の間に在り。

店内の設備は、泰西科學の粋を聚めて、便利と快感とを兼有せしめ、且新に、食料品、鰹節、茶、花の營業部門を設記せり。三越呉服店は、此新館を建築し得たる事を以て一に華客各位の庇護に由るものと、深く感謝の意を表すると共に、今後一層の努力を以て、此恩眷に報ひん事を期す。

三越呉服店は十月一日を期し、此新館の戸を開放す。其一刹那より永久に渉つて、華客各位の御來臨の益々繁からんことを希ふ。

東京

三越呉服店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年5月30日発行　　【第9回配本】

青　鞜　第 4 巻　10月号

編著者　平塚　らいてう
発行者　藤原　正人
発行所　(株)明治文献
印　刷　江明印刷
製　本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.4
no.9

University of Colorado at [redacted]
[redacted]8304 6746458

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第四卷
大正三年十月一日發行（毎月一回一日發行）第九號
育　輯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第四卷
大正三年十一月　日發行（毎月一回一日發行）　第十號

青鞜

十一月號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER